

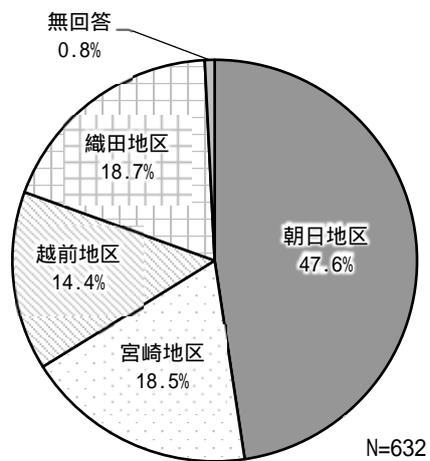
第1章 就学前児童 ニーズ調査結果

1-1 住まいの地域

問1：居住している地域

お住いの地区について尋ねた。

「朝日地区」が47.6%で最も高く、「織田地区」18.7%、「宮崎地区」18.5%、「越前地区」14.4%となっている。

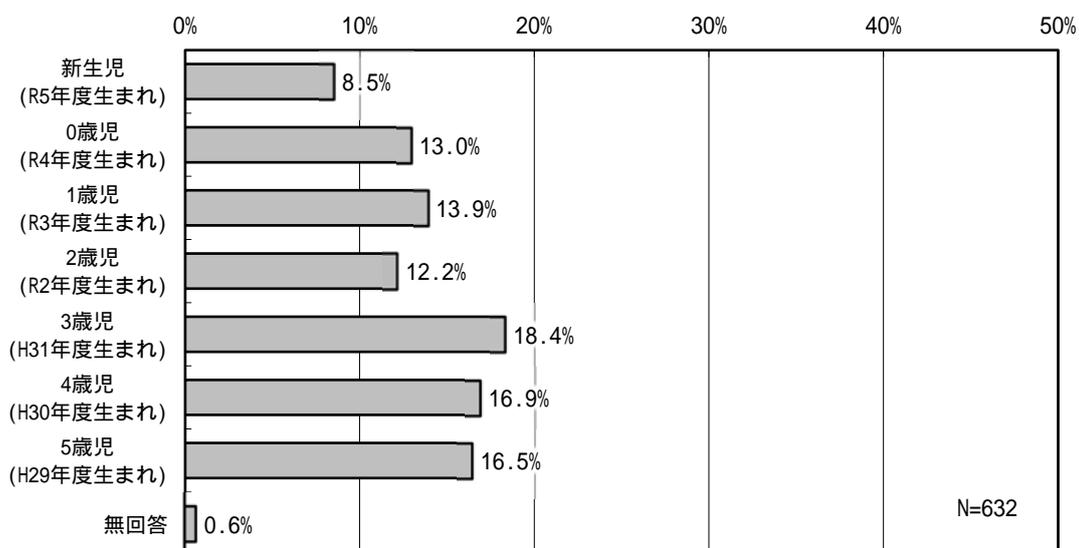


1 - 2 子どもと家族の状況

問2：子どもの生年月

調査対象児童の年齢について尋ねた。

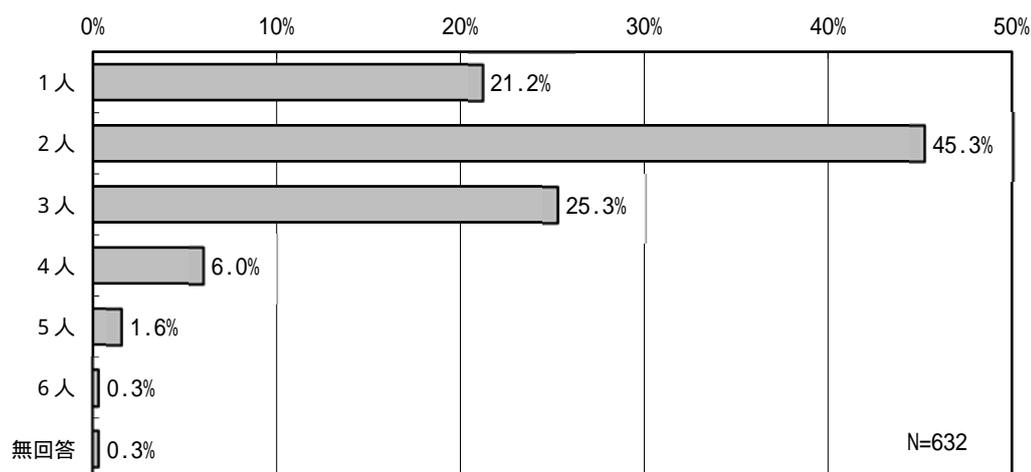
「3歳児」が18.4%で最も高く、次いで「4歳児」が16.9%、「5歳児」が16.5%となっている。



問3：子どもの数

子ども全員の人数について尋ねた。

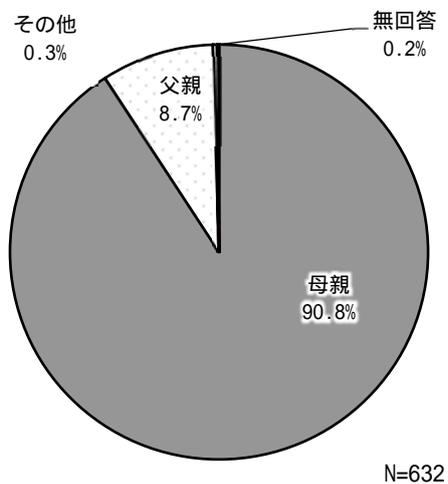
「2人」が45.3%で最も高く、次いで「3人」25.3%、「1人」21.2%となっている。2人きょうだいが全体の半数近くを占めている。



問4：回答者の続柄

調査対象児童と回答者の続柄について尋ねた。

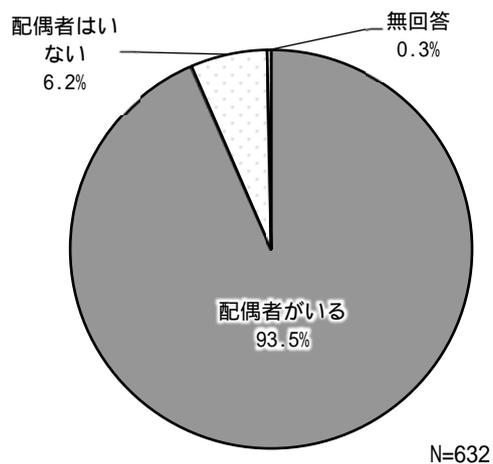
「母親」が90.8%で最も高く、次いで「父親」8.7%となっている。



問5：回答者の配偶者の有無

回答者の配偶者の有無について尋ねた。

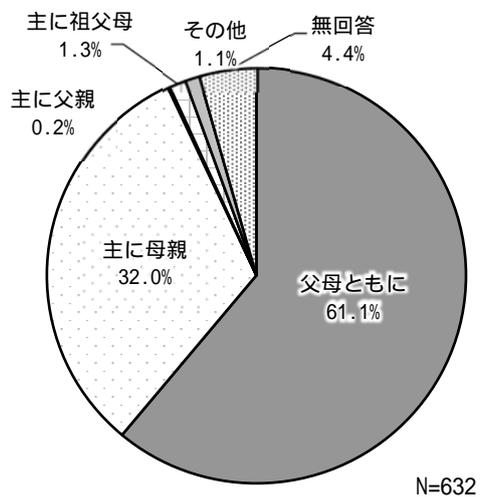
「配偶者がいる」93.5%、「配偶者がいない」6.2%となっている。



問6：子育て（教育を含む）を主に行っている保護者

調査対象児童の子育てを主に行っている方を尋ねた。

「父母ともに」が61.1%で最も高く、次いで「主に母親」32.0%、「主に祖父母」1.3%となっている。

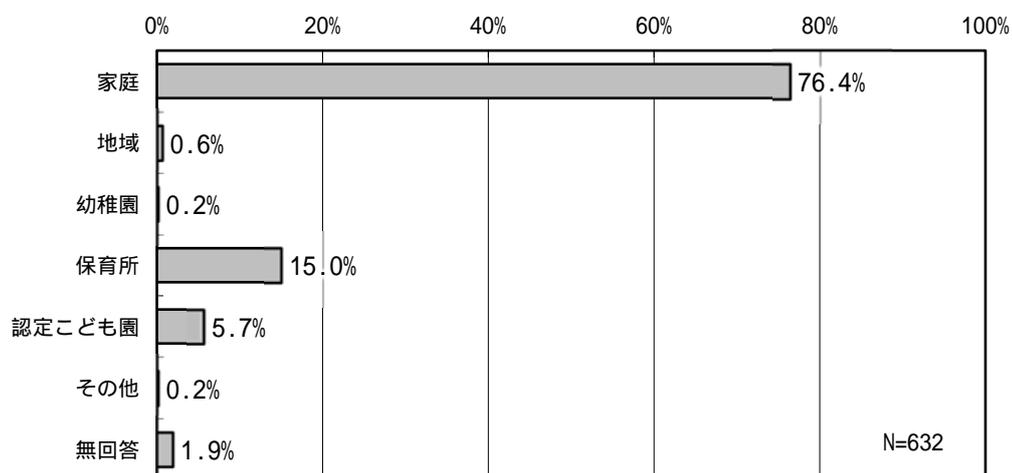


1 - 3 育ちをめぐる環境

問7：子育て（教育を含む）に最も影響する環境

子育てに最も影響すると思われる環境について尋ねた。

「家庭」が76.4%で最も高く、次いで「保育所」15.0%、「認定こども園」5.7%となっている。



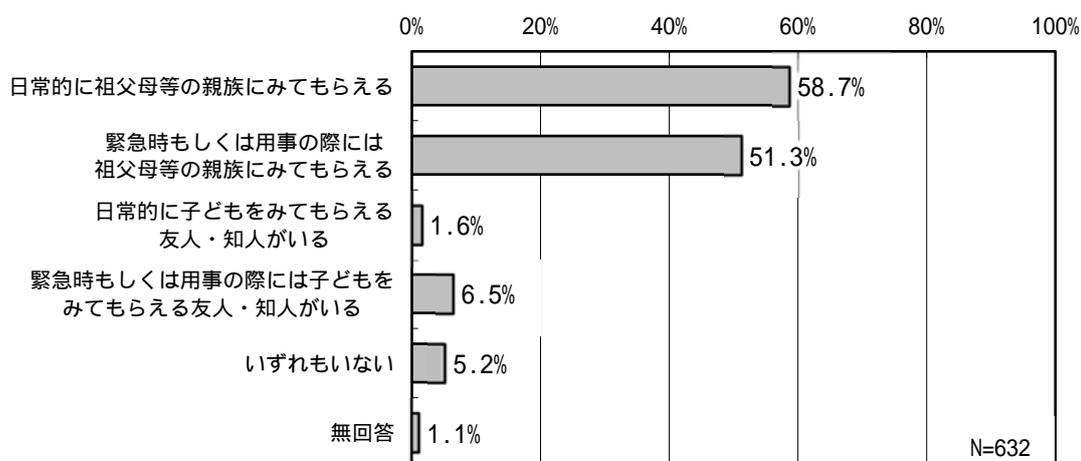
問8：子どもを預けられる親族・知人の有無（複数回答）

保護者に対し、日常的あるいは緊急時の子どもの預け先について尋ねた。

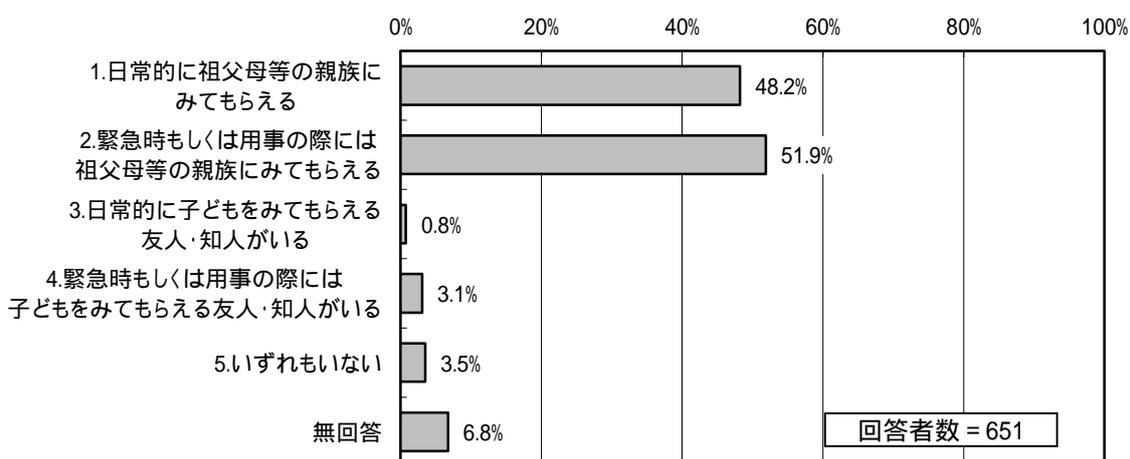
「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が58.7%で最も高く、次いで「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が51.3%となっている。

これに対し、5.2%の家庭が「(預かってもらえる友人・親族が)いずれもない」となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が約11ポイント増加している。



【平成30年度調査結果】

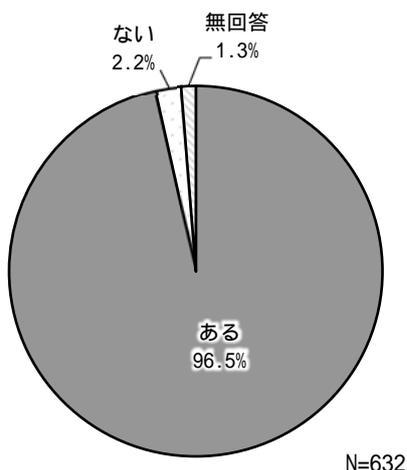


問9：子育ての相談相手の有無と相談先

子育てに関して気軽に相談できる先の有無と、また相談できる先が「ある」と回答した方に具体的な相談先を尋ねた。

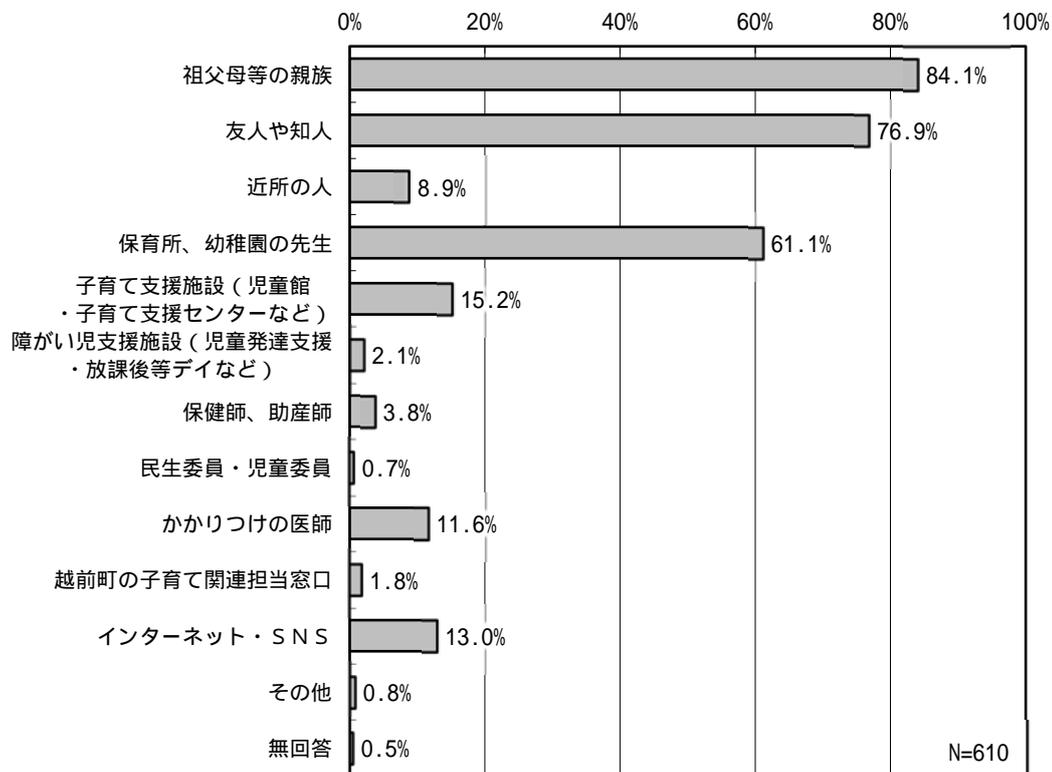
子育ての相談相手の有無

「ある」が96.5%、「ない」が2.2%となっている。



子育ての相談先（複数回答）

「祖父母等の親族」が最も高く84.1%、次いで「友人や知人」が76.9%、「保育所、幼稚園の先生」が61.1%となっている。



問 10：子育てをする上であればよいと思う周囲のサポート（記述式回答）

（1）保育サービスについて（85 件）

- 病児保育や病後児保育の充実を求める意見が多くなっている。
 - ・病児保育を充実させて欲しい。
 - ・風邪症状があり保育所に預けられない時に、気軽に預かってもらえる施設等が身近にあると助かります。
- 保護者の病気や用事、リフレッシュ時に利用できる一時預かりやベビーシッターを望む意見が多くなっている。
 - ・母親だけが負担にならないように、送迎やシッターサービスの充実がもっと必要。母親がリフレッシュするために、子供を見てくれる施設が土日も営業していたり、保育所等とは違う施設を気軽に利用できる環境が欲しい。
 - ・父母が体調不良などで育児が困難な場合に、子供を見ていただける環境。
- 子どもの習い事やスポーツ少年団等への送迎サポートを求められている。
 - ・兄弟がいるのでそれぞれの習い事の際、全員を連れていかなければならず、大変なので一時的に預かってもらったり、同行してもらおうなどのサポートがあると助かります。また、送迎してもらっても助かります。
 - ・常にサポートというより、必要な時にちょっと助けてもらうくらいがうれしいです。

（2）相談・交流の場について（41 件）

- 子育て支援センターについては、土・日曜日の利用を希望する意見がある。
 - ・土日も子育て支援センターが利用できたら嬉しいです。夫が土日仕事で実家にも頼れない時に、一日中1人で家事や育児していると精神的にも体力的にも疲れてしまうので、付近にふらっと立ち寄れる子育て支援センターがあると良いと思いました。
 - ・平日は越前町内に支援センターがあるのでいいが、土日祝日は支援センターが休みのため、越前市や福井市まで遊びに行かないといけない。土日町内に室内の遊べる所があるといい。
- メールやライン、電話等を活用し、何時でも相談できる環境が望まれている。
 - ・メールやLINE、チャット等でいつでも相談できるようにして欲しい。
 - ・本当に育児が辛くなった時、泣いている子供の横で私も泣きながら途方に暮れたことが何度もありました。精神的にも参ってしまい、冷静な判断が出来ない状態だったと息をします。そんな時、強く強く「誰か助けて！」と思いました。SOS 出来る電話などがあればと思いました。（子育て 119 番みたいな）
- 定期的な家庭訪問や相談の場を設けてほしいという意見が多い。
 - ・2ヶ月検診のように自宅訪問型の検診や相談する機会をもっと頻繁に設けてほしい。また、同じ月齢の子たちが集まって相談できる場を定期的に設けてほしい。
 - ・月に1回程度の心理師や栄養士、助産師等と話しができる機会があれば良いと思う。（個人で話がしたいと思う時に電話等しかできないのがあまり良くないので家とかに来てほしい）
- 子どもとともに、保護者も交流できる場やイベントが求められている。
 - ・乳児の時の離乳食教室のような感じで、同じ年ごろの子育てをする親子で集まれるイベントのようなものがあると良いと思う。
 - ・子供だけではなく親同士が交流する場などがあればうれしいです。私の場合、遠方にし

か親族・友人がおらず少し寂しく思うことがあります。

○子供の発育、発達、関わり方等の育児に関する情報を講演会や教室の開催を望む意見もある。

- ・子供の発育、発達、関わり方に関する講演などがあると幅が広がると思います。
- ・年の近い子どもや親が集まれる、集いの案内が届くと行きやすい。保健師など子育てについて、アドバイス等をしてくれる人の訪問やアンケートの実施。

(3) 経済的支援について (23件)

○子育てに関する経済的支援や、保育料等の経済的負担の軽減を求める意見が多くみられる。

- ・金銭面のサポートが一番だと思います。お金があれば働く時間を少し減らしたり、サポートを受ける為の料金に使ったり。
- ・保育料が高すぎます。3歳未満は収入に応じてになっていますが、共働きが多い現代見直すべきです。子どもへの助成金は、3歳になった月から15000円から10000円に減額されるのに、保育所では満3歳まで保育料がかかるのはおかしくないでしょうか。4月生まれの子供は特に不利だと思います。

(4) 子どもたちの遊び場・居場所について (19件)

○子どもが安全に安心して遊べる場、土・日曜日でも室内で遊べる場が望まれている。

- ・安全第一で色々な経験をさせて頂けるサポートがあるといいと思います。
- ・町内で土日でも室内で遊べる施設があると嬉しい
- ・気軽に子連れで行ける場所がもっと町内にあると良い。全天候型の遊び場が、4地区にあると良い。

(5) 仕事と育児の両立について (13件)

○子どもの病気時には仕事を休みやすい職場環境を望む意見が多い。

- ・子供の病気で仕事を休む際に、快く休ませてもらえるような職場の体制が整っていること。そのような会社に対して、町が支援や金銭面でのサポートをするなど。
- ・旦那側の仕事(職場)の子育てに対する配慮。夫・パートだけを対象としたセミナーで、母体のことや子育ての大変さを学べる機会を作って欲しい。

(6) 情報提供について (7件)

○小学校や学童保育、習い事等に関する情報が求められている。

- ・就学前に小学校の生活について詳しく聞けると有難いです。学童保育の利用についても詳しく知りたいと思う。
- ・習い事などに関しての情報を知る術が欲しいです。また、スポーツ系の習い事をまちの情報誌に載せていただいています。選択肢が狭く近隣の市町の情報を知ることが出来ないかと思います

(7) その他 (15件)

○小児医療体制や地域活動に関する意見がある。

- ・病院の待ち時間がもう少し減ると良い。
- ・日曜や夜間の緊急病院がパリオの近くでは遠すぎる。
- ・強いてあげるなら、地域等の活動に対する負担の軽減。

(回答者数=192人、回答件数=203件)

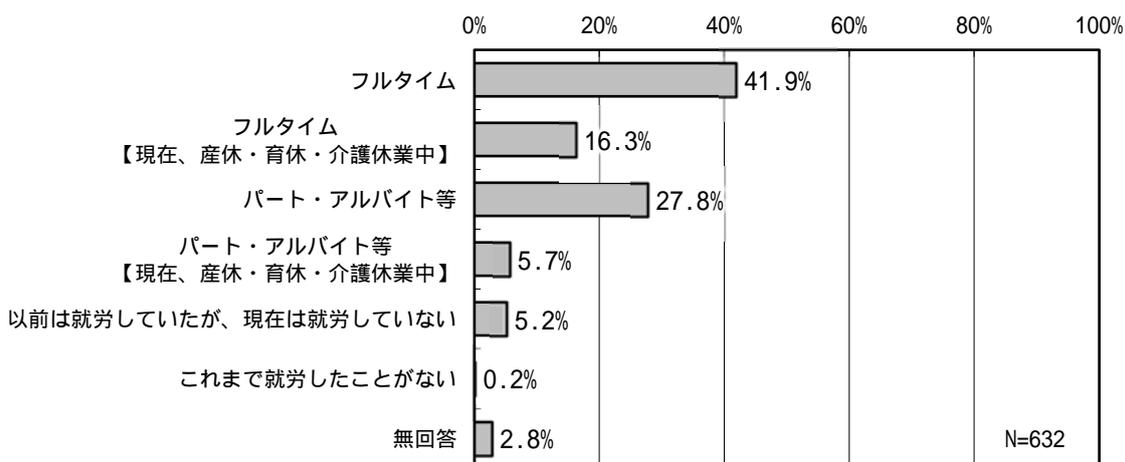
1 - 4 保護者の就労状況

問 11：保護者の現在の就労状況

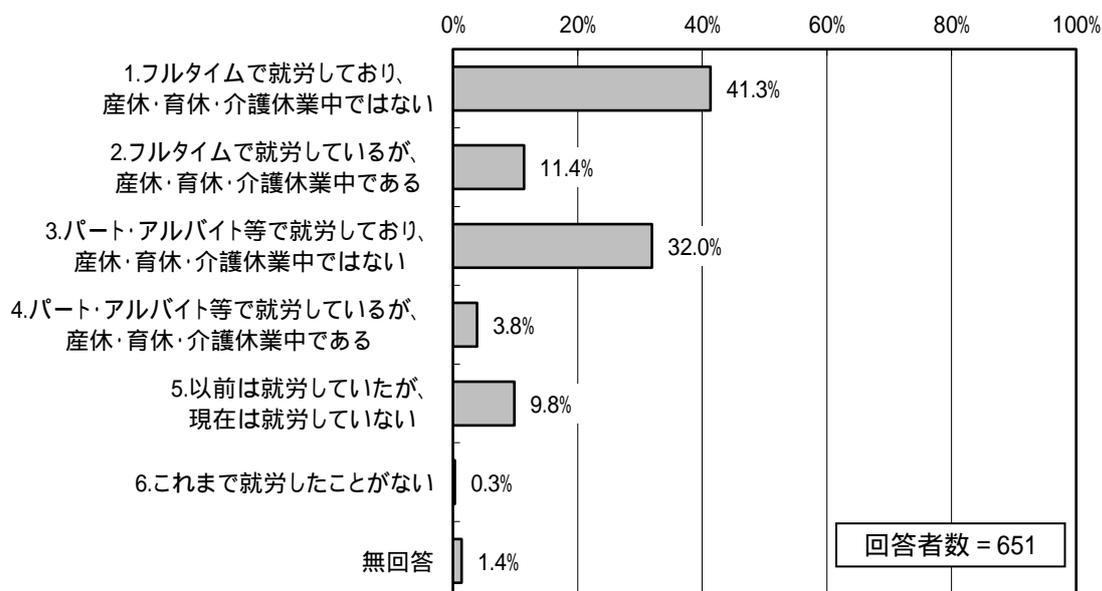
保護者の現在の就労状況について尋ねた。

(1) 母親の現在の就労状況

「フルタイム」が 41.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等」が 27.8%、「フルタイム【現在、産休・育休・介護休業中】」が 16.3%となっている。

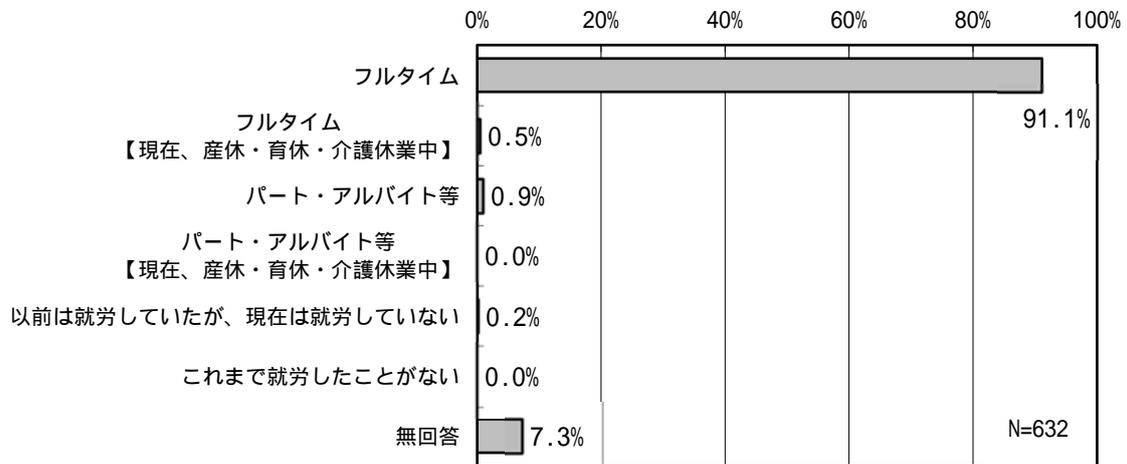


【平成 30 年度調査結果】

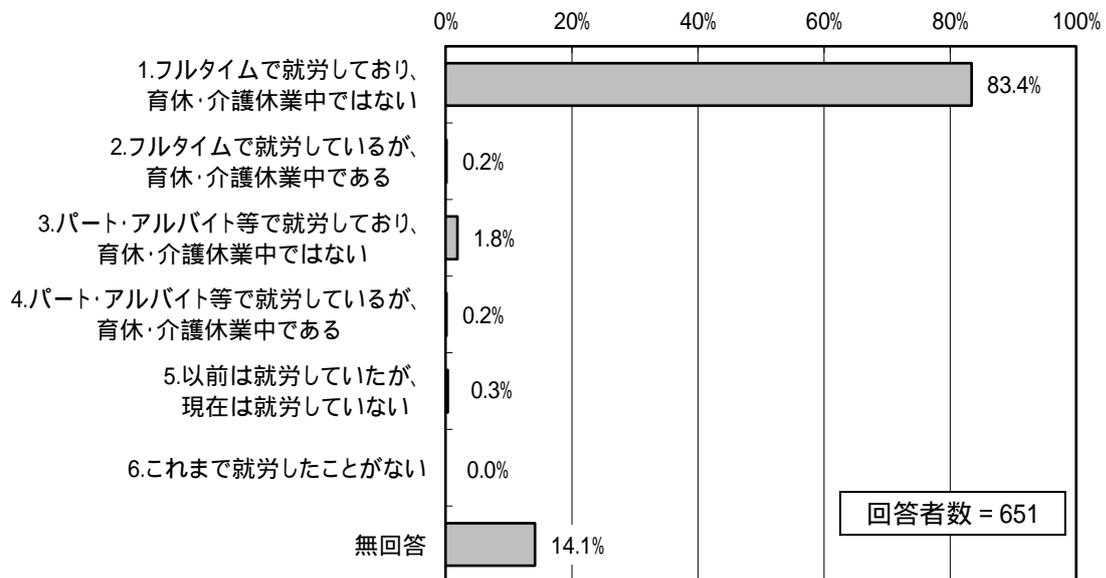


(2) 父親の現在の就労状況

「フルタイム」が91.1%で最も高くなっている。



【平成 30 年度調査結果】



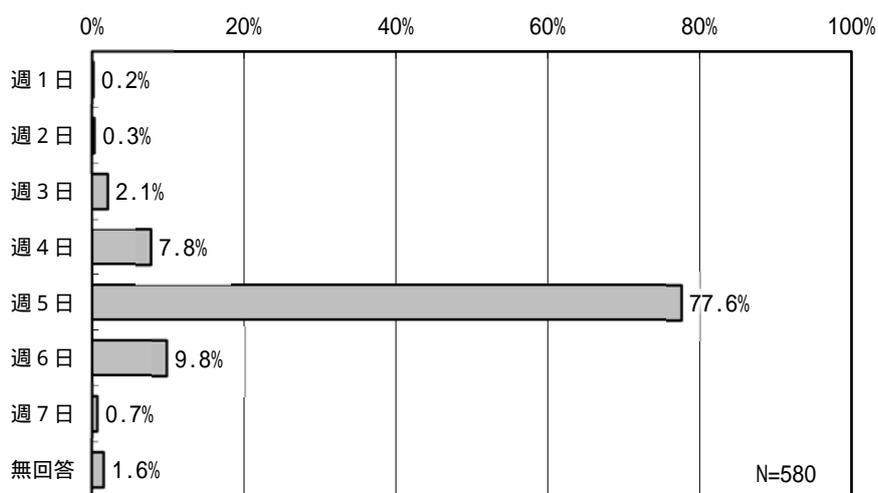
問 12：保護者の現在の就労日数・時間

問 11 で「就労している」と回答した方に現在の就労日数と時間、家を出る時刻・帰宅時刻を尋ねた。

(1) 母親の現在の就労日数・時間

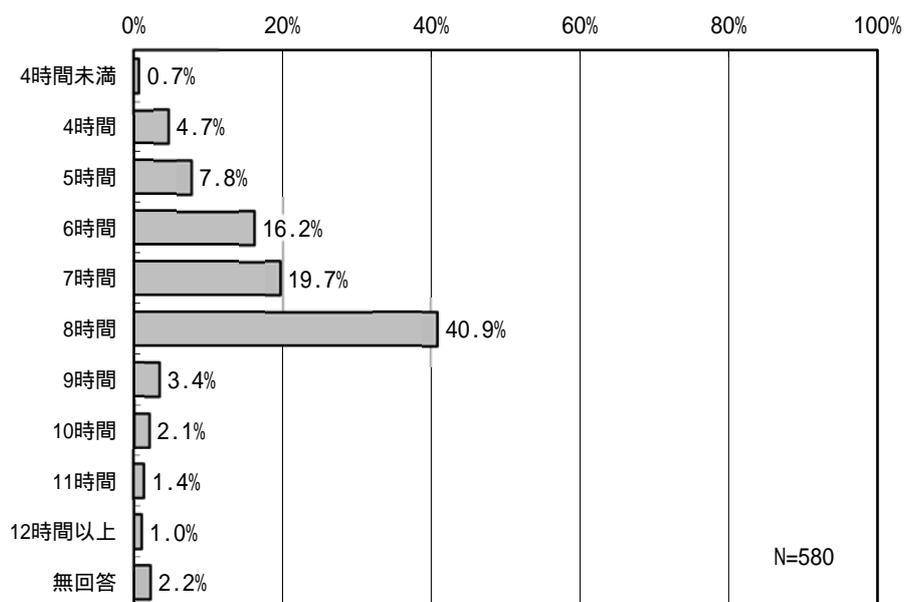
1 週当たりの就労日数

「週 5 日」が 450 人(77.6%)で最も多く、次いで、「週 6 日」が 57 人(9.8%)、「週 4 日」が 45 人(7.8%)となっている。



1 日当たりの就労時間

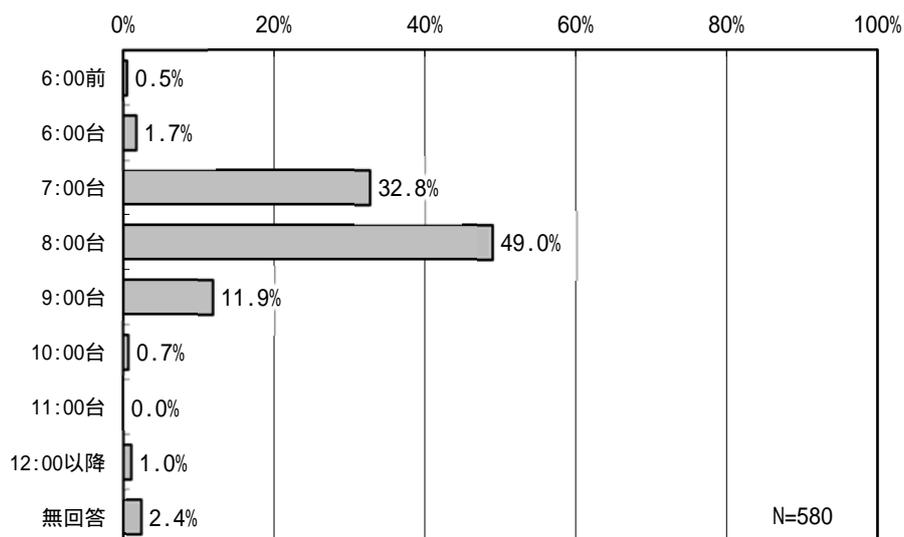
「8 時間」が 237 人(40.9%)で最も多く、次いで「7 時間」が 114 人(19.7%)、「6 時間」が 94 人(16.2%)となっている。



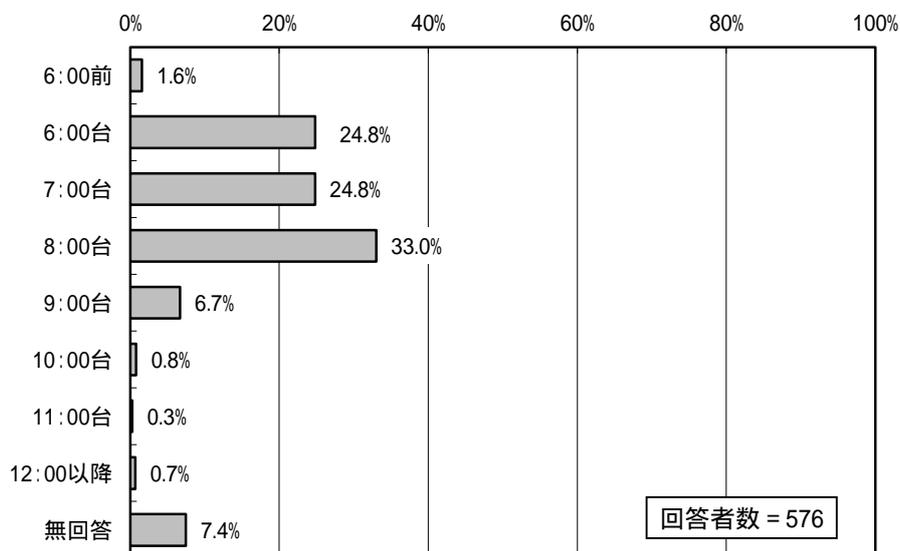
「家を出る時刻について」

「8時台」が284人(49.0%)で最も多く、次いで「7時台」が190人(32.8%)、「9時台」が69人(11.9%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「8時台」が16ポイント増加する一方で、「6時台」が23ポイント減少している。

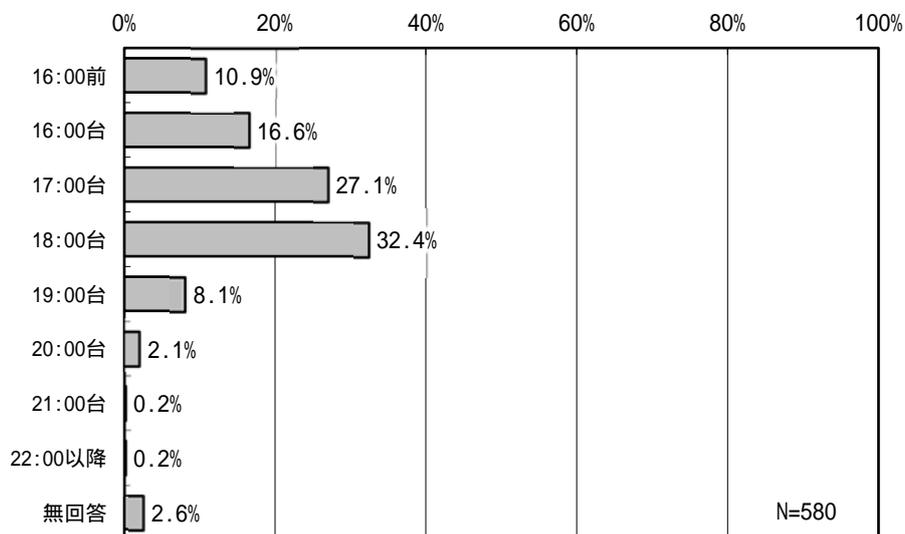


【平成30年度調査結果】



「帰宅時刻について」

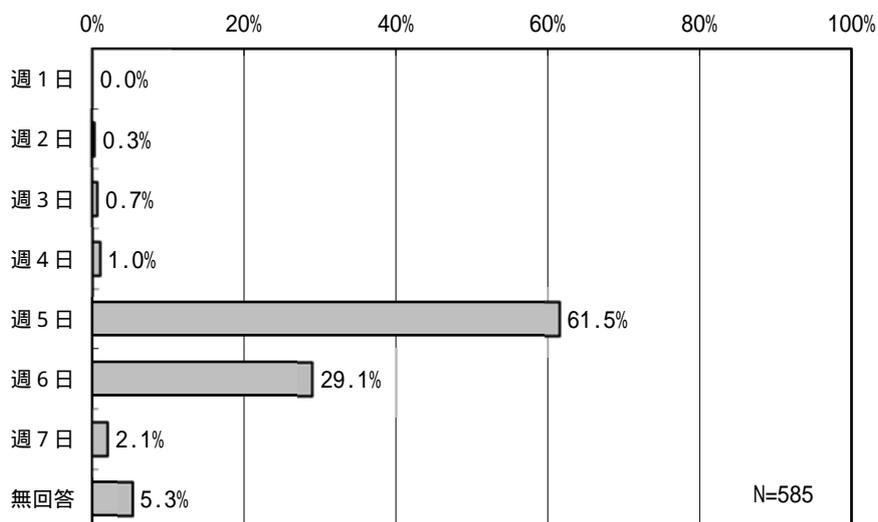
「18時台」が188人(32.4%)で最も多く、次いで「17時台」が157人(27.1%)、「16時台」が96人(16.6%)となっている。



(2) 父親の現在の就労日数・時間

1週当たりの就労日数

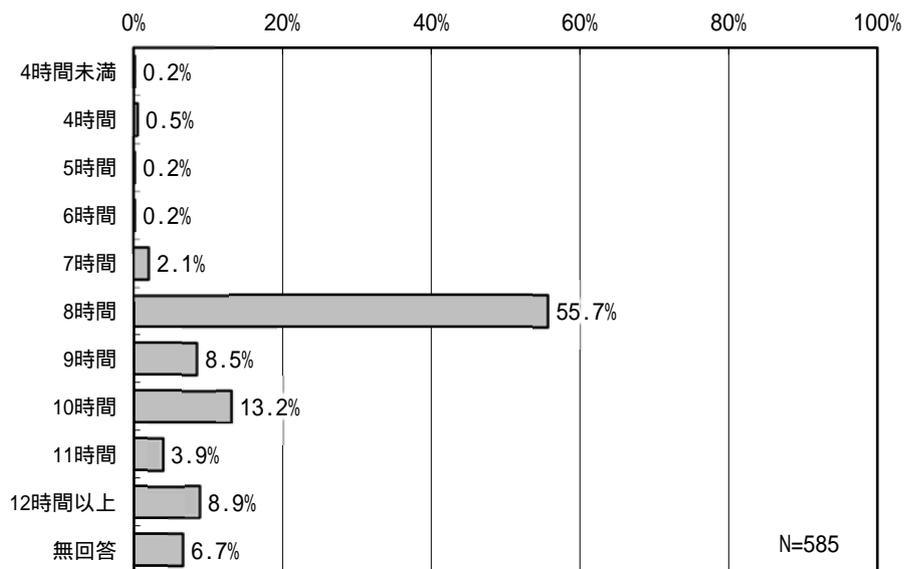
「週5日」が360人(61.5%)で最も多く、次いで、「週6日」が170人(29.1%)となっている。



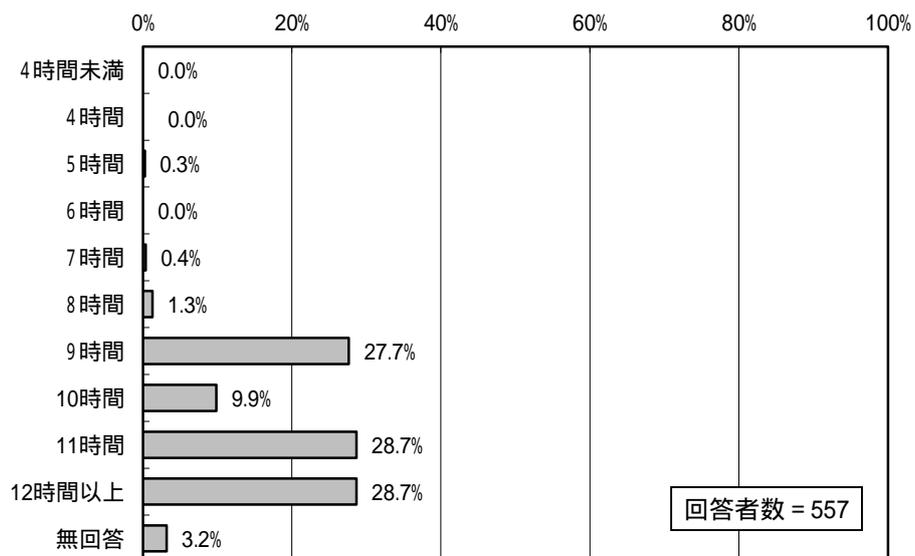
1日当たりの就労時間

「8時間」が326人(55.7%)で最も多く、次いで「10時間」が77人(13.2%)、「12時間以上」が52人(8.9%)、「9時間」が50人(8.5%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「8時間」が約54ポイント増加する一方で、「9時間」と「11時間」、「12時間以上」は大きく減少している。

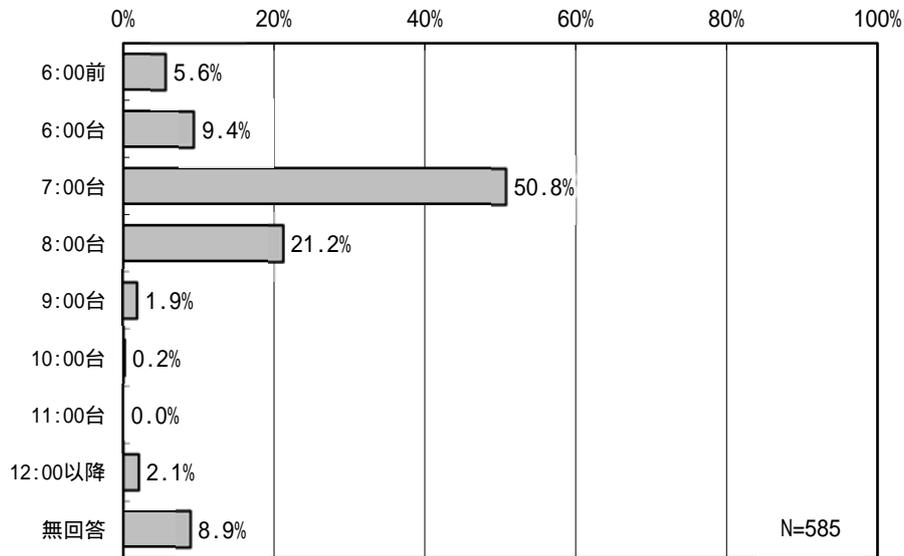


【平成30年度調査結果】



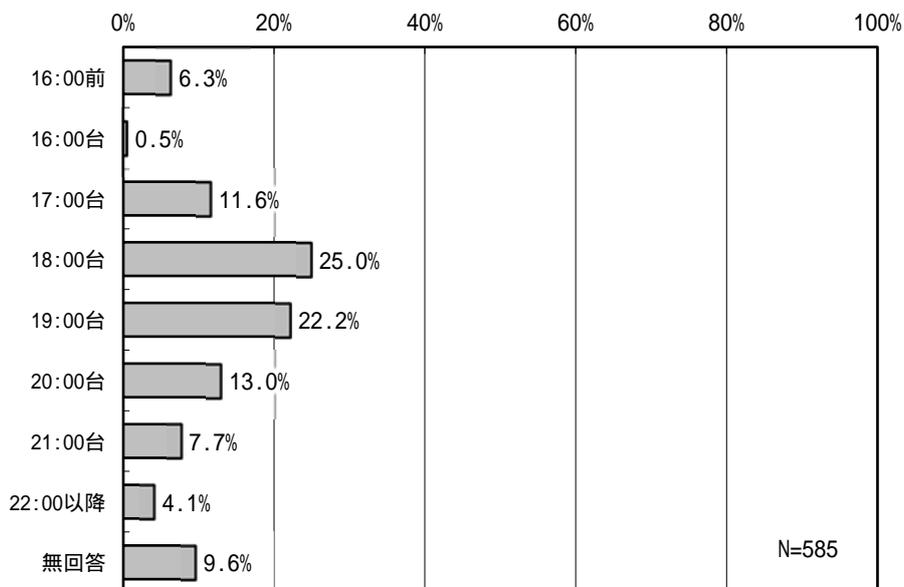
「家を出る時刻について」

「7時台」が297人(50.8%)で最も多く、次いで「8時台」が124人(21.2%)となっている。



「帰宅時刻について」

「18時台」が146人(25.0%)で最も多く、次いで「19時台」が130人(22.2%)となっている。

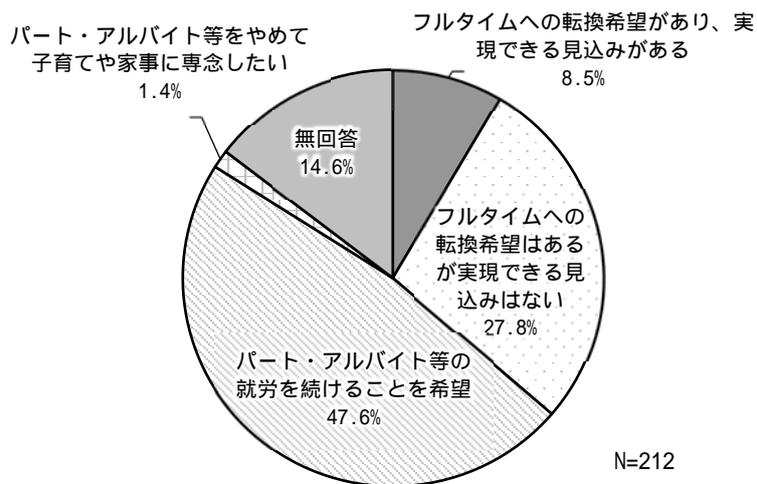


問 13：パート・アルバイト就労中の保護者のフルタイムへの転換希望

問 11 で「パート・アルバイト等」と回答した方に、フルタイムへの転換希望について尋ねた。

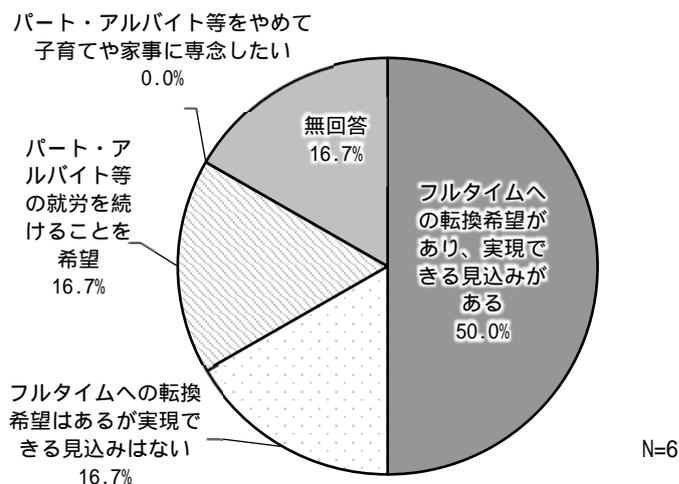
(1) パート・アルバイト就労中の母親のフルタイムへの転換希望

「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 47.6%で最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 27.8%となっている。



(2) パート・アルバイト就労中の父親のフルタイムへの転換希望

「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 50.0%で最も高くなっている。



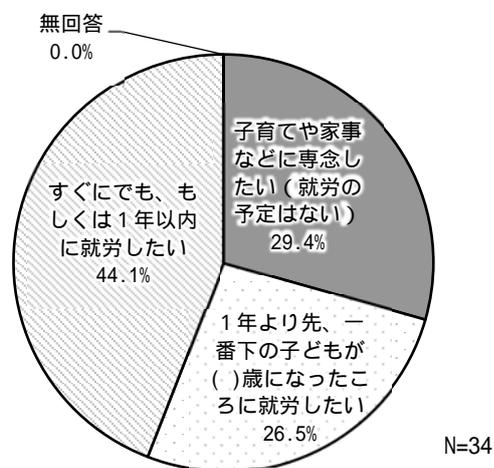
問 14：未就労の保護者の就労希望

問 11 で「以前は就労していたが、現在は就労していない」、「これまで就労したことがない」と回答した方に、就労希望の有無を尋ねた。

「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」方には、就労するときの子どもの年齢、また就労希望の方には、希望する就労形態・勤務日数・時間について尋ねた。

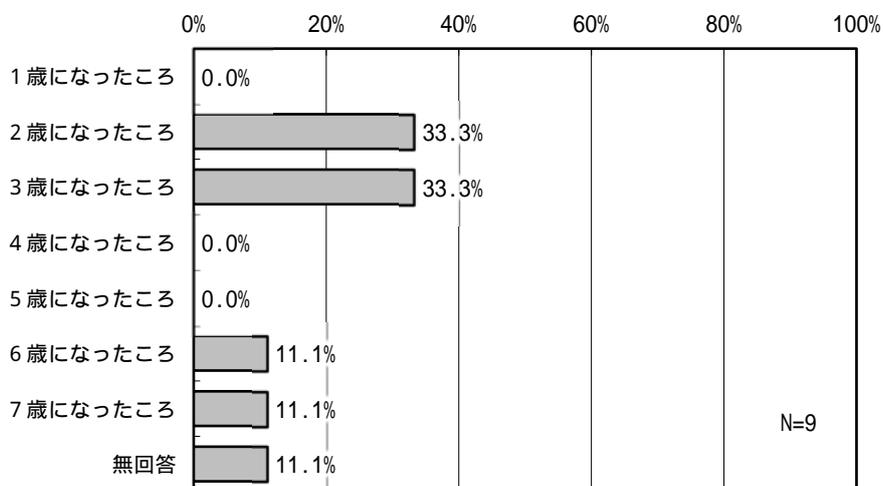
(1) 未就労の母親の就労希望

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が44.1%で最も高く、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が29.4%、「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」が26.5%となっている。



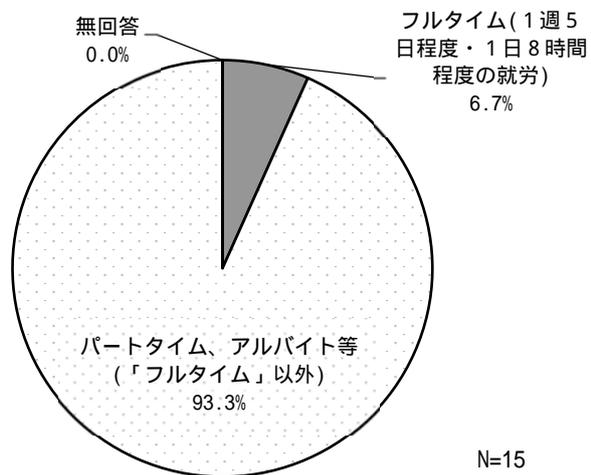
何歳からの就労を希望するか

「2歳」と「3歳」がそれぞれ33.3%で最も高く、次いで「6歳」と「7歳」がそれぞれ11.1%となっている。



未就労の母親の就労希望の形態

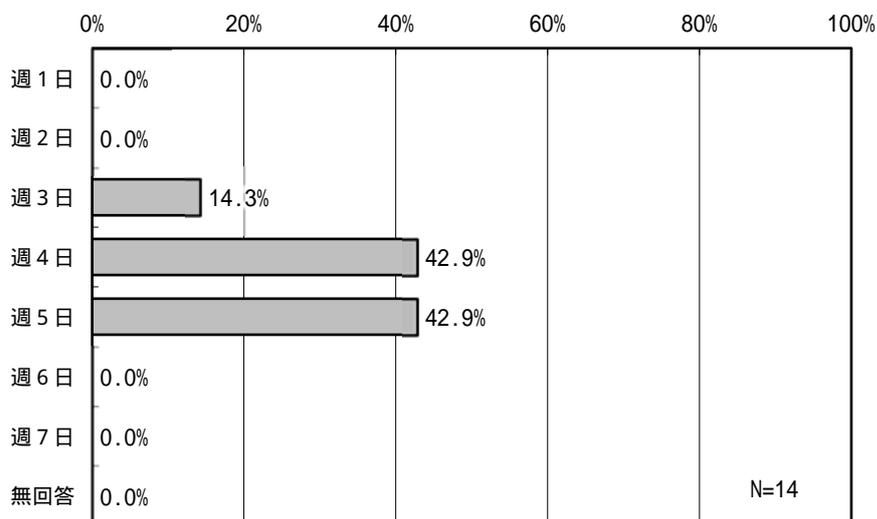
「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」が93.3%、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が6.7%となっている。



未就労の母親の就労希望の日数と時間

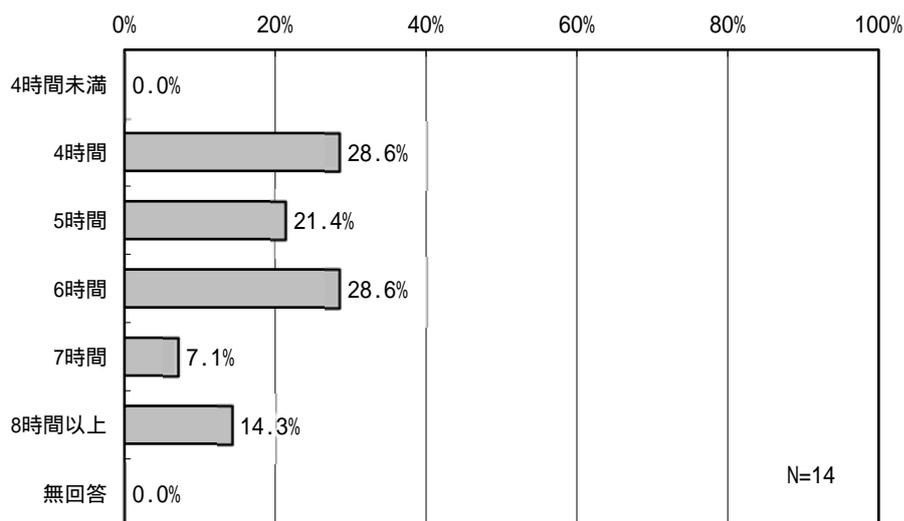
母親(パートタイム・アルバイト等) 1週当たりの就労日数

「週4日」と「週5日」が6人(42.9%)で最も多く、次いで「週3日」が2人(14.3%)となっている。



母親(パートタイム・アルバイト等) 1日当たりの就労時間

「4時間」と「6時間」が4人(28.6%)で最も多く、次いで「5時間」が3人(21.4%)となっている。



(2) 未就労の父親の就労希望

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を1名が希望している。

何歳からの就労を希望するか

該当者なし。

未就労の父親の就労希望の形態

「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」を1名が希望している。

未就労の父親の就労希望の日数と時間

父親(パートタイム・アルバイト等) 1週当たりの就労日数

該当者なし。

父親(パートタイム・アルバイト等) 1日当たりの就労時間

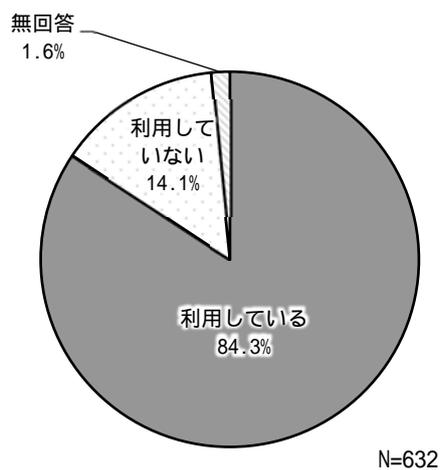
該当者なし。

1 - 5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

問 15：平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

調査対象児童の定期的な教育・保育事業の利用の有無について尋ねた。

「利用している」が84.3%、「利用していない」が14.1%となっている。

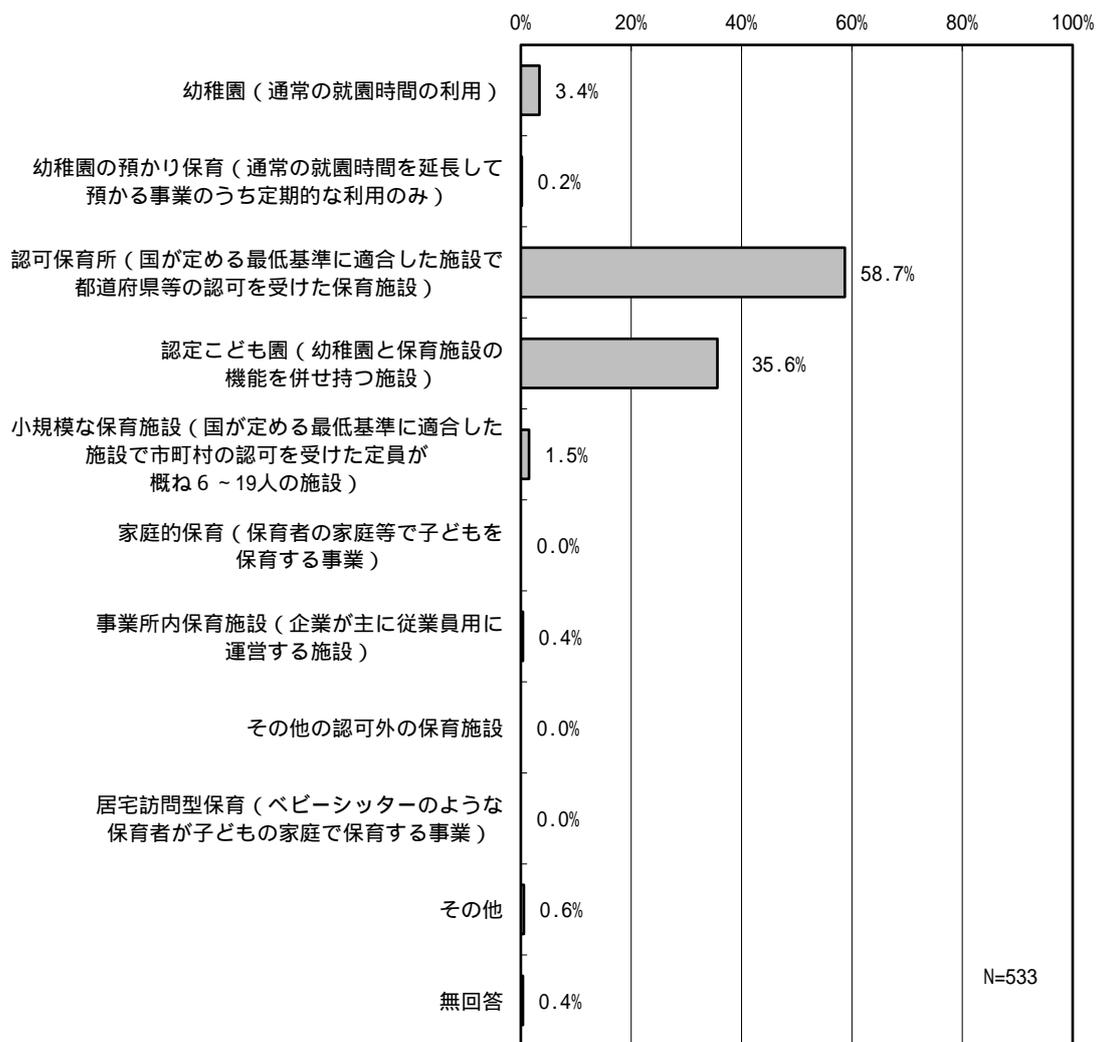


問 16：利用している教育・保育事業の種類（複数回答）

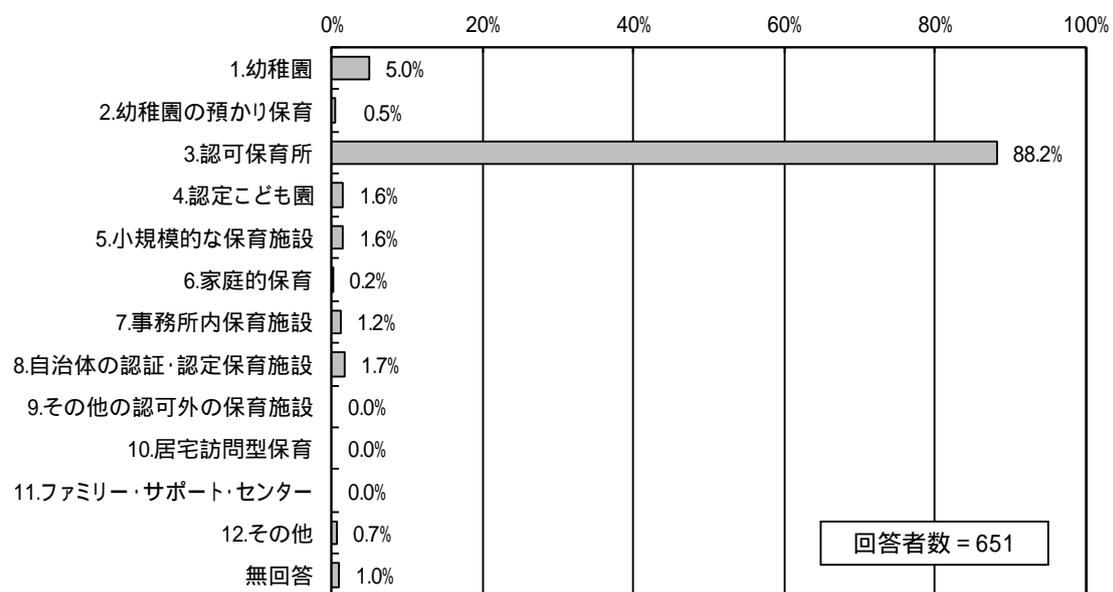
問 15 で「利用している」と回答した方に、利用しているサービスの種類を尋ねた。

「認可保育所」が 58.7% で最も高く、次いで「認定こども園」が 35.6% となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「認定こども園」が 34 ポイント増加する一方で、「認可保育所」が約 30 ポイント減少している。



【平成 30 年度調査結果】



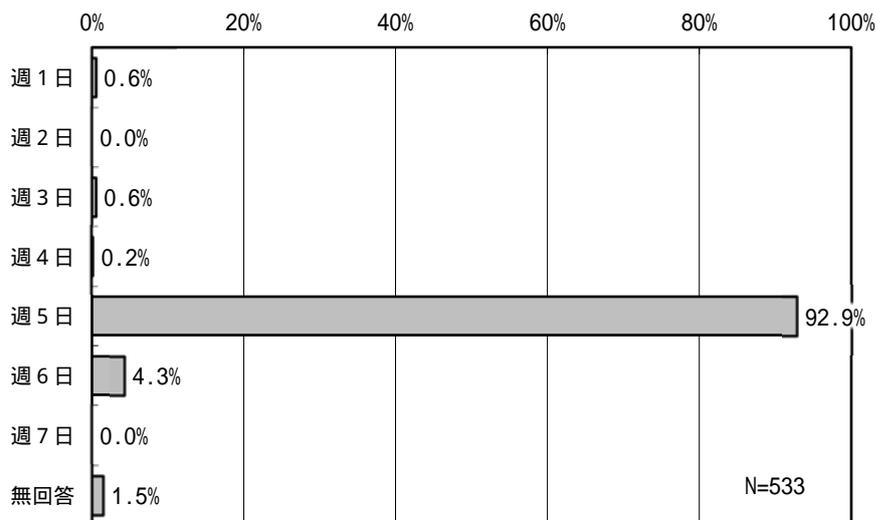
問 17：利用している教育・保育事業の利用量

問 15 で「利用している」と回答した方に、教育・保育事業の現在と希望の利用量を尋ねた。

(1)：現 在

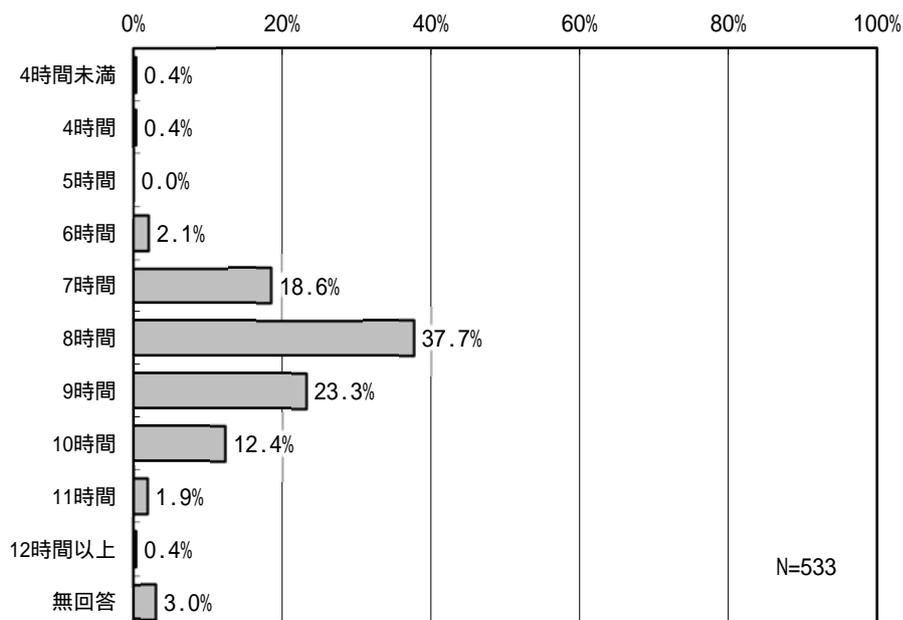
1 週当たりの利用日数

「週 5 日」が 495 人(92.9%)で最も多く、次いで「週 6 日」が 23 人(4.3%)となっている。



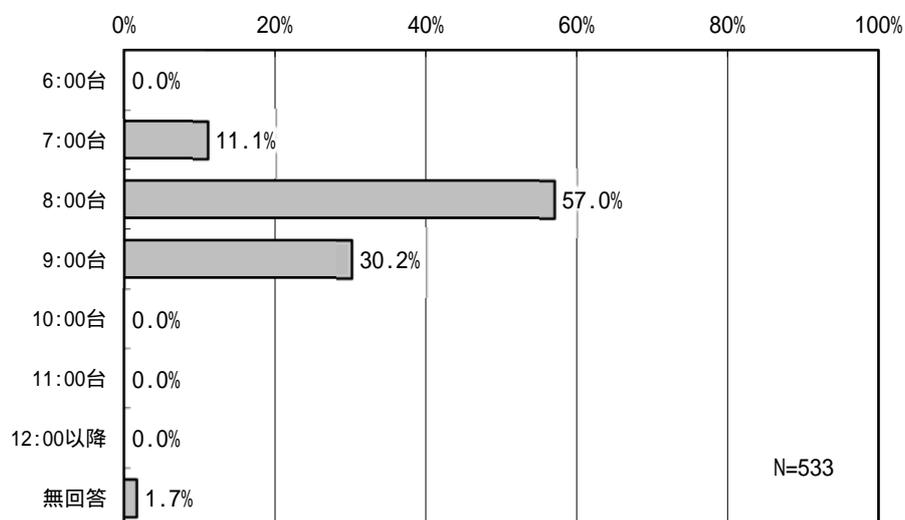
1 日当たりの利用時間

「8 時間」が 201 人(37.7%)で最も多く、次いで「9 時間」が 124 人(23.3%)、「7 時間」が 99 人(18.6%)となっている。



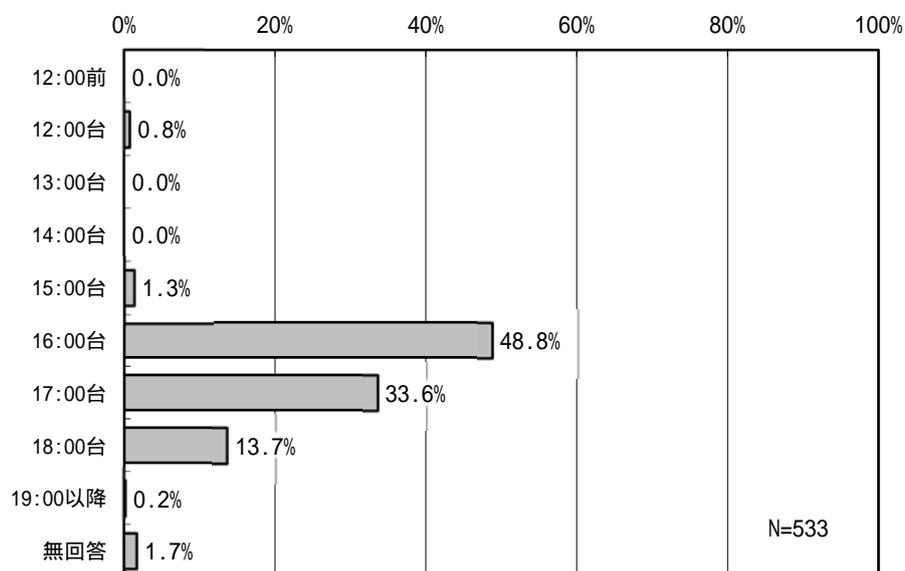
開始時刻

「8時台」が304人(57.0%)で最も多く、次いで「9時台」が161人(30.2%)、「7時台」が59人(11.1%)となっている。



終了時刻

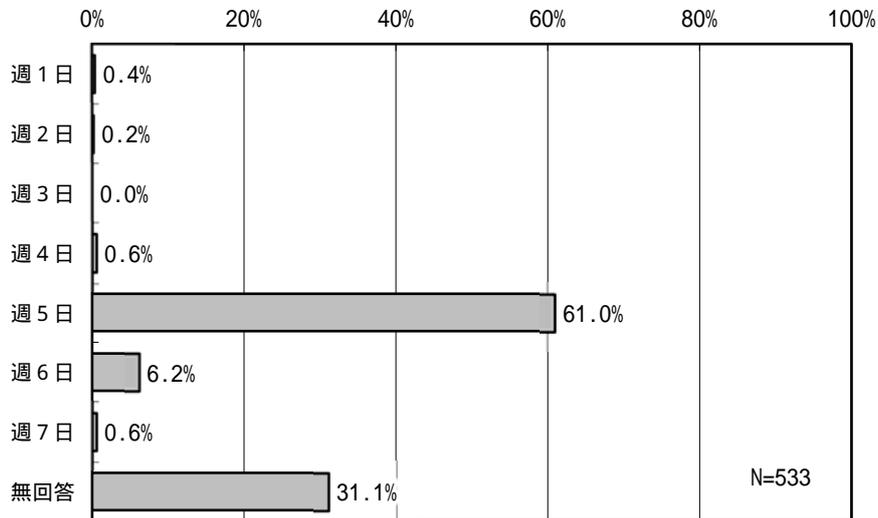
「16時台」が260人(48.8%)で最も多く、次いで「17時台」が179人(33.6%)、「18時台」が73人(13.7%)となっている。



(2): 希望

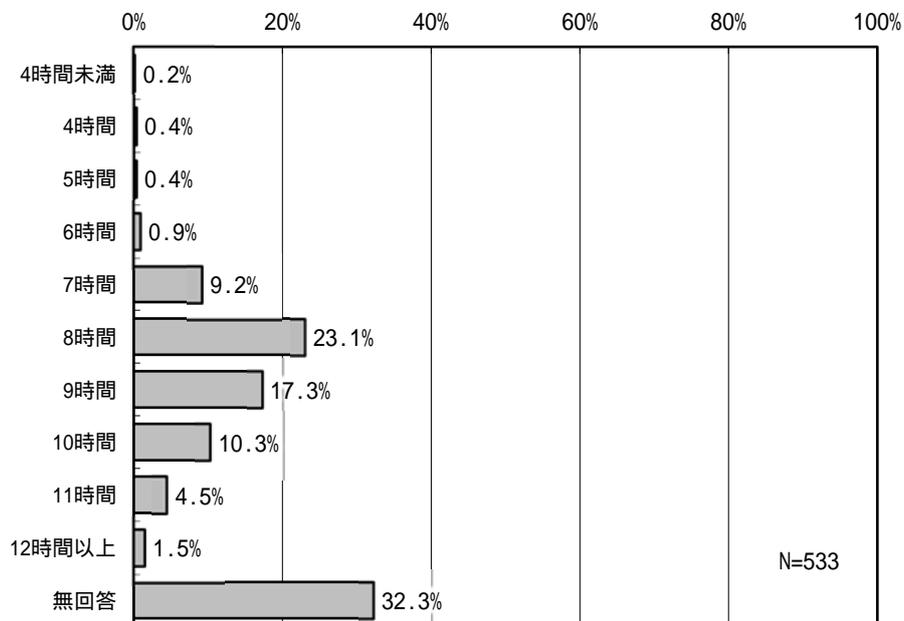
1週当たりの利用日数

「週5日」が325人(61.0%)で最も多く、次いで「週6日」が33人(6.2%)となっている。



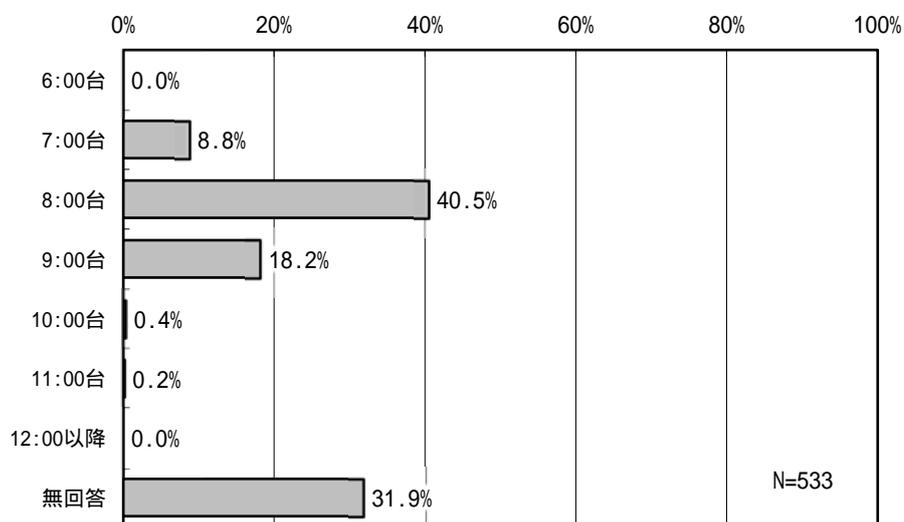
1日当たりの利用時間

「8時間」が123人(23.1%)で最も多く、次いで「9時間」が92人(17.3%)となっている。



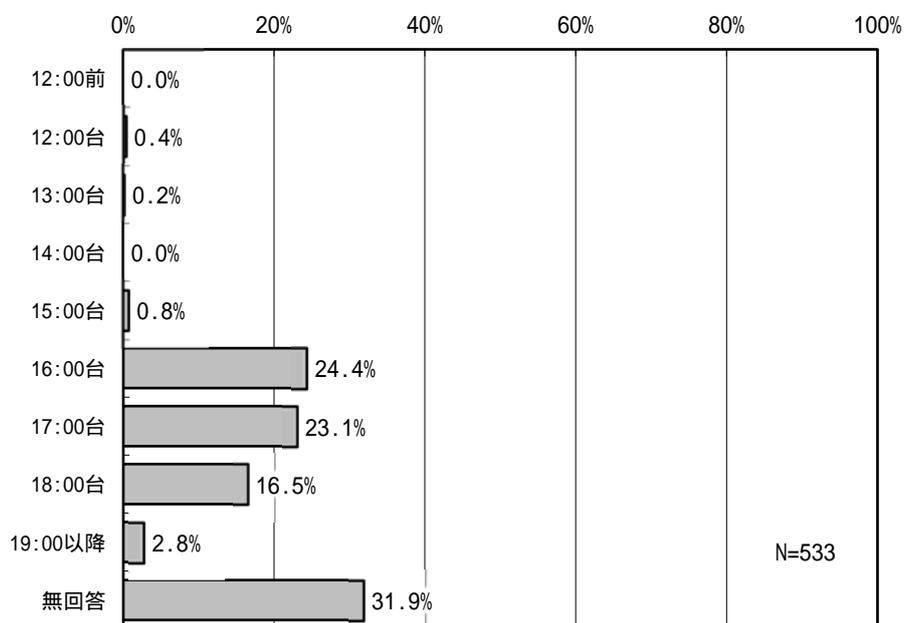
開始時刻

「8時台」が216人(40.5%)で最も多く、次いで「9時台」が97人(18.2%)となっている。



終了時刻

「16時台」が130人(24.4%)で最も多く、次いで「17時台」が123人(23.1%)、「18時台」が88人(16.5%)となっている。

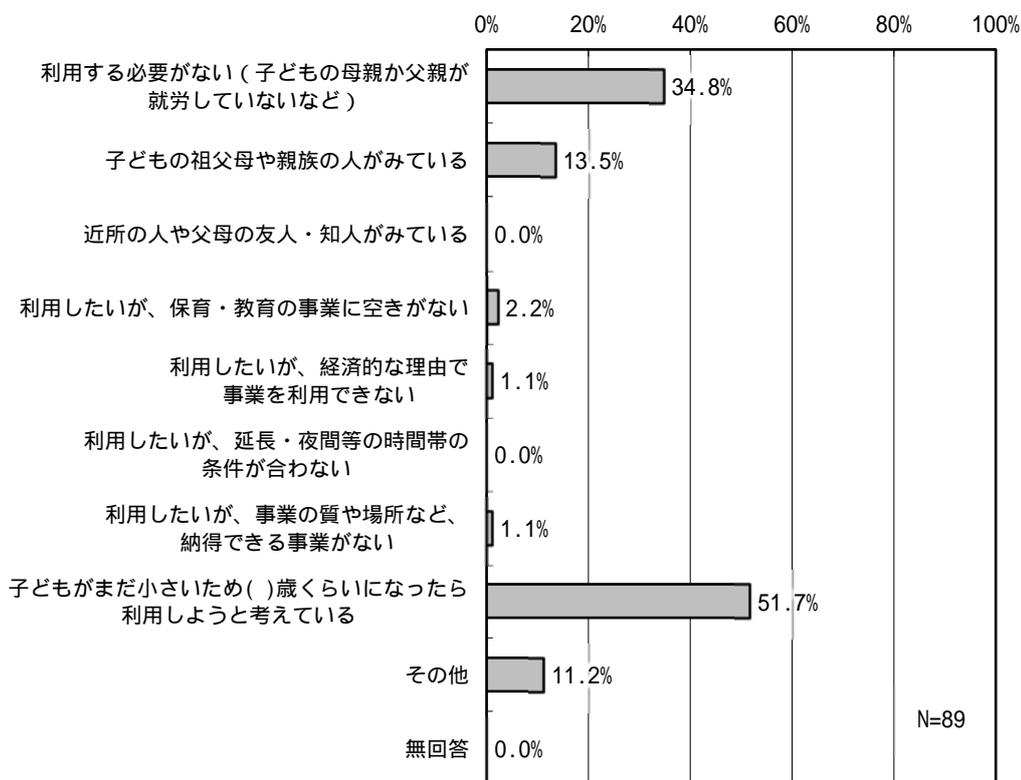


問 18：平日に教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）

問 15 で「利用していない」と回答した方に、平日に教育・保育事業を利用していない理由を尋ねた。

「子どもがまだ小さいため、()歳くらいになったら利用しようと考えている」方には、利用したい時の子どもの年齢について尋ねた。

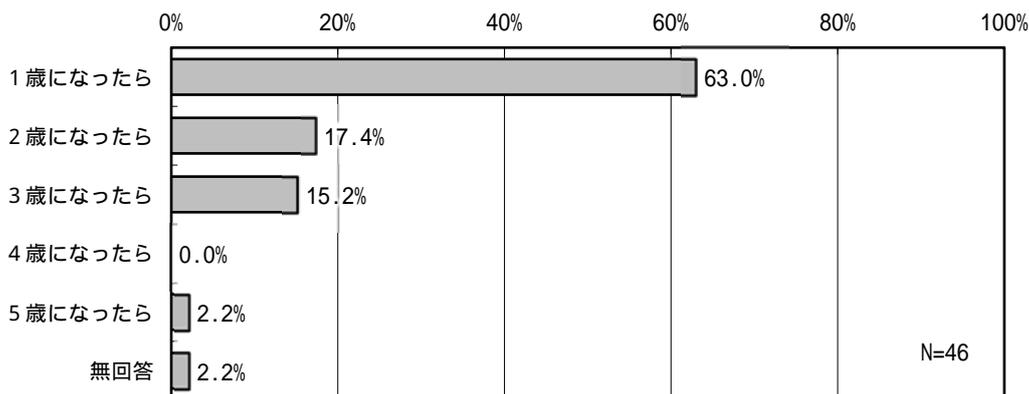
「子どもがまだ小さいため、()歳くらいになったら利用しようと考えている」が 51.7%で最も高く、次いで「利用する必要があるない」34.8%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」13.5%となっている。



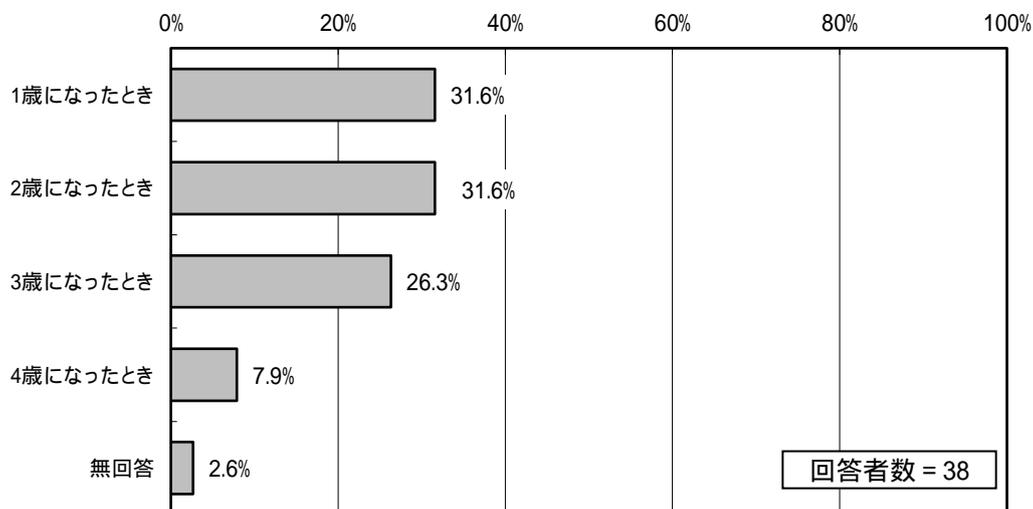
保育サービスを利用させ始める子どもの年齢

「1歳」が29人(63.0%)で最も多く、次いで「2歳」が8人(17.4%)、「3歳」が7人(15.2%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「1歳」が約31ポイント増加する一方で、「2歳」と「3歳」は減少している。



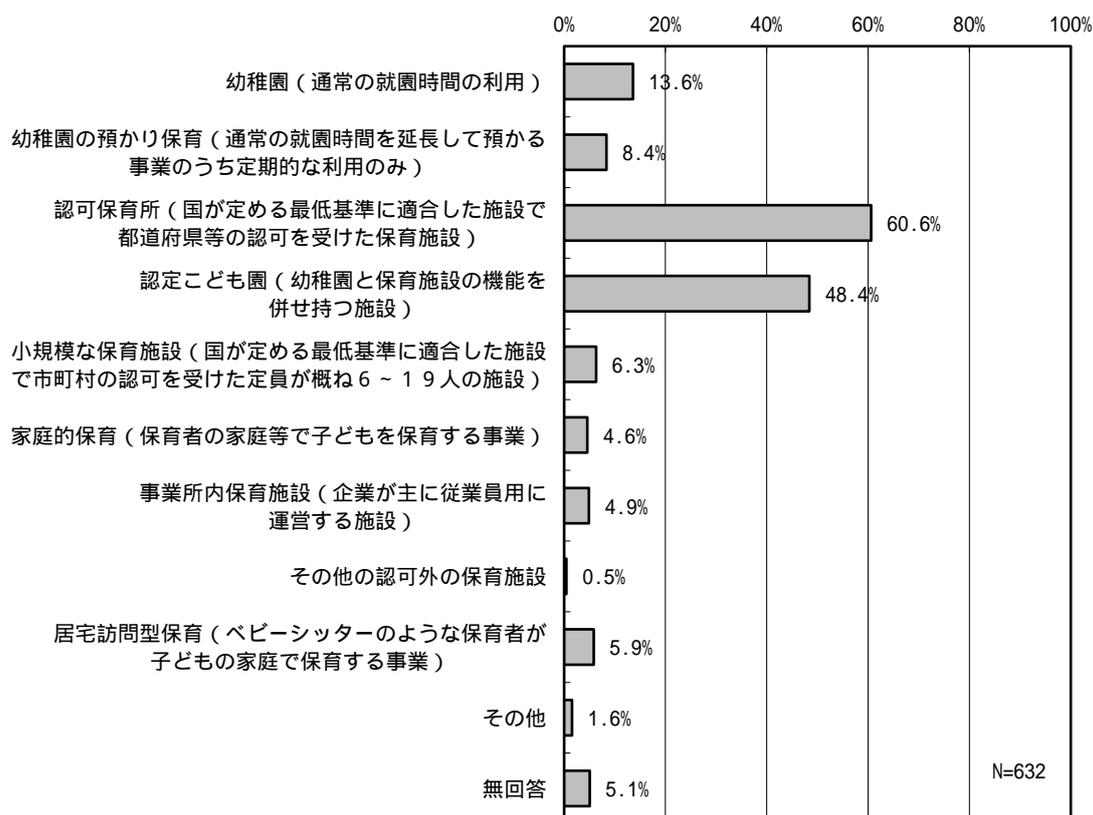
【平成30年度調査結果】



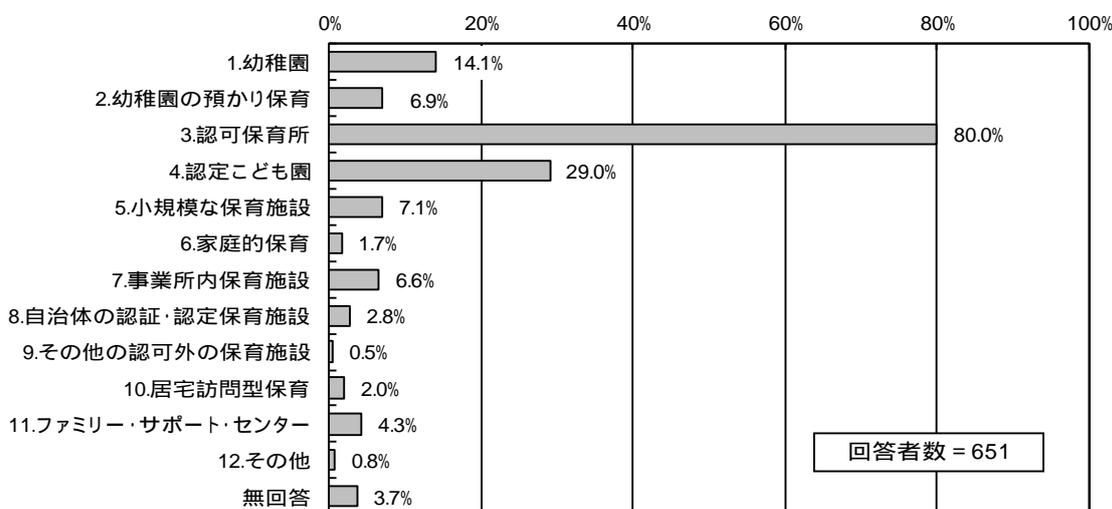
問 19：今後平日に定期的にご利用したい教育・保育事業（複数回答）

現在利用している、利用していないにかかわらず、今後平日に定期的にご利用したい教育・保育事業について尋ねた。

「認可保育所」が60.6%で最も高く、次いで「認定こども園」が48.4%となっている。平成30年度調査結果と比べると、「認定こども園」が約19ポイント増加する一方で、「認可保育所」が約19ポイント減少している。



【平成30年度調査結果】

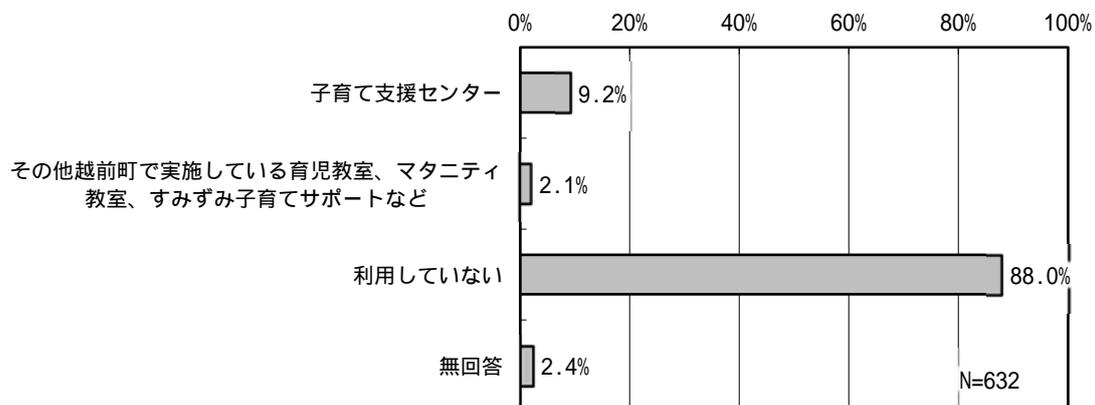


1 - 6 地域の子育て支援事業の利用状況

問 20：子育て支援センター等の利用状況（複数回答）

調査対象児童の子育て支援センター等の利用の有無と、利用回数について尋ねた。

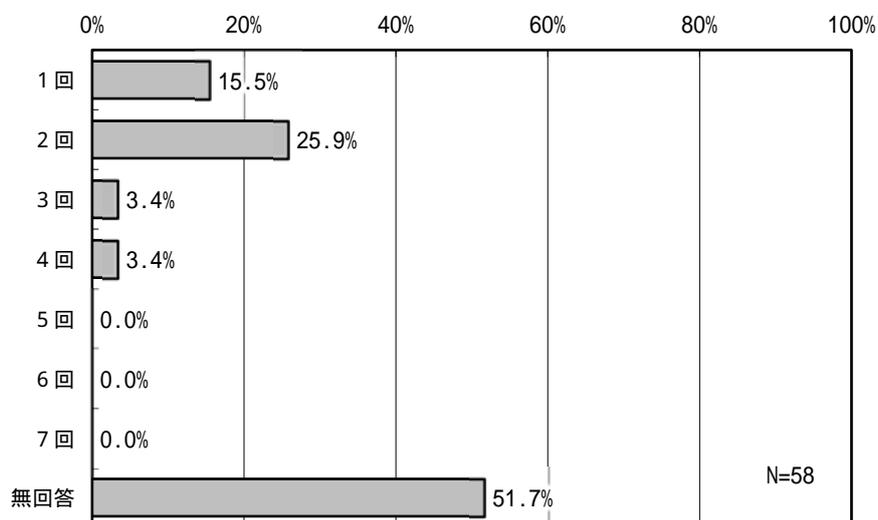
「利用していない」が88.0%で最も高く、次いで「子育て支援センター」が9.2%となっている。



利用回数

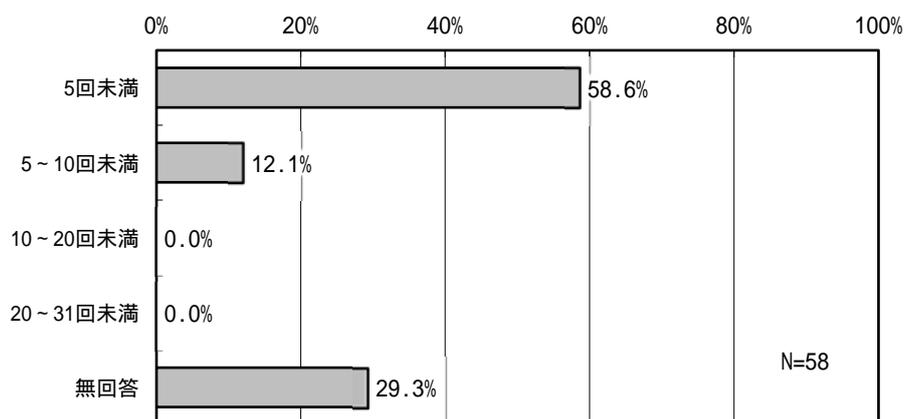
子育て支援センターの利用回数（1週当たり）

「週2回」が15人(25.9%)で最も多く、次いで「週1回」が9人(15.5%)となっている。



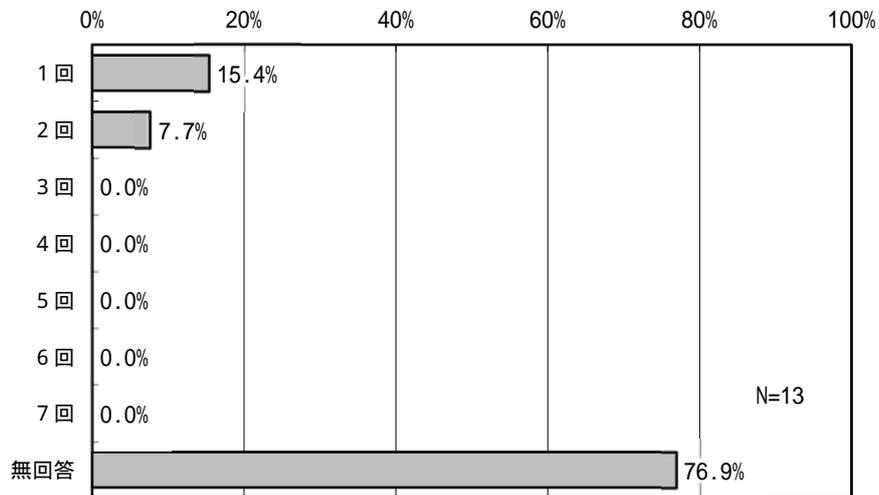
子育て支援センターの利用回数（1ヶ月当たり）

「5回未満」が34人(58.6%)で最も多く、次いで「5～10回未満」が7人(12.1%)となっている。



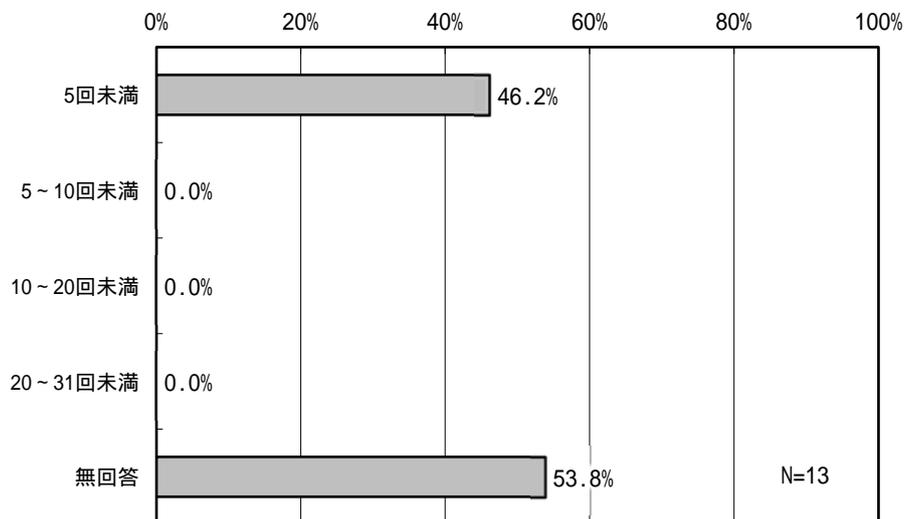
その他越前町で実施している事業の利用回数（1週当たり）

「週1回」が2人(15.4%)で最も多く、次いで「週2回」が1人(7.7%)となっている。



その他越前町で実施している事業の利用回数（1ヶ月当たり）

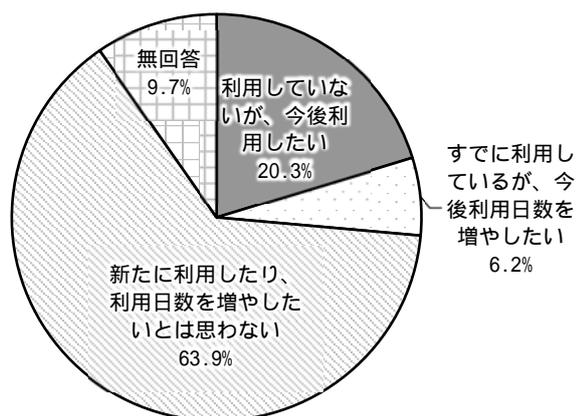
「5回未満」が6人(46.2%)で最も多くなっている。



問 21：子育て支援センター等の今後の利用希望

子育て支援センター等の今後の利用希望と、子育て支援センター等を利用したい、または利用回数を増やしたい方に、利用希望回数を尋ねた。

「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 63.9%で最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」20.3%となっている。

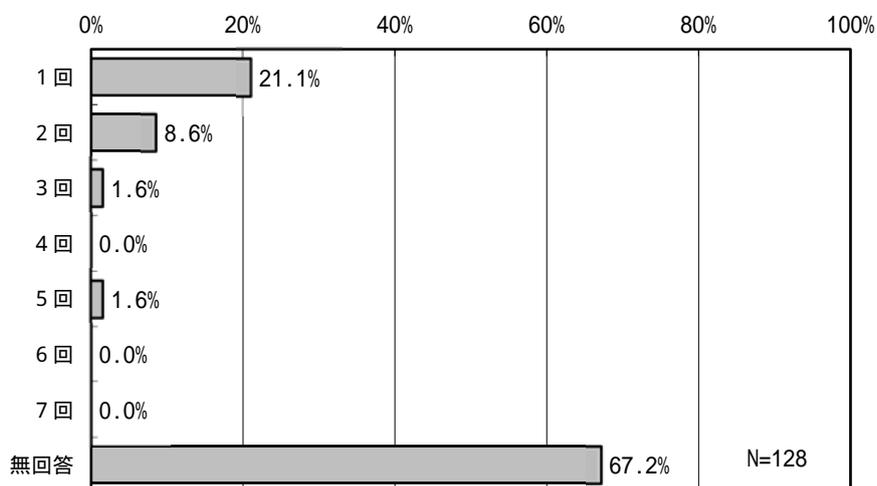


N=632

利用希望回数

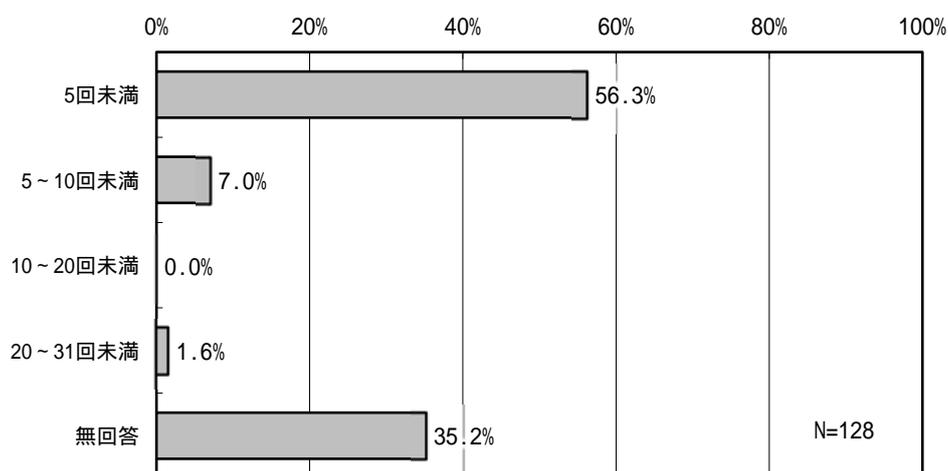
子育て支援センター等の利用希望回数（1週当たり）

「週1回」が27人(21.1%)で最も多く、次いで「週2回」が11人(8.6%)となっている。



子育て支援センター等の利用希望回数（1ヶ月当たり）

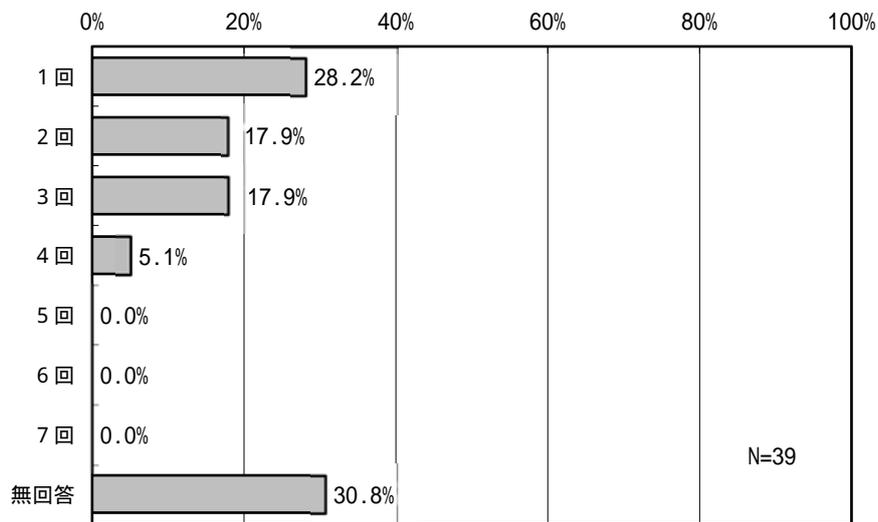
「5回未満」が72人(56.3%)で最も多く、次いで「5～10回未満」が9人(7.0%)となっている。



増やしたい回数

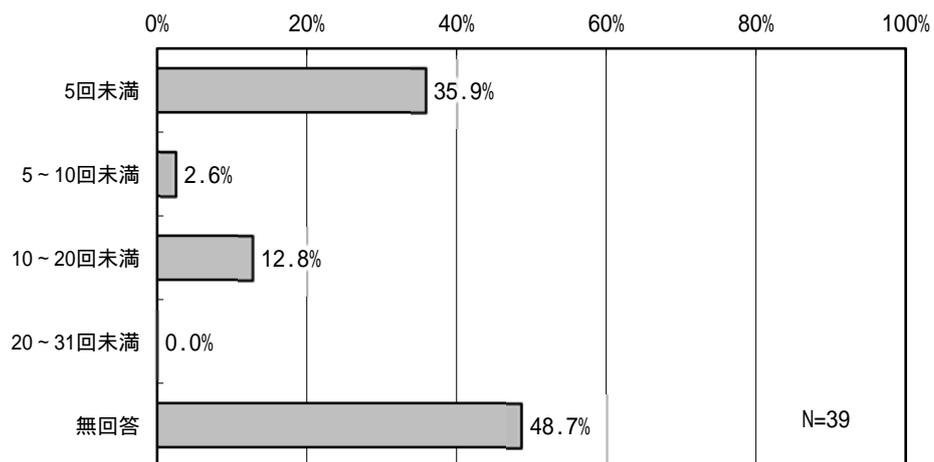
子育て支援センター等の増やしたい利用希望回数（1週当たり）

「週1回」が11人(28.2%)で最も多く、次いで「週2回」と「週3回」が7人(17.9%)となっている。



子育て支援センター等の増やしたい利用希望回数（1ヶ月当たり）

「5回未満」が14人(35.9%)で最も多く、次いで「10～20回未満」が5人(12.8%)となっている。



問 22：地域の子育て支援事業の認知度・利用状況及び今後の希望

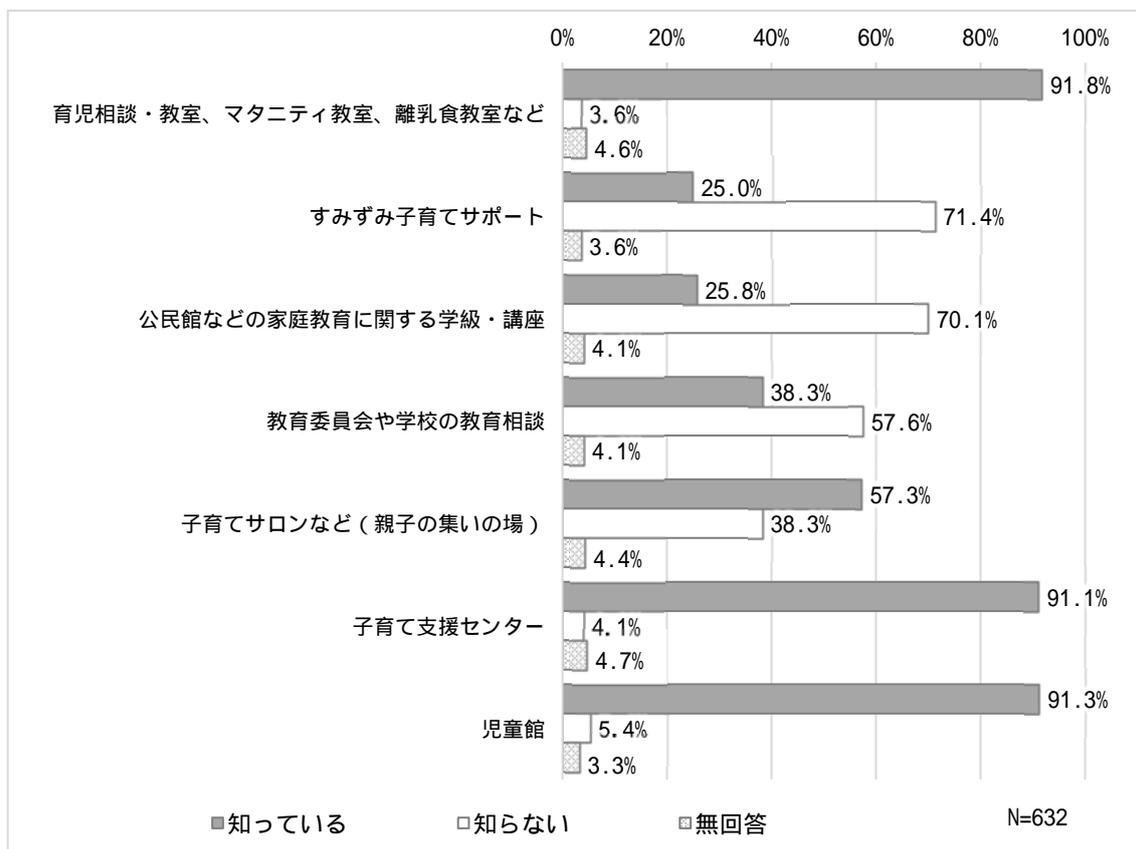
地域の子育て支援事業の認知度、利用度、利用意向について尋ねた。

地域子育て支援事業の認知度

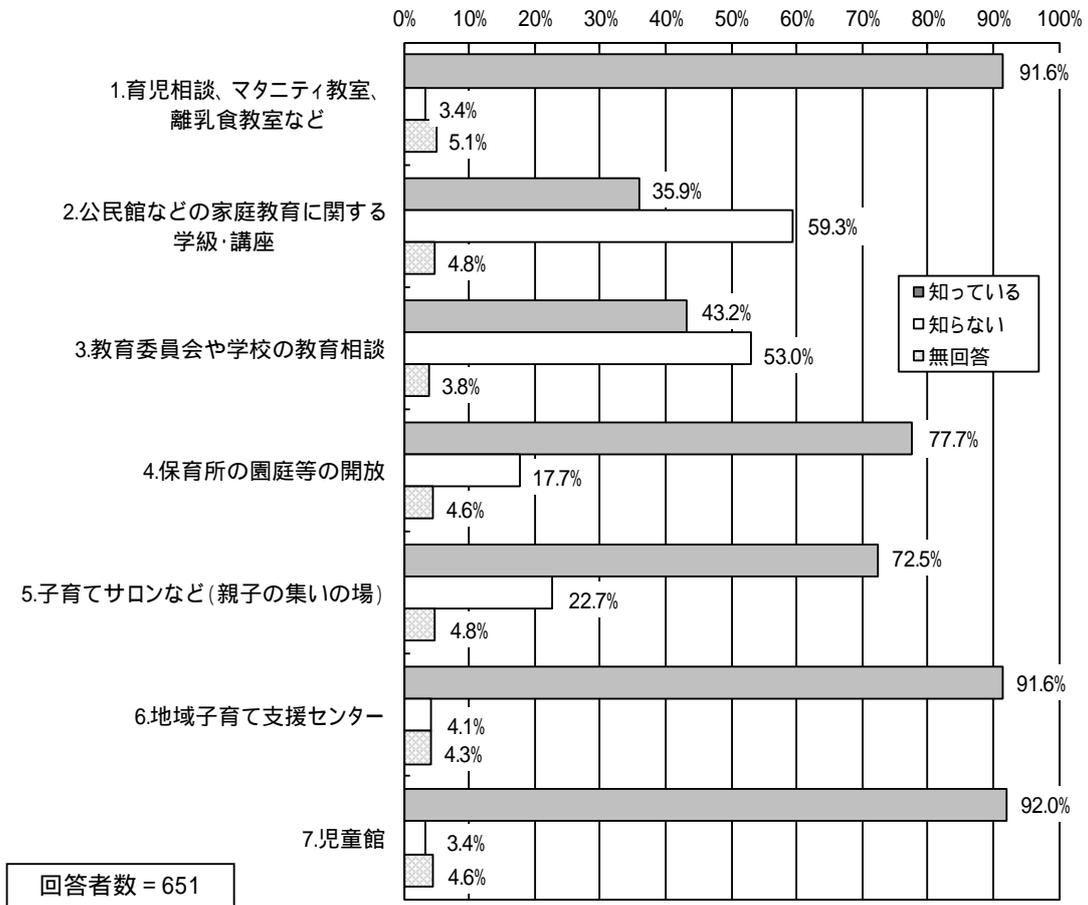
『知っている』の割合が最も高いのは「育児相談・教室、マタニティ教室、離乳食教室など」91.8%、次いで「児童館」91.3%、「子育て支援センター」91.1%となっている。

『知らない』の割合が最も高いのは「すみずみ子育てサポート」71.4%で、次いで「公民館などの家庭教育に関する学級・講座」70.1%、「教育委員会や学校の教育相談」57.6%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「子育てサロンなど（親子の集いの場）」と「公民館などの家庭教育に関する学級・講座」は、『知っている』の割合が 10 ポイント以上減少している。



【平成 30 年度調査結果】

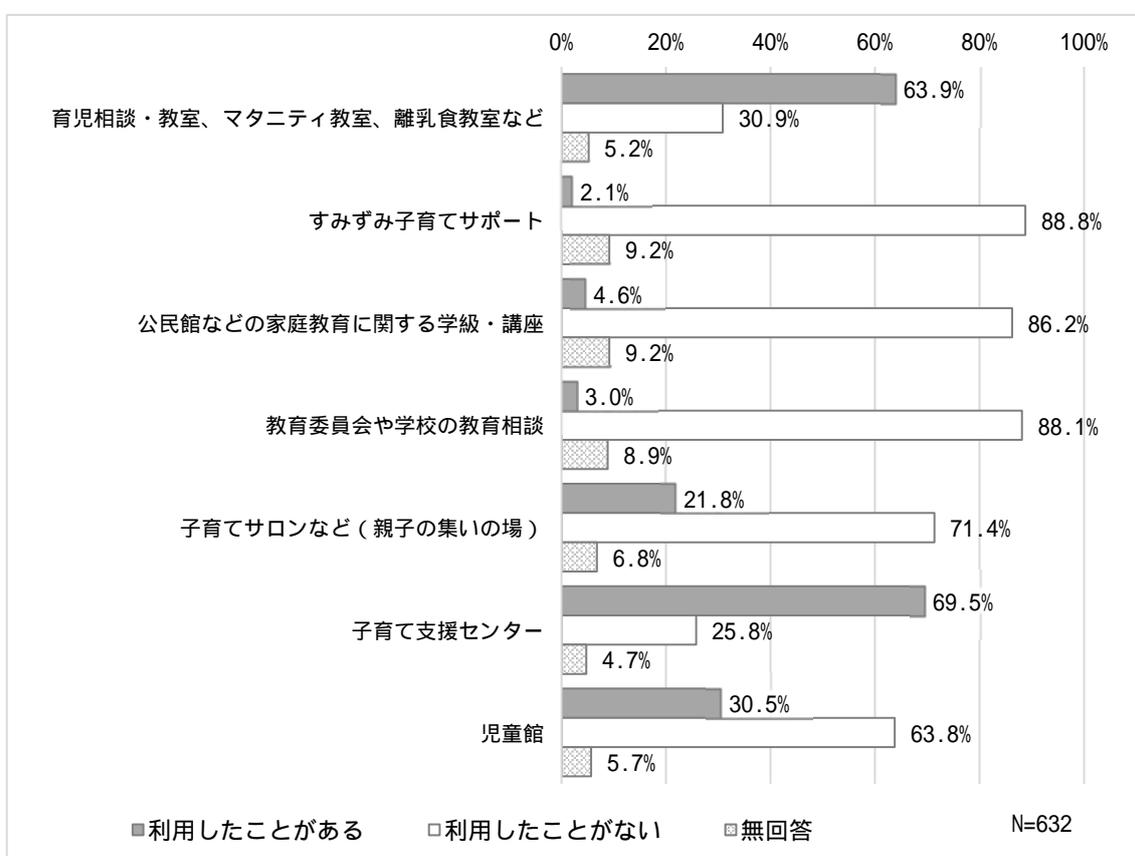


地域子育て支援事業の利用状況

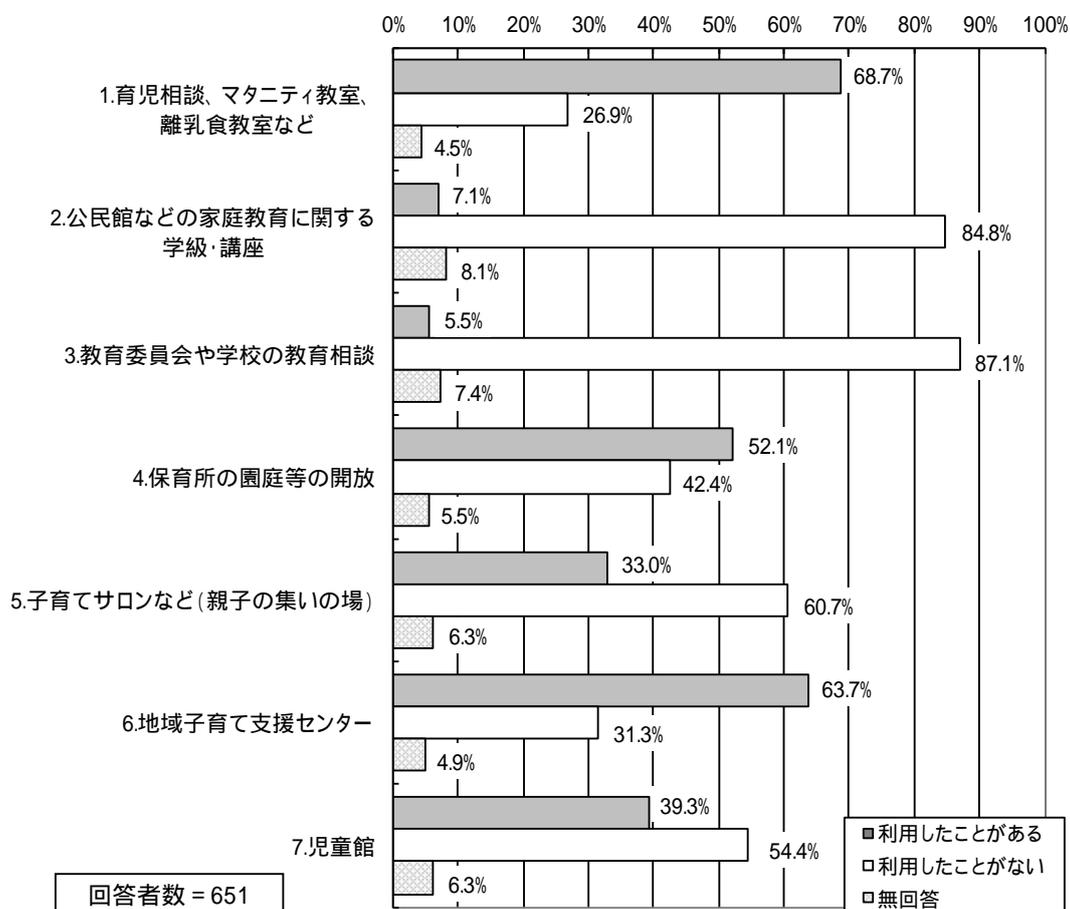
『利用したことがある』の割合が最も高いのは「子育て支援センター」69.5%で、次いで「育児相談・教室、マタニティ教室、離乳食教室など」63.9%、「児童館」30.5%となっている。

『利用したことがない』の割合が最も高いのは「すみずみ子育てサポート」88.8%で、次いで「教育委員会や学校の教育相談」で88.1%、「公民館などの家庭教育に関する学級・講座」で86.2%となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「子育てサロンなど（親子の集いの場）」は『利用したことがある』が約11ポイント減少している。



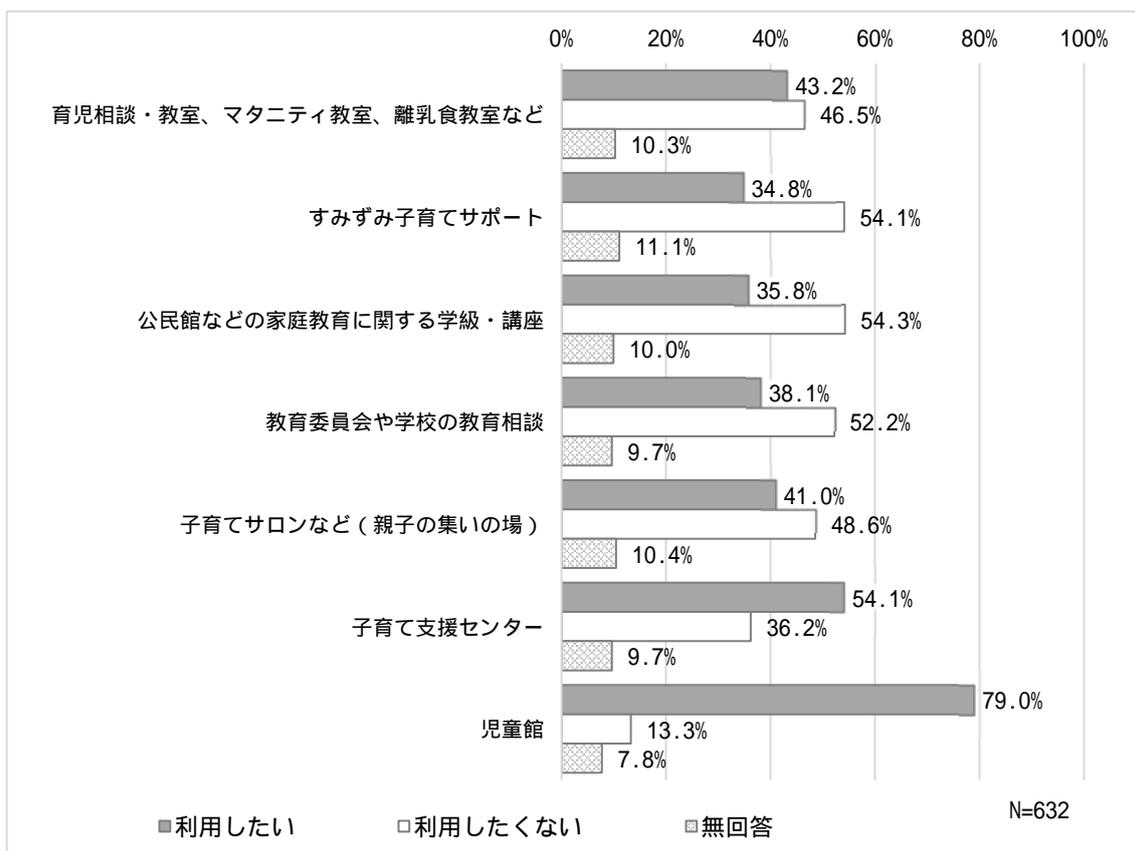
【平成 30 年度調査結果】



地域子育て支援事業の今後の希望

『利用したい』の割合が最も高いのは「児童館」79.0%で、次いで「子育て支援センター」54.1%となっている。

『利用したくない』の割合が最も高いのは「公民館などの家庭教育に関する学級・講座」54.3%で、次いで「すみずみ子育てサポート」54.1%、「教育委員会や学校の教育相談」52.2%となっている。



認知度・利用度ともに高いサービスは「育児相談・教室、マタニティ教室、離乳食教室など」で、認知度・今後の利用意向が高いサービスは「児童館」、利用度・今後の利用意向が高いサービスは「子育て支援センター」となっている。

認知度・利用度・利用意向の全てが低いサービスは、「すみずみ子育てサポート」、「公民館などの家庭教育に関する学級・講座」、「教育委員会や学校の教育相談」となっている。

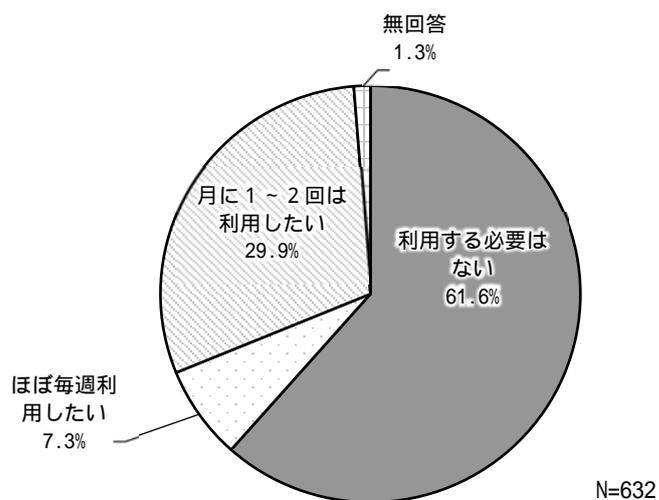
1 - 7 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

問 23：土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

調査対象児童について土・日・祝日に定期的な利用希望の有無と、「利用したい」方には、利用したい時間帯を尋ねた。

(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望

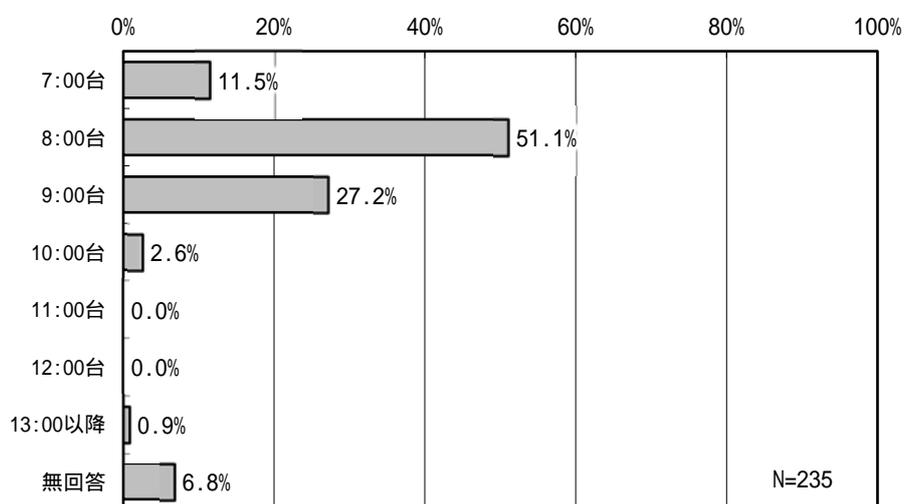
「利用する必要はない」が61.6%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」29.9%、「ほぼ毎週利用したい」7.3%となっている。



利用希望の時間帯

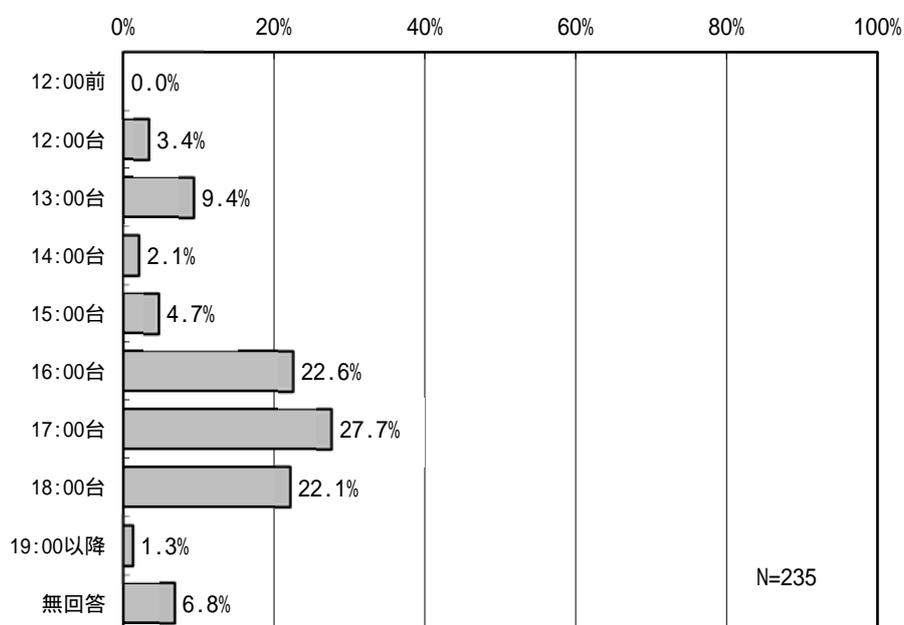
利用したい時間帯(開始時刻)

「8時台」が120人(51.1%)で最も多く、次いで「9時台」が64人(27.2%)、「7時台」が27人(11.5%)となっている。



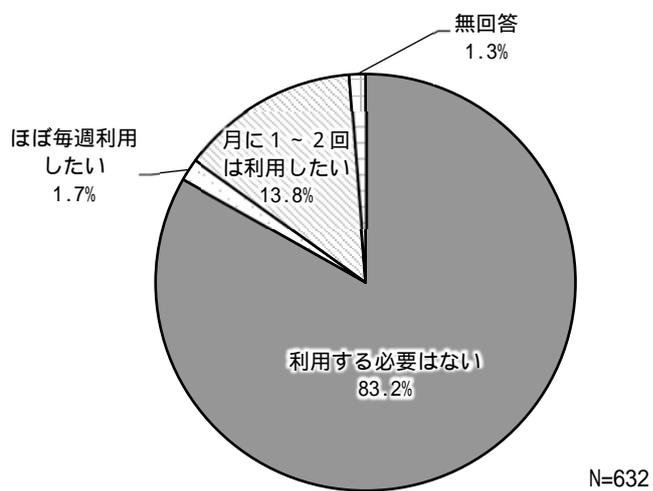
利用したい時間帯(終了時刻)

「17時台」が65人(27.7%)で最も多く、次いで「16時台」が53人(22.6%)、「18時台」が52人(22.1%)となっている。



(2) 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

「利用する必要はない」が 83.2%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」13.8%、「ほぼ毎週利用したい」1.7%となっている。

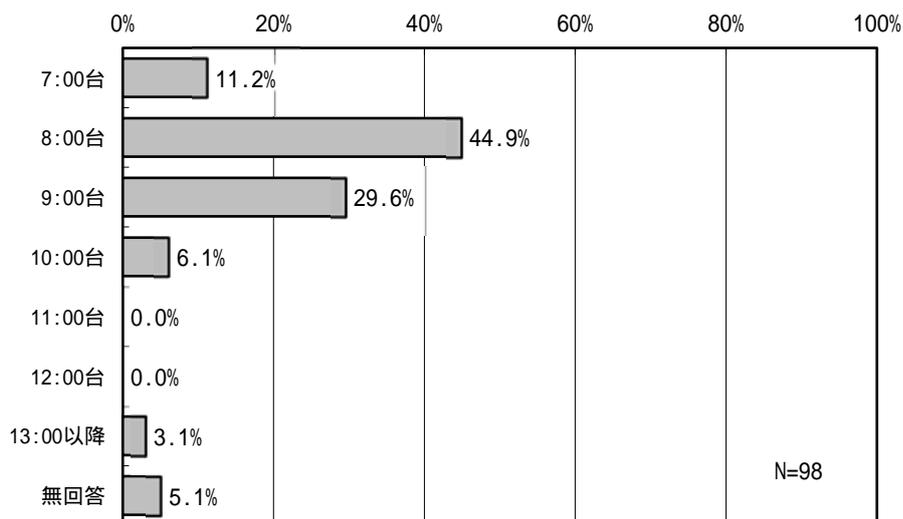


利用希望の時間帯

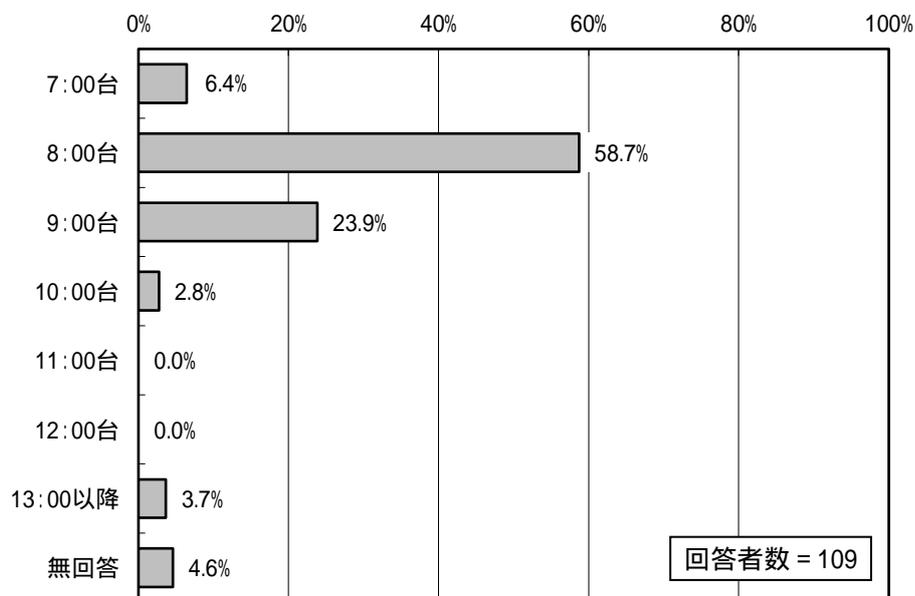
利用したい時間帯(開始時刻)

「8時台」が44人(44.9%)で最も多く、次いで「9時台」が29人(29.6%)、「7時台」が11人(11.2%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「8時台」が約14ポイント減少している。



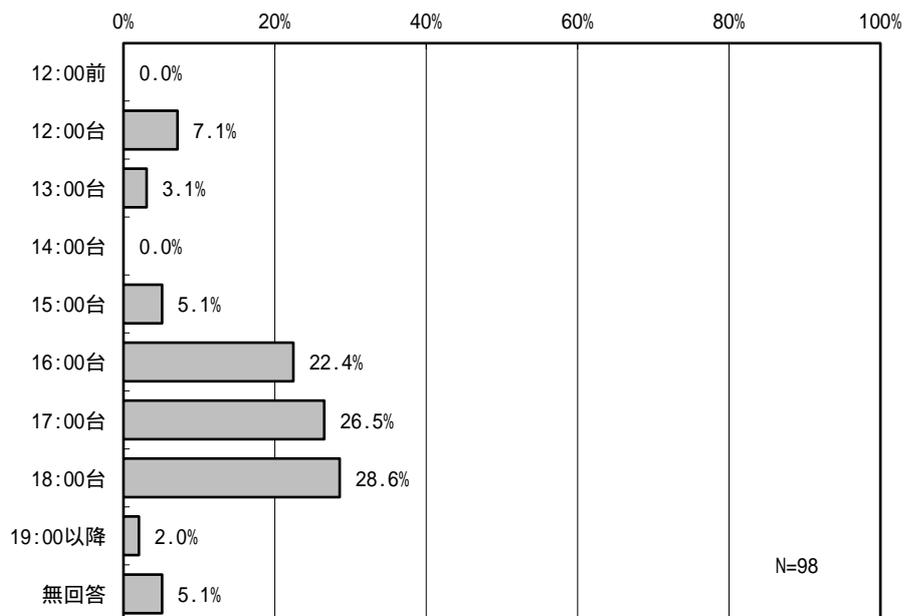
【平成30年度調査結果】



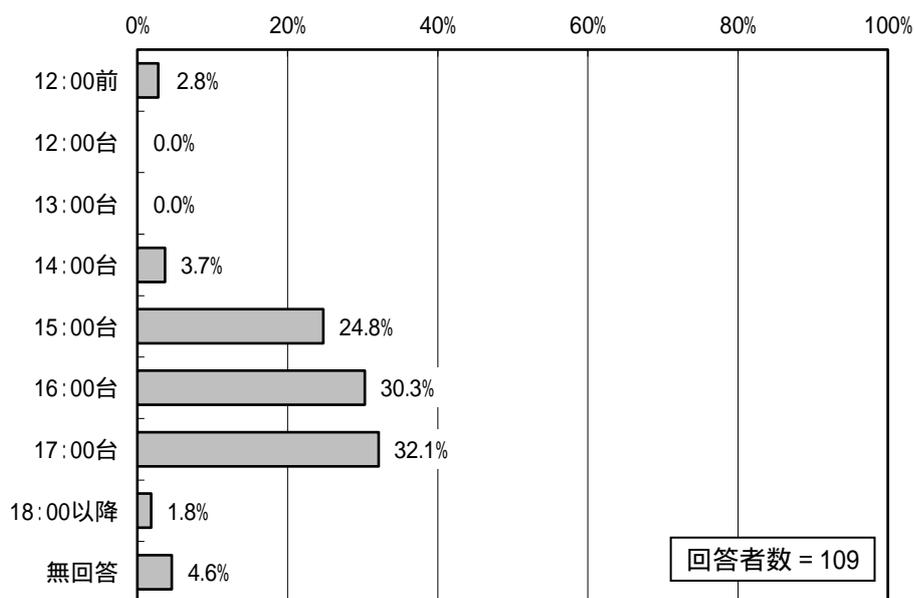
利用したい時間帯(終了時刻)

「18時台」が28人(28.6%)で最も多く、次いで「17時台」が26人(26.5%)、「16時台」が22人(22.4%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「18時以降」は約29ポイント増加する一方で、「15時台」が約20ポイント減少している。



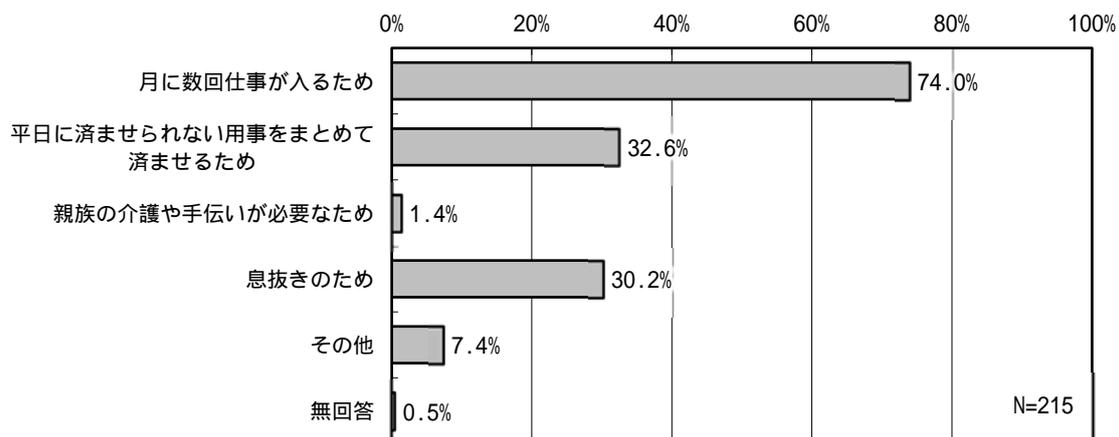
【平成30年度調査結果】



問 24：たまに利用したい理由（複数回答）

問 23（1）または（2）で「月に1～2回は利用したい」と回答した方に、毎週ではなく、たまに利用したい理由について尋ねた。

「月に数回仕事が入るため」が74.0%で最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」32.6%、「息抜きのため」30.2%となっている。



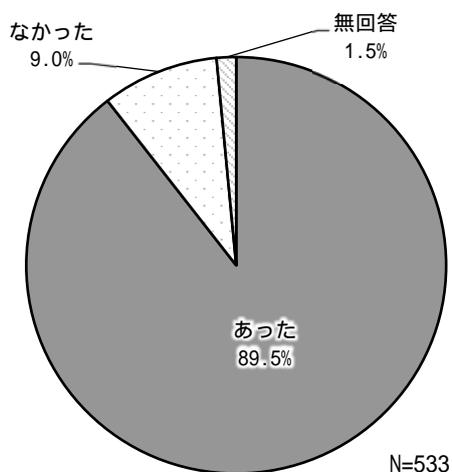
1 - 8 病気の際の対応

問 25：子どもの病気やケガで通常の教育・保育事業を利用できなかったことの有無

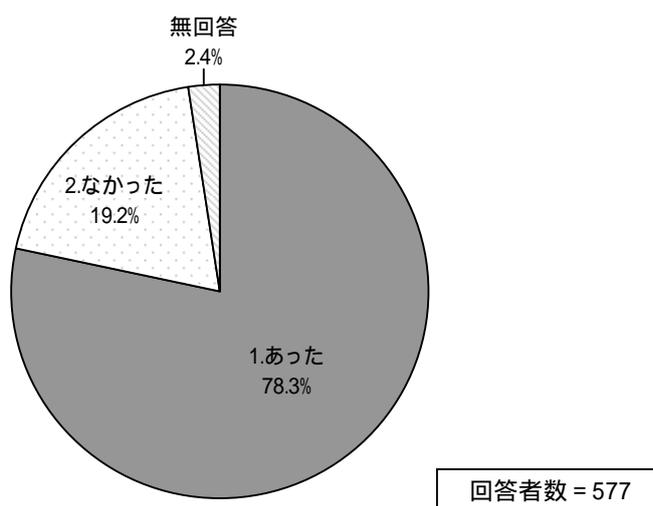
問 15 で平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方に、この1年間子どもが病気やケガのために通常の事業が利用出来なかったことの有無を尋ねた。また、「あった」方には、その対処方法とその日数を尋ねた。

「あった」が89.5%、「なかった」が9.0%となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「あった」が約11ポイント増加している。



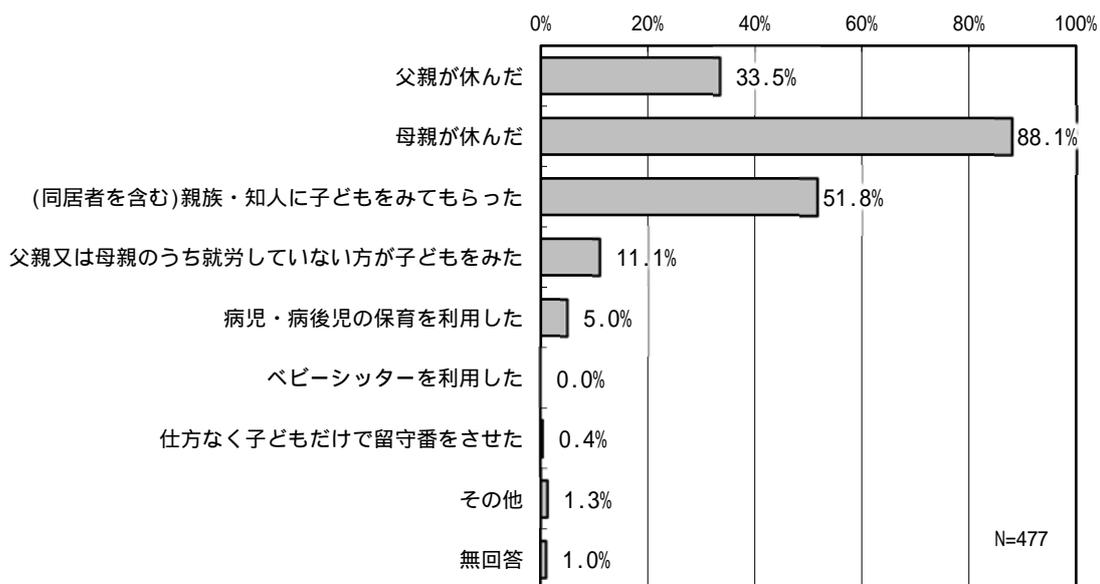
【平成30年度調査結果】



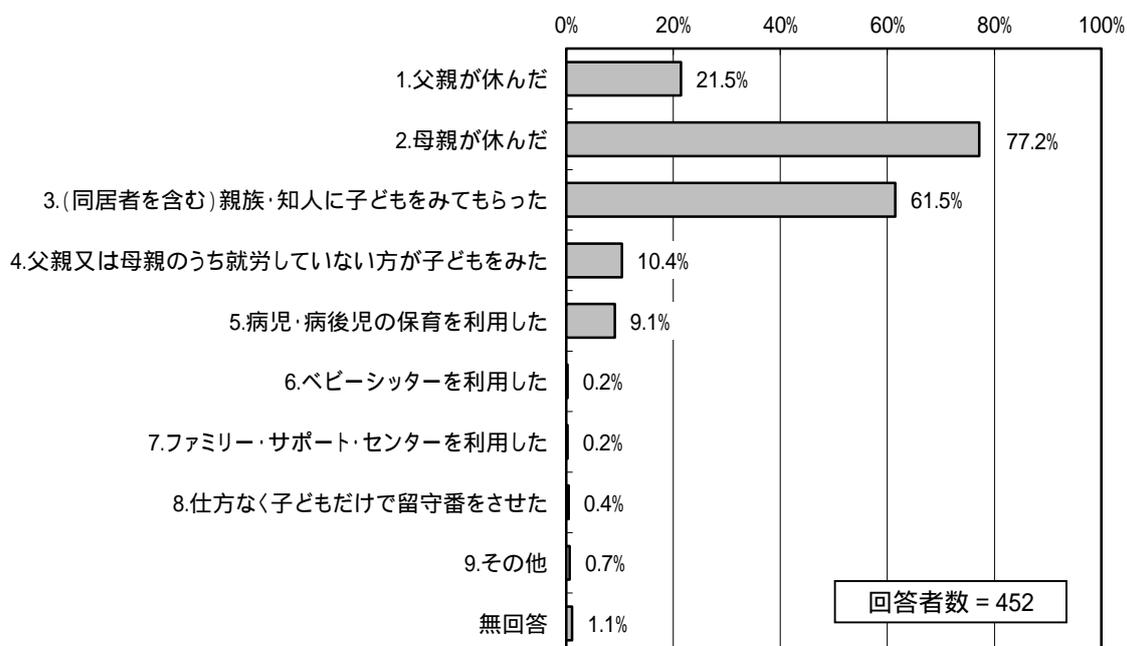
利用できなかった場合の対処方法（複数回答）

「母親が休んだ」が88.1%で最も高く、次いで「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が51.8%、「父親が休んだ」が33.5%となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「父親が休んだ」と「母親が休んだ」が10ポイント以上増加している。



【平成30年度調査結果】



対処方法別の年間日数

父親が休んだ

「1～5日」が113人(70.6%)で最も多く、次いで「6～10日」が36人(22.5%)となっている。

母親が休んだ

「1～5日」が146人(34.8%)で最も多く、次いで「6～10日」が124人(29.5%)、「16～20日」が58人(13.8%)となっている。

(同居者を含む)親族・知人に預けた

「1～5日」が139人(56.3%)で最も多く、次いで「6～10日」が65人(26.3%)、「16～20日」が19人(7.7%)となっている。

就労していない保護者がみた

「1～5日」が18人(34.0%)で最も多く、次いで「6～10日」が13人(24.5%)、「26～30日」が7人(13.2%)となっている。

病児・病後児サービスを利用した

「1～5日」が17人(70.8%)で最も多く、次いで「6～10日」が6人(25.0%)、「16～20日」が1人(4.2%)となっている。

ベビーシッターを利用した

該当者なし。

仕方なく子どもだけで留守番をさせた

「1～5日」が2人(100.0%)となっている。

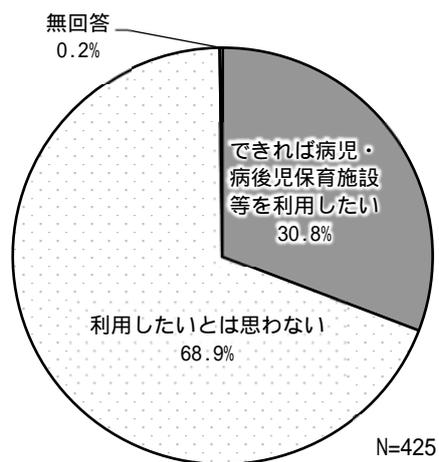
その他

「1～5日」が2人(33.3%)で最も多く、次いで「16～20日」が1人(16.7%)、となっている。

問 26：病児・病後児保育施設等の利用希望

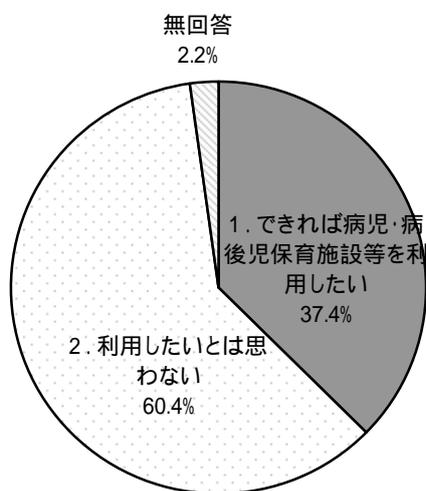
問 25 で「父親が仕事を休んだ」もしくは「母親が仕事を休んだ」と回答した方に、病児・病後児保育施設等の利用希望と、「利用したい」方には、利用したい日数（年間）を尋ねた。

「利用したいとは思わない」が 68.9%で、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が 30.8%となっている。



【平成 30 年度調査結果】

回答者数 = 361

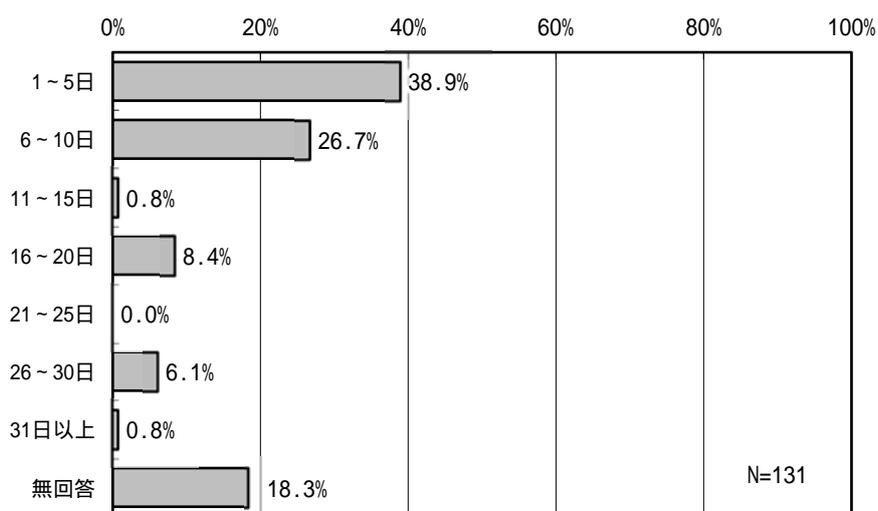


病児・病後児保育施設等の利用希望の日数

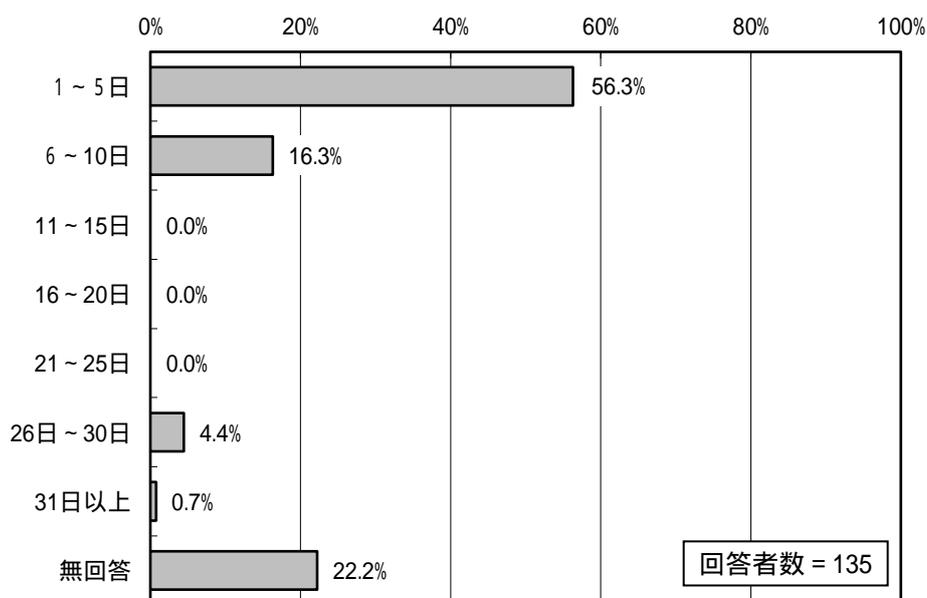
利用したい日数（年間）

「1～5日」が51人(38.9%)で最も多く、次いで「6～10日」が35人(26.7%)、「16～20日」が11人(8.4%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「6～10日」が約10ポイント増加する一方で、「1～5日」が約17ポイント減少している。



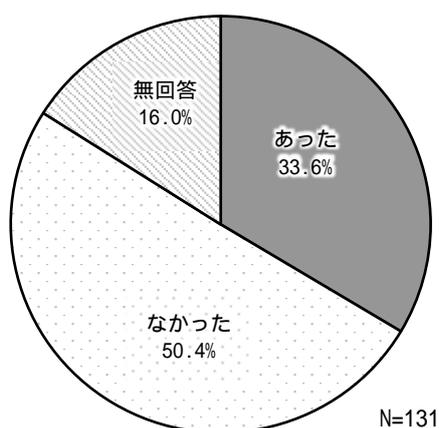
【平成30年度調査結果】



問 27：病児・病後児保育施設の予約状況

病児・病後児保育施設等を利用したかったが、予約できなかったことの有無と、「あった」場合、予約できなかった回数（年間）を尋ねた。

「なかった」が50.4%で、「あった」が33.6%となっている。



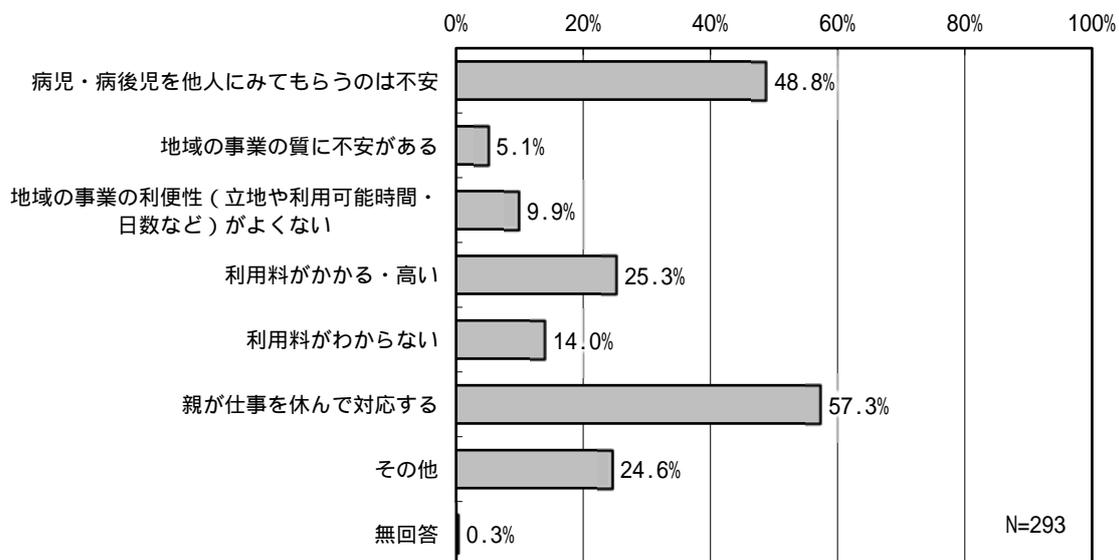
予約できなかった回数（年間）

「1～5回」が36人(81.8%)で最も多く、次いで「6～10回」が6人(13.6%)となっている。

問 28：病児・病後児の保育施設等の利用を希望しない理由（複数回答）

問 26 で「利用したいとは思わない」と回答した方に、病児・病後児の保育施設等の利用を希望しない理由を尋ねた。

「親が仕事を休んで対応する」が57.3%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」が48.8%、「利用料がかかる・高い」が25.3%となっている。

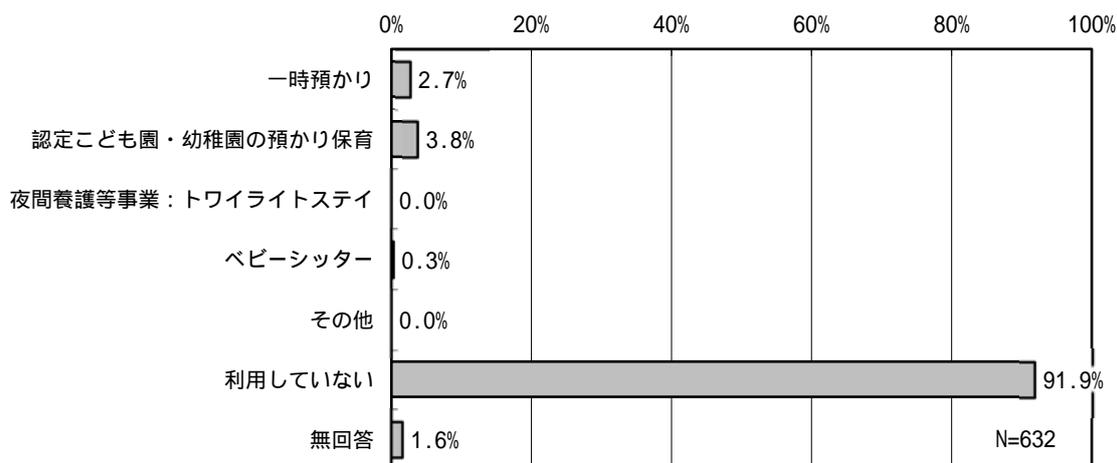


1 - 9 不定期な教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

問 29：私用や親の通院、不定期の就労等を理由として家族以外に預けたことの有無（複数回答）

この1年間で、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業の有無と、「利用している」方には、その際の日数（年間）を尋ねた。

「利用していない」が91.9%を占めている。



対処方法別の利用日数（年間）

一時預かり

「1～5日」が9人(52.9%)で最も多く、次いで「6～10日以上」が2人(11.8%)となっている。

認定こども園・幼稚園の預かり保育

「1～5日」が12人(50.0%)で最も多く、次いで「6～10日」が4人(16.7%)となっている。

夜間養護等事業：トワイライトステイ

該当者なし。

ベビーシッター

「31日以上」が2人(100.0%)となっている。

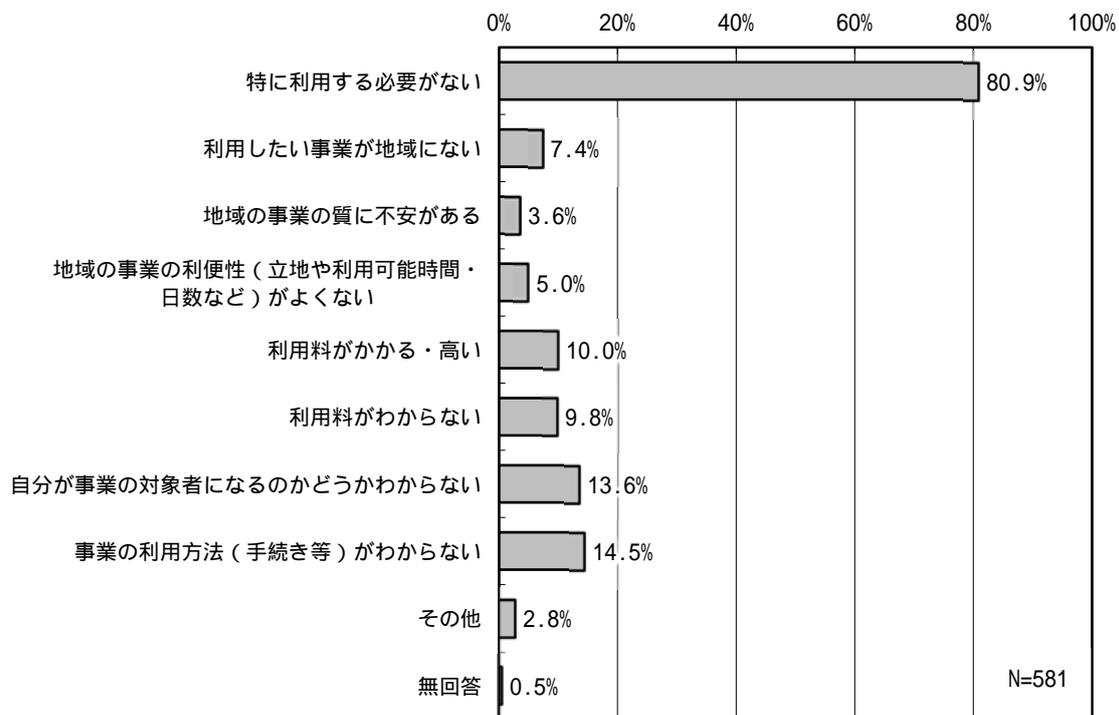
その他

該当者なし。

問 30：現在利用していない理由（複数回答）

問 29 で「利用していない」と回答した方に理由を尋ねた。

「特に利用する必要がない」が 80.9%で最も高く、次いで「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が 14.5%、「自分が事業の対象になるのかどうかわからない」が 13.6%となっている。

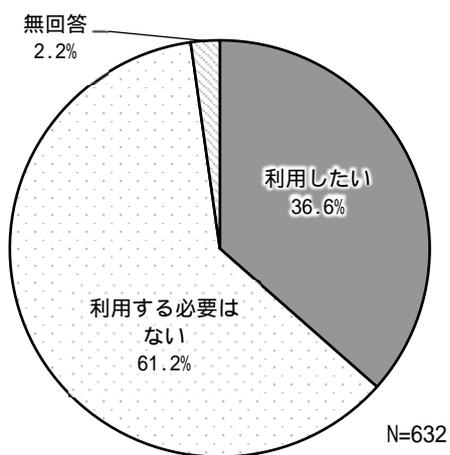


問 31：私用や親の通院、不定期の就労等を理由とする利用希望の有無

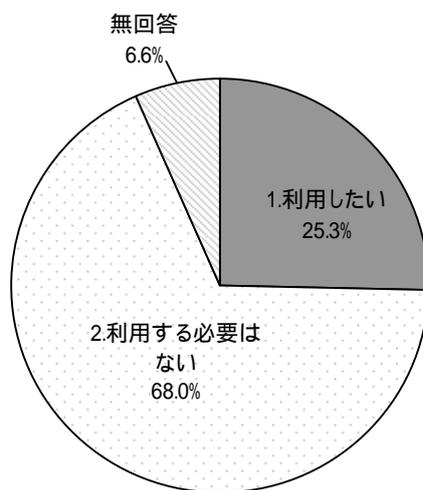
調査対象児童について、私用や親の通院、不定期就労などの目的で事業を利用する必要の有無と、「利用したい」方には、利用目的と必要な日数（年間）を尋ねた。

「利用する必要はない」が61.2%で、「利用したい」が36.6%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「利用したい」が約 11 ポイント増加している。



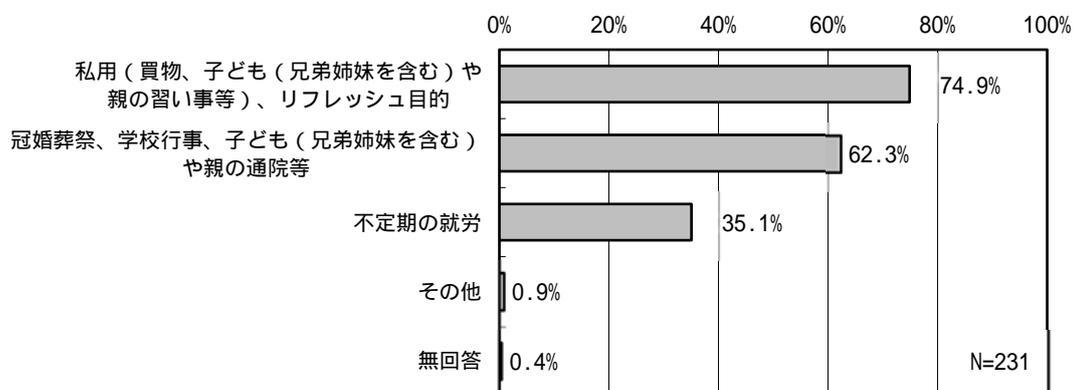
【平成 30 年度調査結果】



回答者数 = 651

利用目的（複数回答）

「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」74.9%が最も高く、次いで、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が62.3%、「不定期の就労」が35.1%となっている。



目的別の利用希望日数（年間）

私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的
「1～5日」が70人（40.5%）で最も多く、次いで「6～10日」が50人（28.9%）となっている。

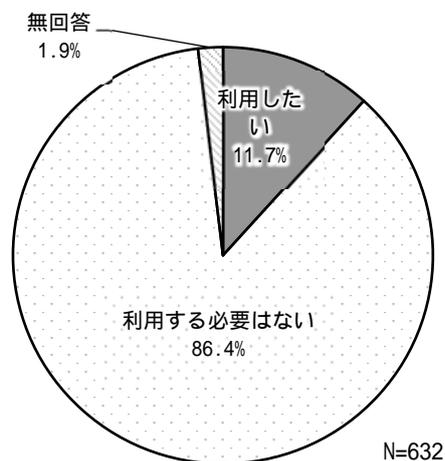
冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等
「1～5日」が96人（66.7%）で最も多く、次いで「6～10日」が24人（16.7%）となっている。

不定期の就労
「1～5日」が31人（38.3%）で最も多く、次いで「6～10日」が15人（18.5%）となっている。

問 32：保護者の用事により、子どもを泊りがけで家族以外に預ける必要性の有無

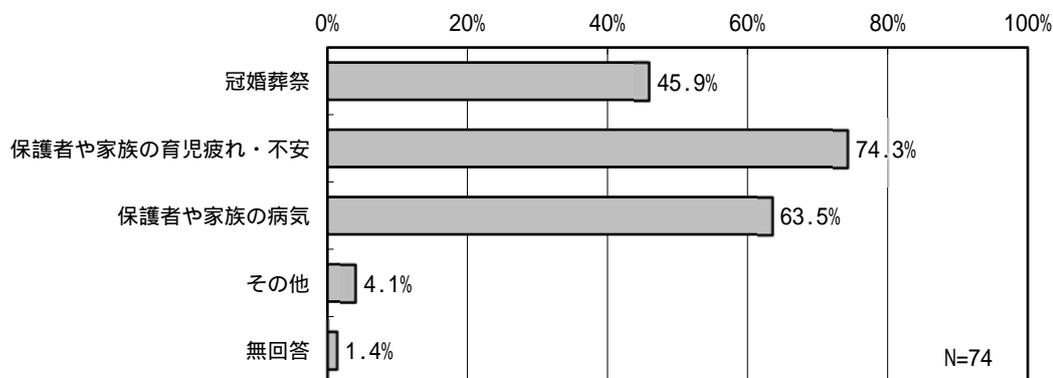
調査対象児童について、保護者の用事により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要の有無と「利用したい」方には、その際の理由と泊数（年間）を尋ねた。

「利用する必要はない」が86.4%で、「利用したい」が11.7%となっている。



利用目的（複数回答）

「保護者や家族の育児疲れ・不安」が74.3%で最も高く、次いで「保護者や家族の病気」が63.5%、「冠婚葬祭」が45.9%となっている。



理由別の利用希望泊数（年間）

冠婚葬祭

「1～5泊」が30人(88.2%)で最も多く、次いで「6～10泊」が1人(2.9%)となっている。

保護者や家族の育児疲れ・不安

「1～5泊」が45人(81.8%)で最も多く、次いで「6～10泊」が4人(7.3%)となっている。

保護者や家族の病気

「1～5泊」が42人(89.4%)で最も多く、次いで「6～10泊」が3人(6.4%)となっている。

その他

「1～5泊」が2人(66.7%)、次いで「6～10泊」が1人(33.3%)となっている。

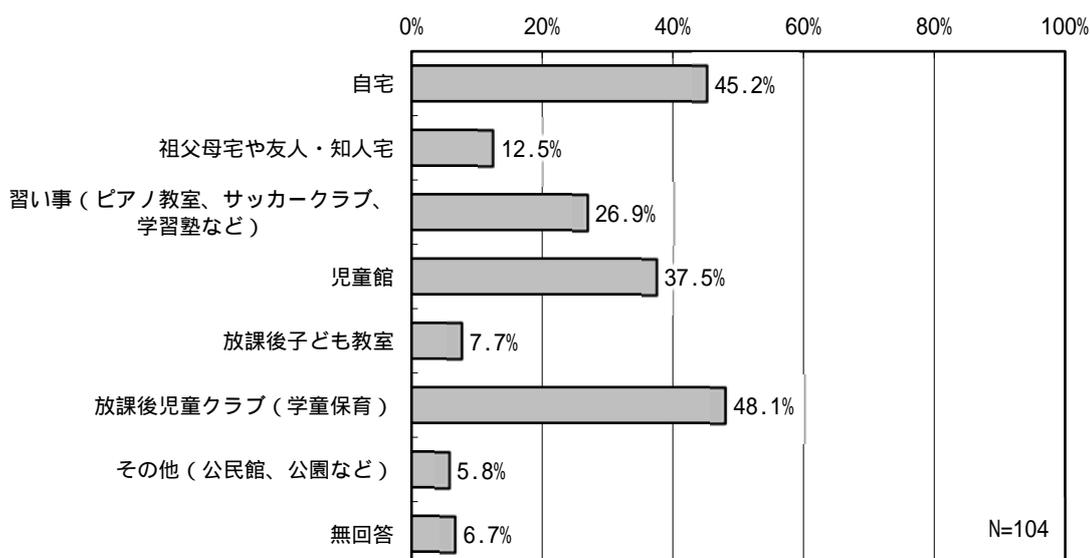
1 - 10 来年度就学予定の子どもの小学校就学後の放課後の過ごし方

問 33：小学生になった時に放課後過ごさせたい場所

子どもの年齢が5歳になる方で、小学生になったら、放課後過ごさせたい場所と利用希望日数（週）について尋ねた。

（1）小学校低学年で放課後の時間を過ごさせたい場所（複数回答）

「放課後児童クラブ（学童保育）」が48.1%で最も高く、次いで「自宅」が45.2%、「児童館」が37.5%となっている。



場所別の利用希望日数

自宅

「週3日」が13人(27.7%)で最も多く、次いで「週5日」が12人(25.5%)、「週1日」が8人(17.0%)となっている。

祖父母宅や友人・知人宅

「週1日」と「週2日」がそれぞれ4人(30.8%)で最も多く、次いで「週4日」が2人(15.4%)となっている。

習い事

「週1日」が18人(64.3%)で最も多く、次いで「週2日」が7人(25.0%)、「週3日」が3人(10.7%)となっている。

児童館

「週5日」が15人(38.5%)で最も多く、次いで「週3日」が9人(23.1%)、「週2日」が7人(17.9%)となっている。

放課後子ども教室

「週1日」が4人(50.0%)で最も多く、次いで「週3日」が2人(25.0%)となっている。

放課後児童クラブ（学童保育）

「週5日」が30人(60.0%)で最も多く、次いで「週2日」が7人(14.0%)となっている。

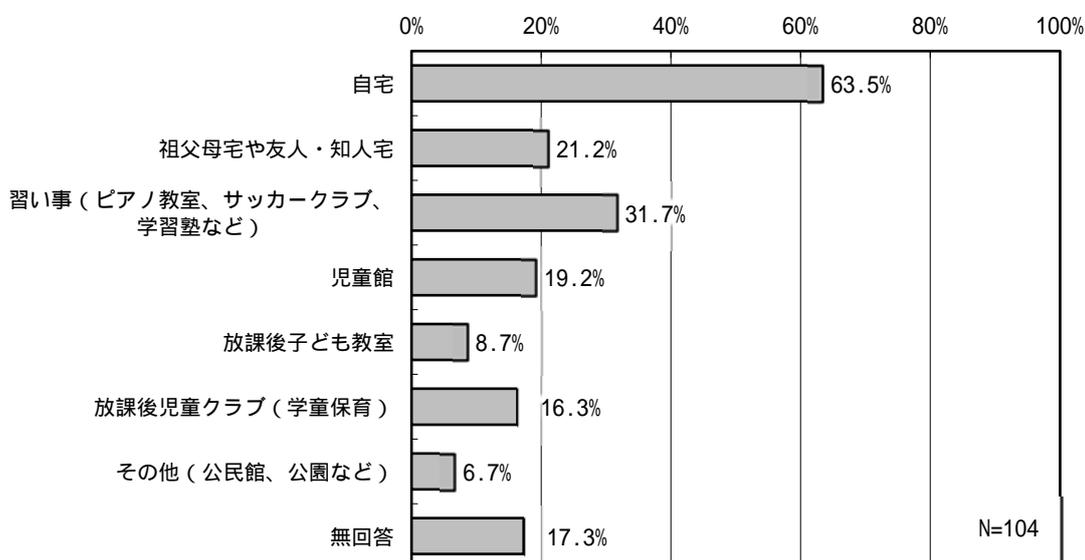
終了時刻は、「17時台」が23人(46.0%)で最も多く、次いで「18時台」が17人(34.0%)、「16時台」が4人(8.0%)となっている。

その他（公民館、公園など）

「週2日」が3人(50.0%)、次いで「週1日」が2人(33.3%)となっている。

(2) 小学校高学年で放課後の時間を過ごさせたい場所(複数回答)

「自宅」が63.5%で最も高く、次いで「習い事」が31.7%、「祖父母宅や友人・知人宅」が21.2%となっている。



場所別の希望日数

自宅

「週5日」が30人(45.5%)で最も多く、次いで「週2日」と「週3日」がそれぞれ9人(13.6%)となっている。

祖父母宅や友人・知人宅

「週2日」が6人(27.3%)で最も多く、次いで「週1日」が5人(22.7%)、「週3日」が4人(18.2%)となっている。

習い事

「週1日」が15人(45.5%)で最も多く、次いで「週2日」が11人(33.3%)、「週3日」が6人(18.2%)となっている。

児童館

「週3日」が8人(40.0%)で最も多く、次いで「週2日」が5人(25.0%)、「週1日」が3人(15.0%)となっている。

放課後子ども教室

「週1日」が4人(44.4%)で最も多く、次いで「週3日」と「週5日」が2人(22.2%)となっている。

放課後児童クラブ(学童保育)

「週5日」が6人(35.3%)で最も多く、次いで「週2日」と「週3日」がそれぞれ4人(23.5%)となっている。

終了時刻は、「18時台」が9人(52.9%)で最も多く、次いで「17時台」が6人(35.3%)となっている。

その他(公民館、公園など)

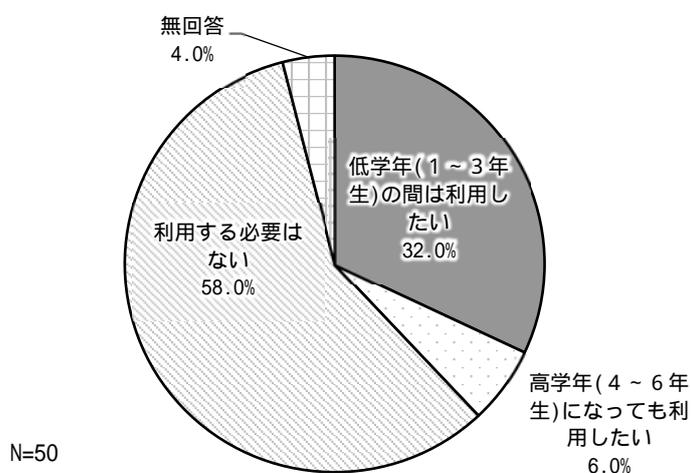
「週1日」が3人(42.9%)で最も多く、次いで「週2日」と「週3日」がそれぞれ2人(28.6%)となっている。

問 34：土曜日の放課後児童クラブの利用希望

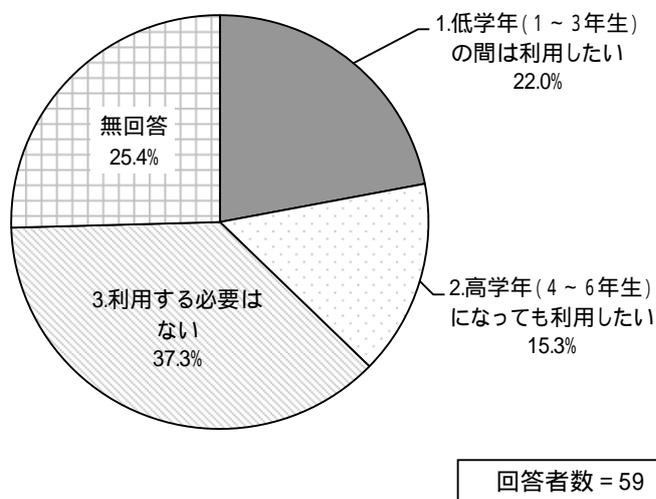
問 33 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方に、土曜日の放課後児童クラブの利用希望と、「利用したい」方には、利用希望時間帯を尋ねた。

「利用する必要はない」が 58.0%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 32.0%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 6.0%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は 10 ポイント、「利用する必要はない」が約 21 ポイント増加している。



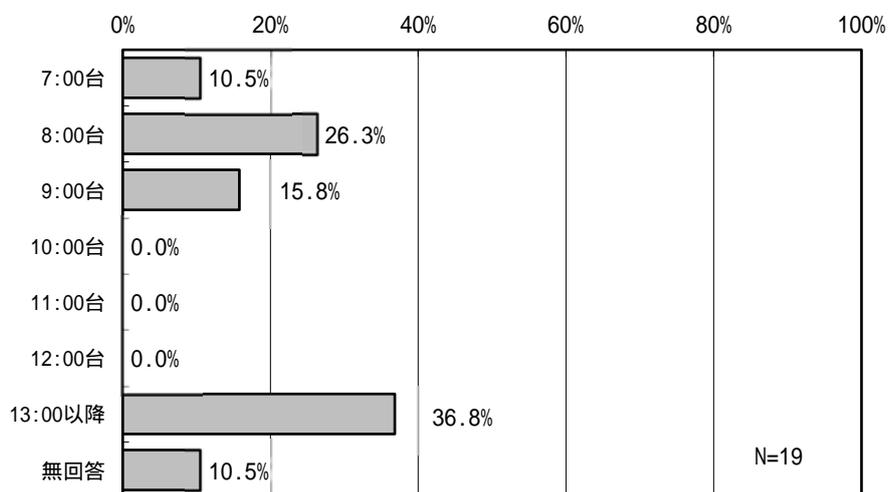
【平成 30 年度調査結果】



利用したい時間帯

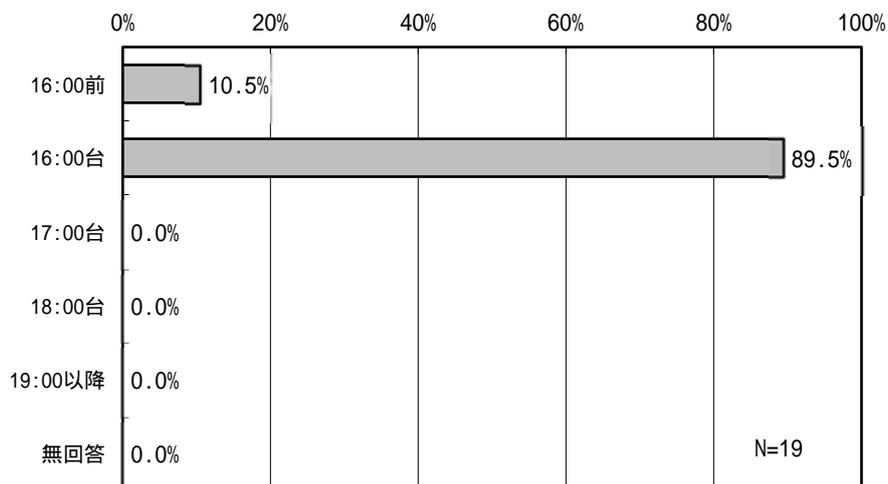
利用したい時間帯(開始時刻)

「13時以降」が7人(36.8%)で最も多く、次いで「8時台」が5人(26.3%)となっている。



利用したい時間帯(終了時刻)

「16時台」が17人(89.5%)で最も多く、次いで「16時前」が2人(10.5%)となっている。

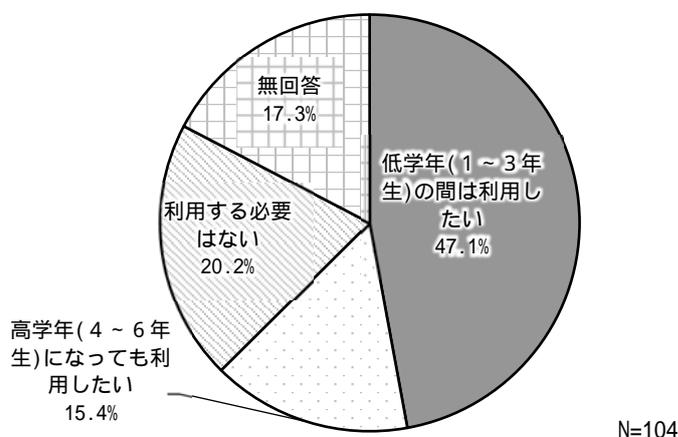


問 35：長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望

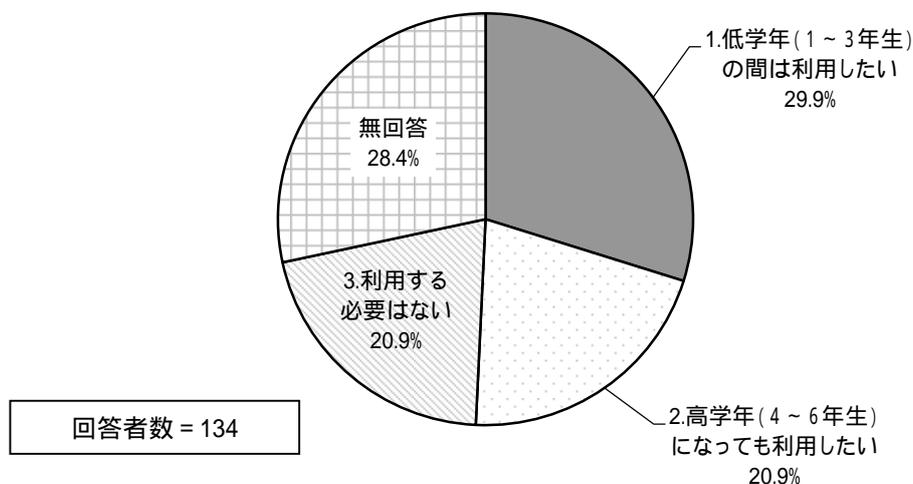
調査対象児童の長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望と、「利用したい」方には、利用希望時間帯を尋ねた。

「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が47.1%で最も高く、次いで「利用する必要はない」が20.2%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が15.4%となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が約17ポイント増加している。



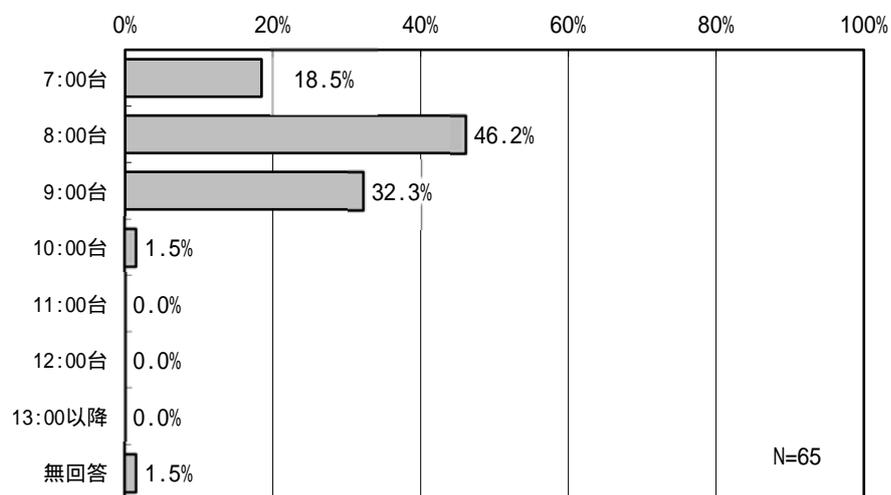
【平成30年度調査結果】



利用したい時間帯

利用したい時間帯(開始時刻)

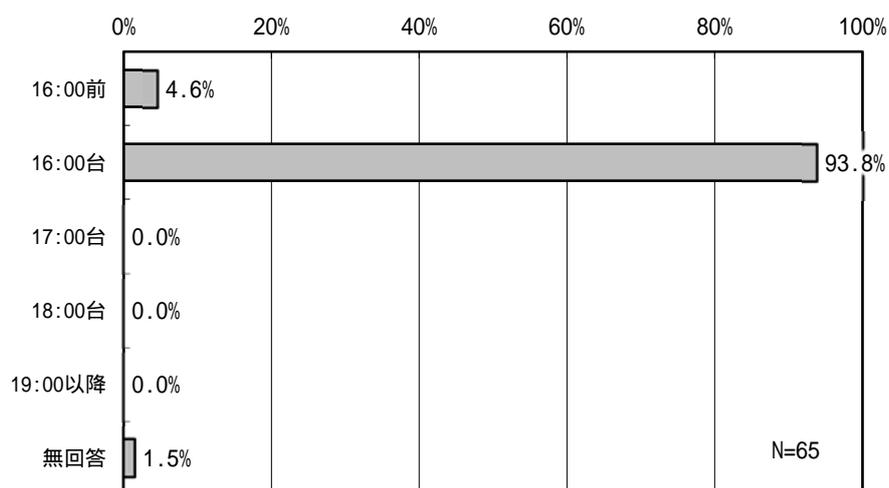
「8時台」が30人(46.2%)で最も多く、次いで「9時台」が21人(32.3%)となっている。



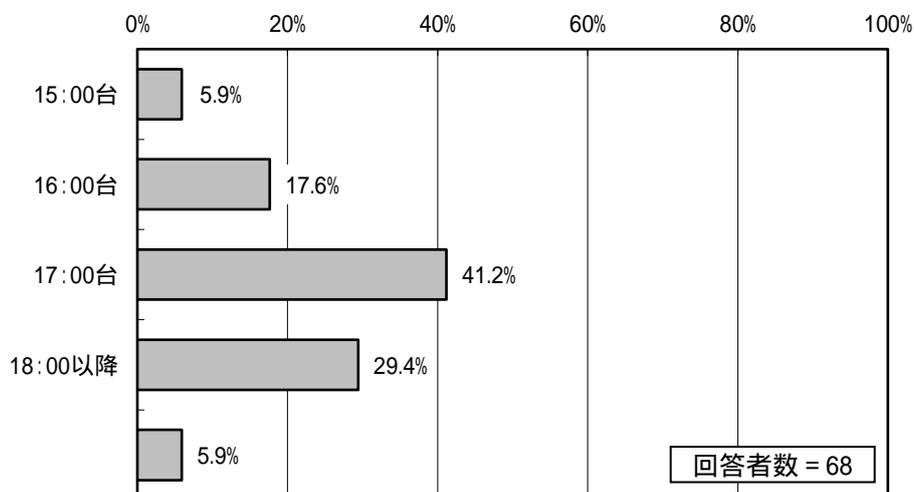
利用したい時間帯(終了時刻)

「16時台」が61人(93.8%)で最も多く、次いで「16時前」が3人(4.6%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「16時台」が約76ポイント増加している一方で、「18時台」以降は大きく減少している。



【平成30年度調査結果】



1 - 11 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

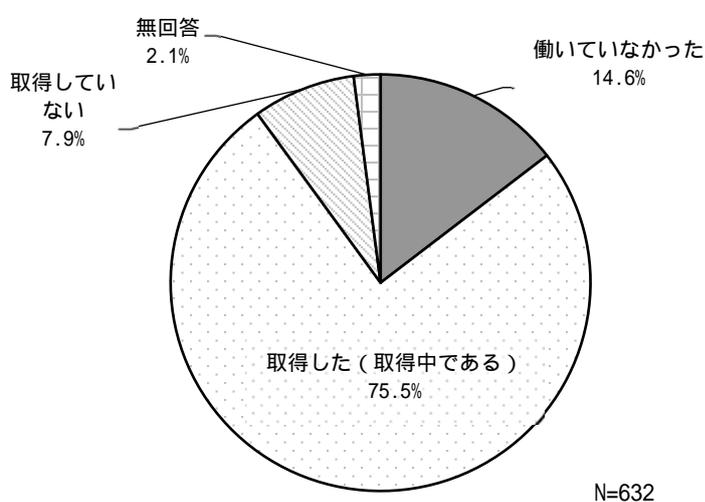
問 36 : 父母の育児休業の取得状況及び取得していない場合の理由

調査対象児童が生まれた時育児休業を取得したか、また「取得していない」方には、その理由を尋ねた。

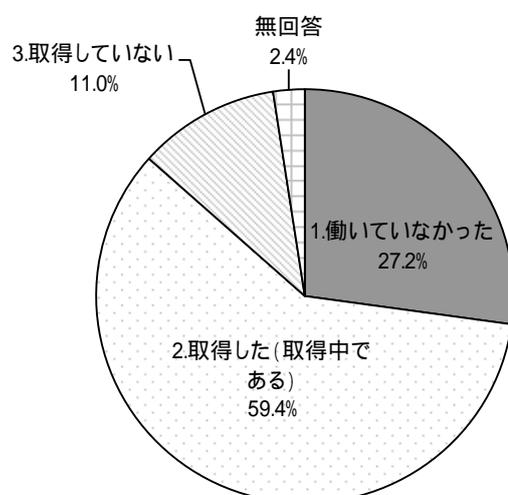
(1) 母親の育児休業の取得状況

「取得した（取得中である）」が75.5%で最も高く、次いで「働いていなかった」が14.6%、「取得していない」が7.9%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「取得した（取得中である）」が約 16 ポイント増加する一方で、「働いていなかった」が約 13 ポイント減少している。



【平成 30 年度調査結果】



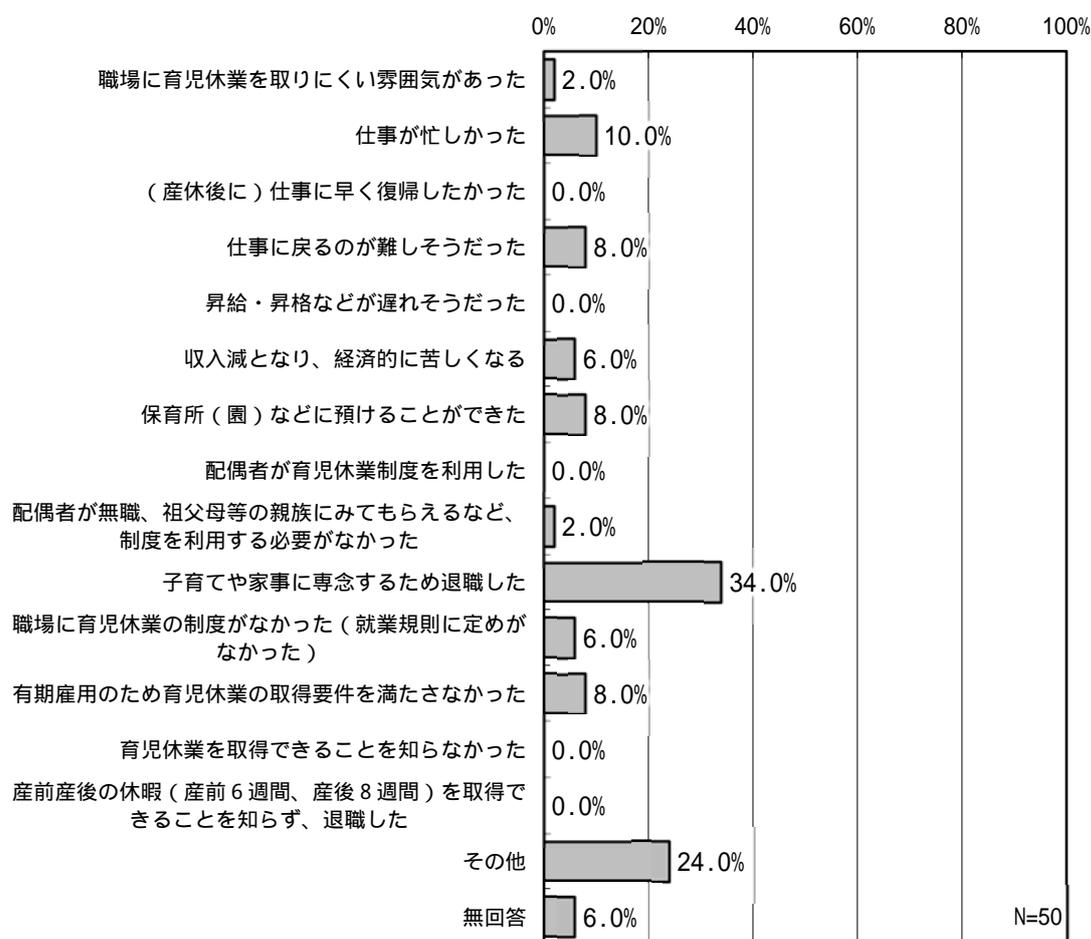
回答者数 = 655

母親が育児休業を取得していない場合の理由（複数回答）

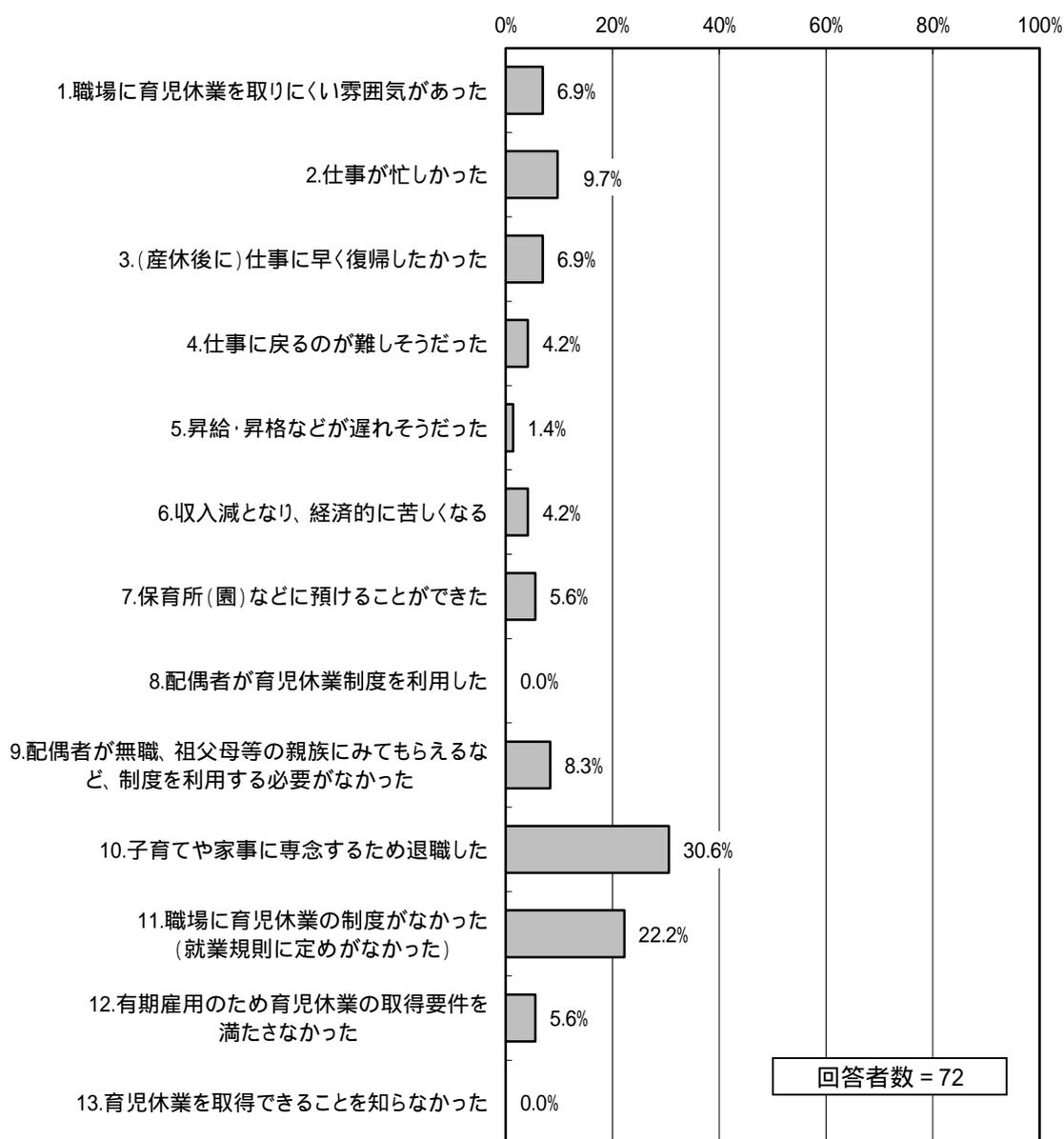
「子育てや家事に専念するため退職した」が 34.0%で最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が 10.0%となっている。

「その他」の意見として、『自営業だったため』『仕事上、産休がなかった』、『育休明けに短時間勤務制度は使うなどと言われ、退職を選択』、『役職』、『専業主婦』、『学生』、『引っ越しを機に退職をしたため』、『自営業だったため』があげられた。

平成 30 年度調査結果と比べると、「職場に育児休業の制度がなかった」が約 16 ポイント減少している。



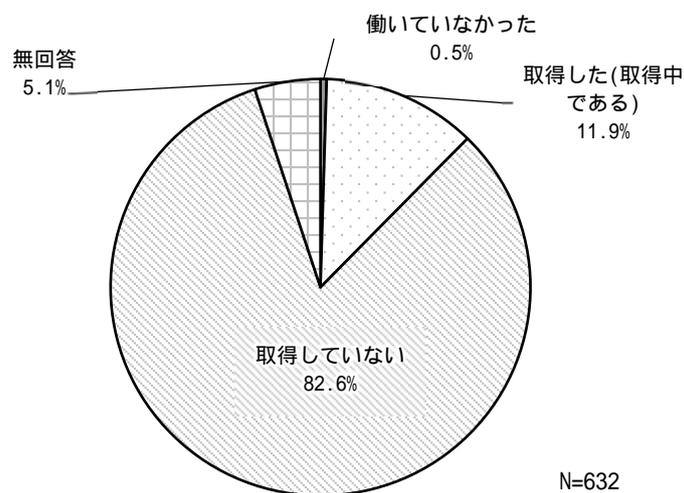
【平成 30 年度調査結果】



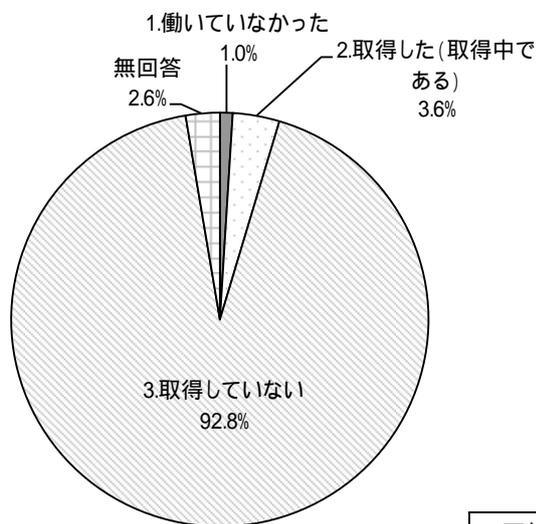
(2) 父親の育児休業の取得状況

「取得していない」が82.6%で最も高く、次いで「取得した(取得中である)」が11.9%、「働いていなかった」が0.5%となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「取得していない」が約10ポイント減少している。



【平成30年度調査結果】

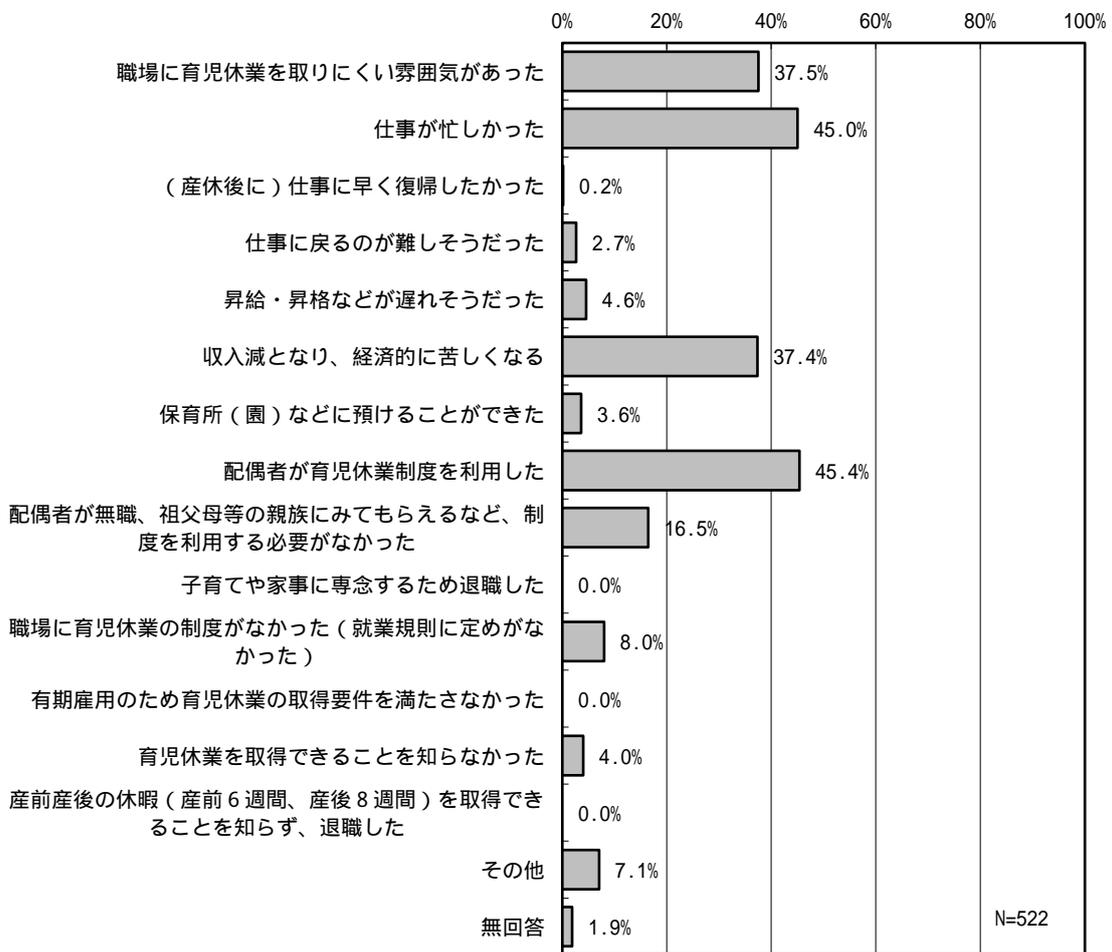


父親が育児休業を取得していない場合の理由（複数回答）

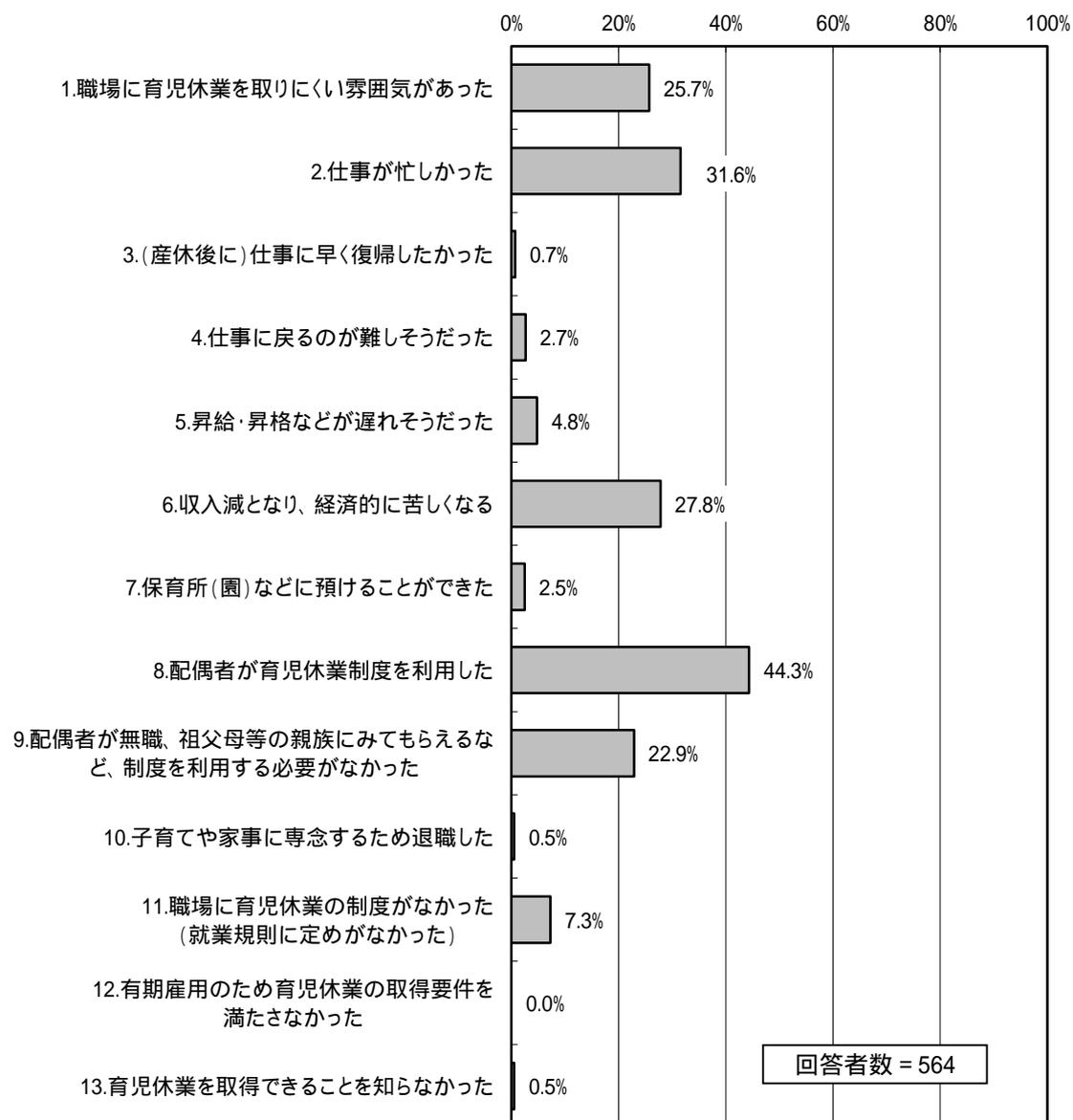
「配偶者が育児休業制度を利用した」が45.4%で最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が45.0%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が37.5%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が37.4%となっている。

「その他」の意見として、『自営業だったため』が最も多く、『職員数が少ない』、『実績や前例がなかった』、『育児休業する発想がなかった』などがあげられた。

平成30年度調査結果と比べると、「仕事が忙しかった」と「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が約12ポイント以上増加している。



【平成 30 年度調査結果】



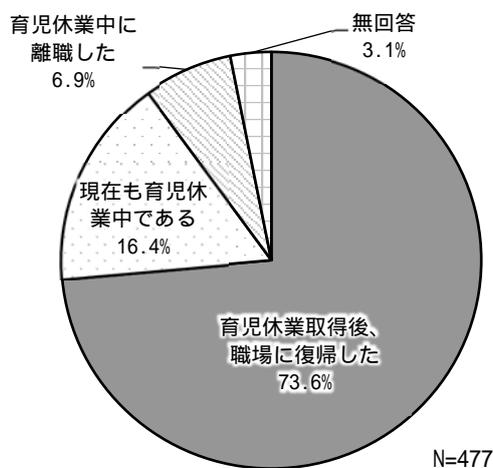
問 37：職場復帰の状況

問 36 で「取得した（取得中である）」と回答した方に、育児休業取得後、職場に復帰したかを尋ねた。

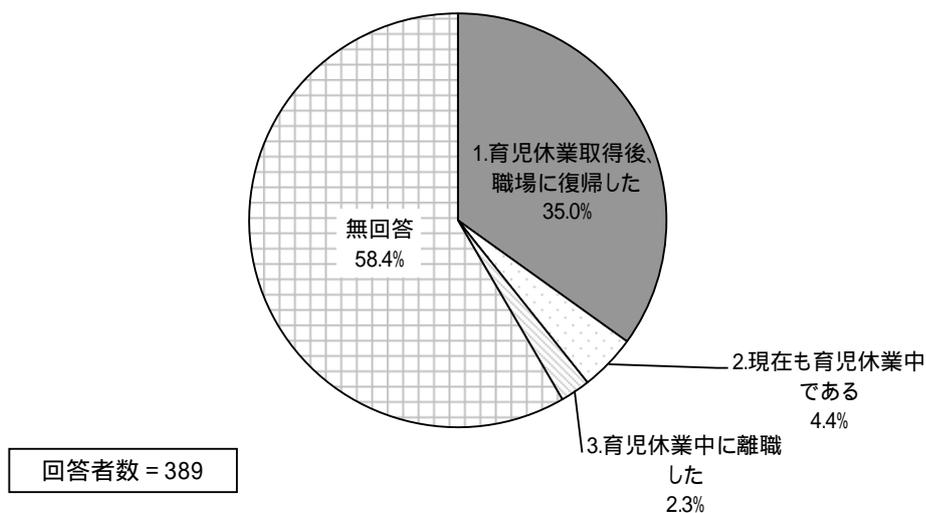
(1) 母親

「育児休業取得後、職場に復帰した」が 73.6%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が 16.4%、「育児休業中に離職した」が 6.9%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が約 39 ポイント増加している。



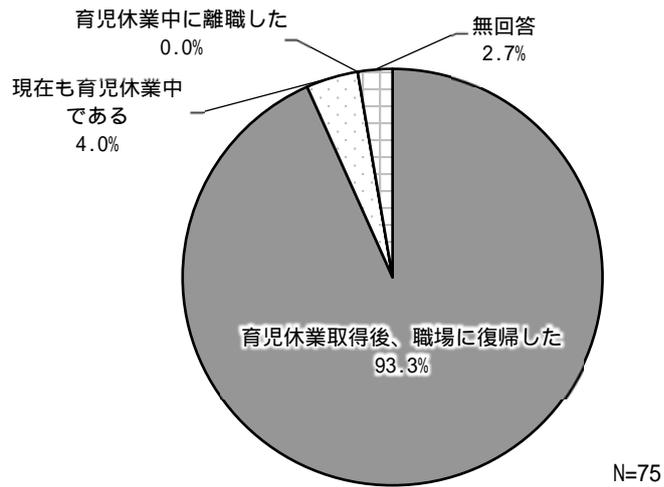
【平成 30 年度調査結果】



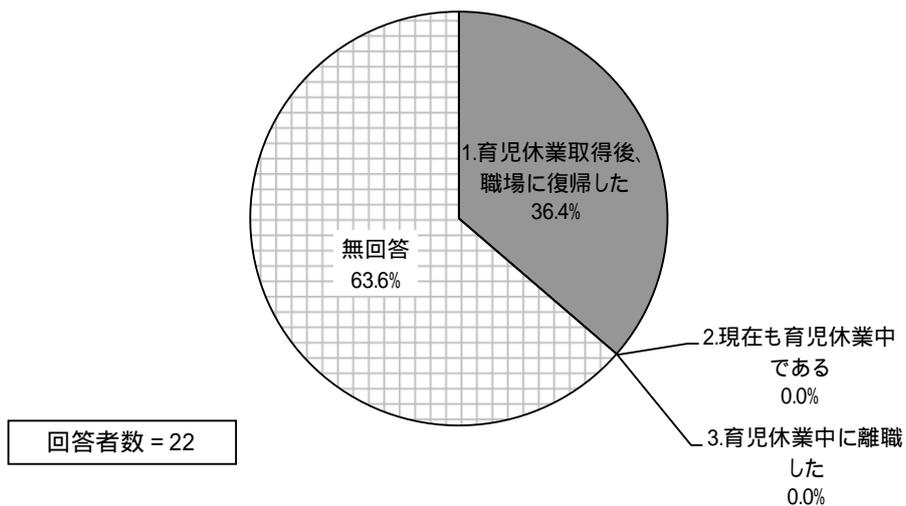
(2) 父親

「育児休業取得後、職場に復帰した」が93.3%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が4.0%となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が約57ポイント増加している。



【平成30年度調査結果】



問 38：実際の職場復帰時期と希望していた時期

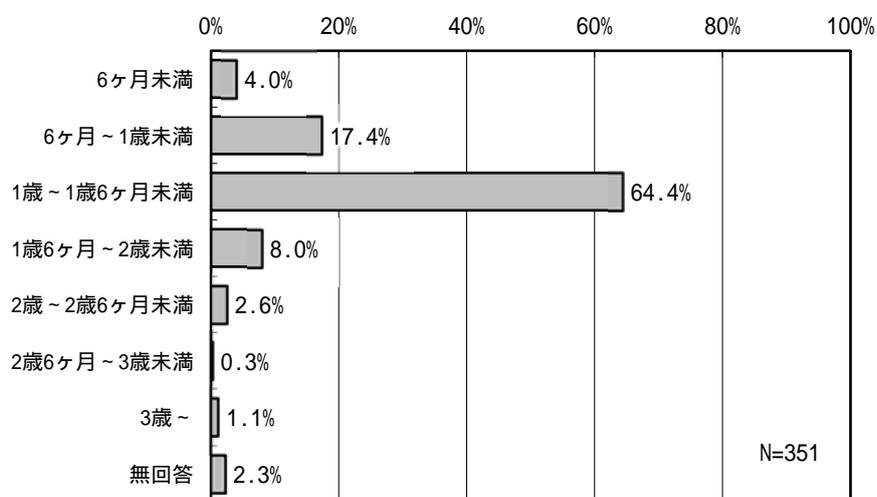
問 37 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方に、実際の職場復帰時期と希望していた時期を尋ねた。

(1) 母親

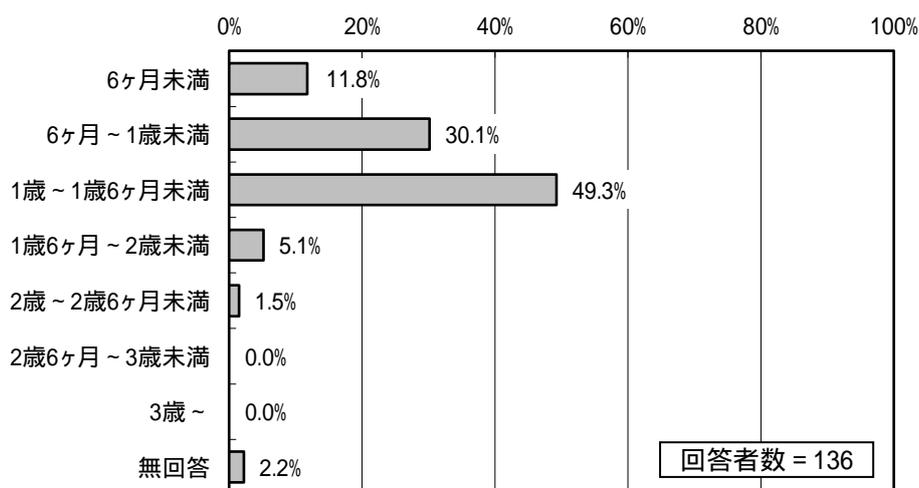
実際の職場復帰時期

「1歳～1歳6ヶ月未満」が 226 人(64.4%)で最も多く、次いで「6ヶ月～1歳未満」が 61 人(17.4%)、「1歳6ヶ月～2歳未満」が 28 人(8.0%)となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「1歳～1歳6ヶ月未満」が約 15 ポイント増加する一方で、「6ヶ月～1歳未満」が約 13 ポイント減少している。



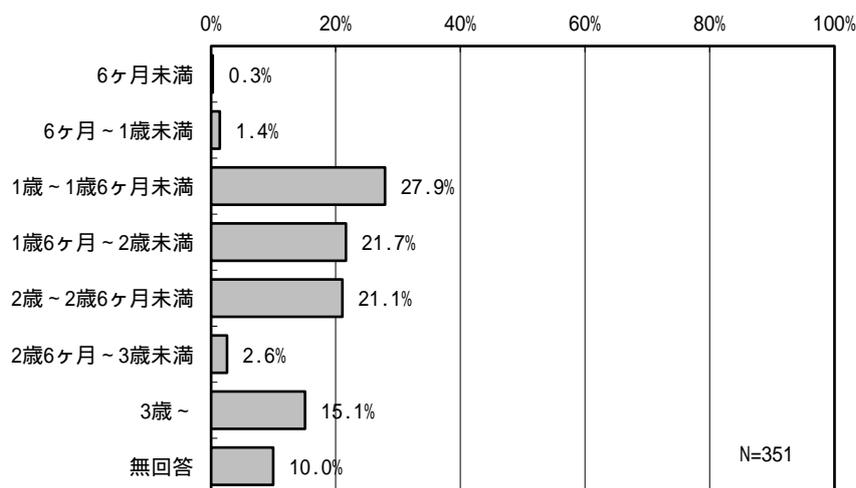
【平成 30 年度調査結果】



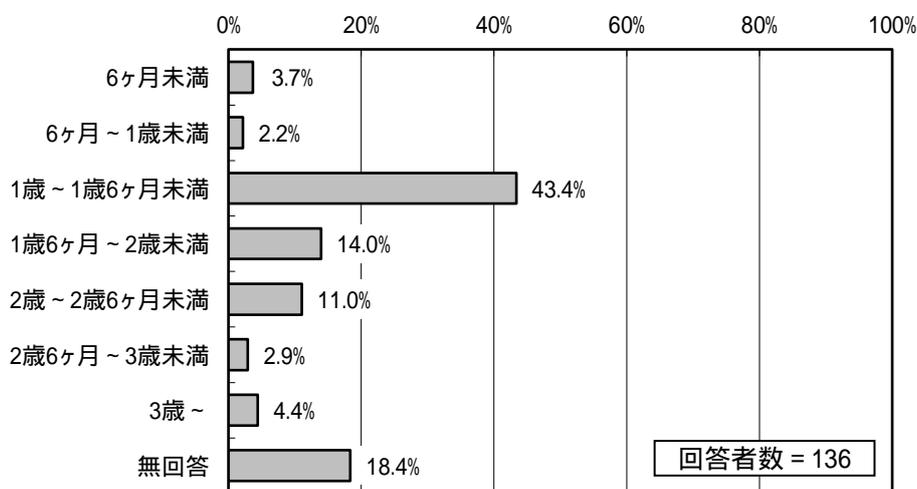
希望の職場復帰時期

「1歳～1歳6ヶ月未満」が98人(27.9%)で最も多く、次いで「1歳6ヶ月～2歳未満」が76人(21.7%)、「2歳～2歳6ヶ月未満」が74人(21.1%)となっている。

平成30年度調査結果と比べると、「3歳～」が約11ポイント増加する一方で、「1歳～1歳6ヶ月未満」が約16ポイント減少している。



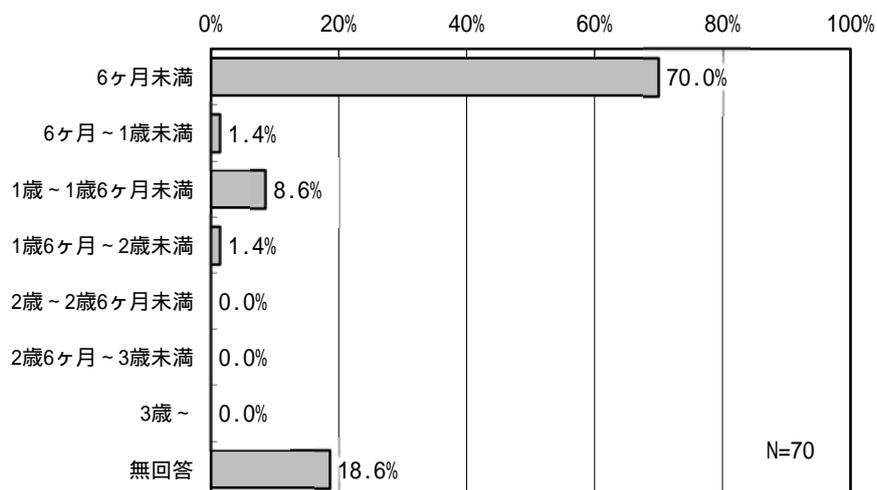
【平成30年度調査結果】



(2) 父親

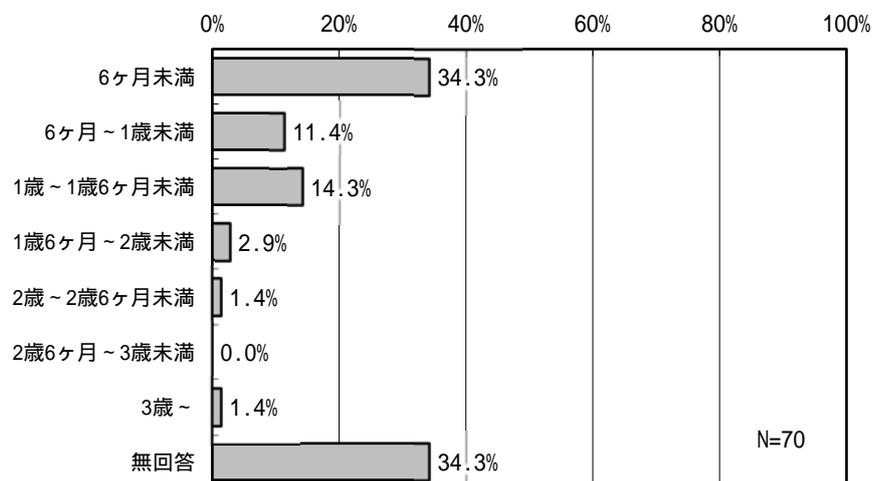
実際の職場復帰時期

「6ヶ月未満」が49人(70.0%)で最も多く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」が6人(8.6%)となっている。



希望の職場復帰時期

「6ヶ月未満」が24人(34.3%)で最も多く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」が10人(14.3%)、「6ヶ月～1歳未満」が8人(11.4%)となっている。



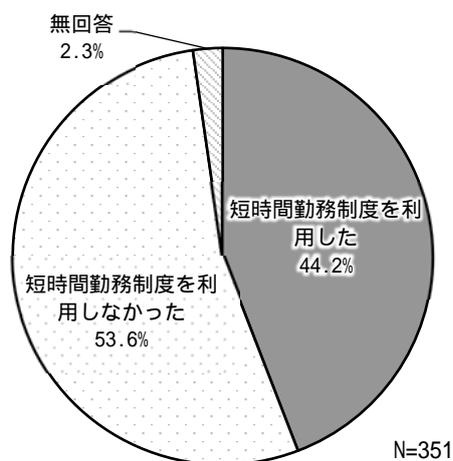
問 39：職場復帰時の短時間勤務制度の利用の有無

問 37 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方に、職場復帰時の短時間勤務制度の利用の有無を尋ねた。

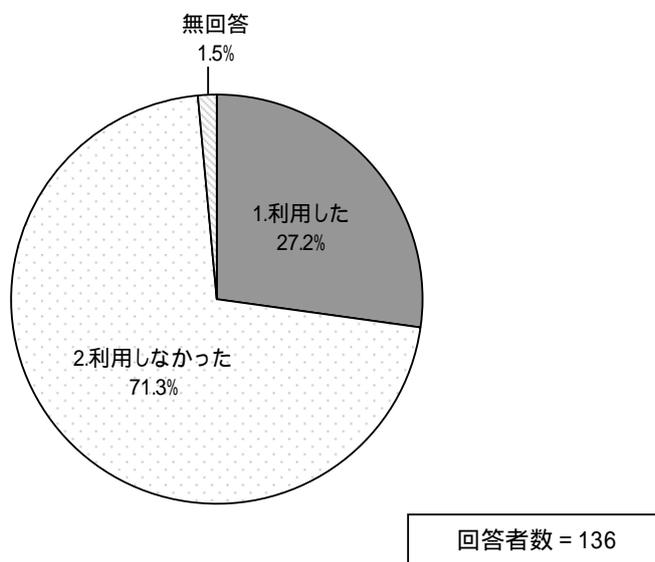
(1) 母親

「短時間勤務制度を利用しなかった」が 53.6%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「短時間勤務制度を利用した」が 17 ポイント増加している。

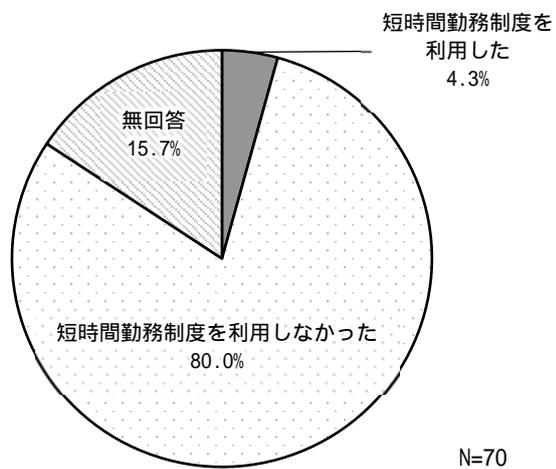


【平成 30 年度調査結果】

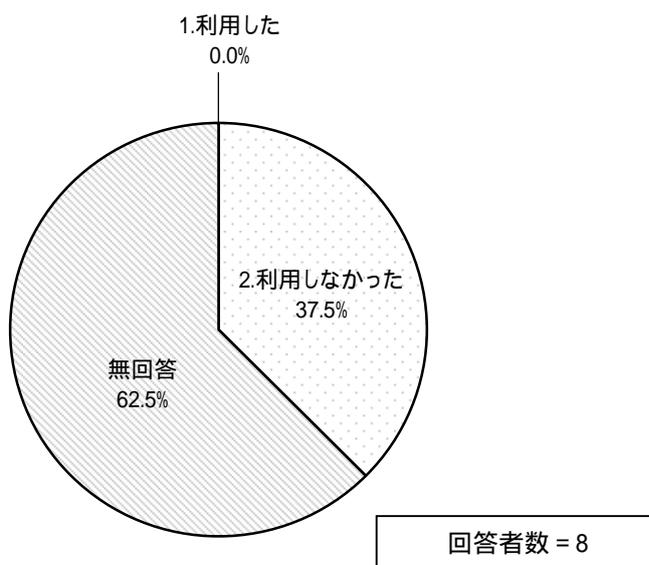


(2) 父親

「短時間勤務制度を利用しなかった」が80.0%となっている。



【平成30年度調査結果】

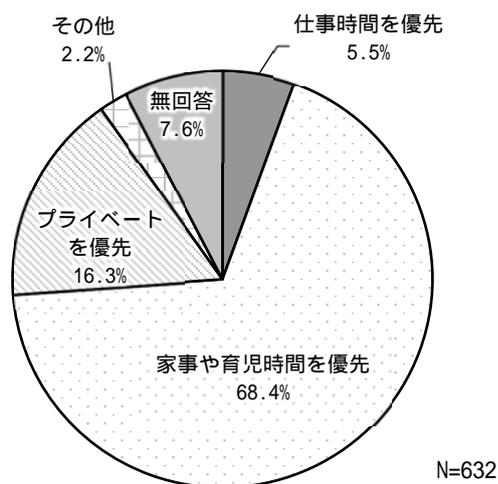


問 40 : 仕事・家庭・プライベートの優先度 (希望・現実)

希望と現実の2つの視点から、「仕事時間」と「家事(育児)・プライベート」の優先度を尋ねた。

希望する仕事・家庭・プライベートの優先度

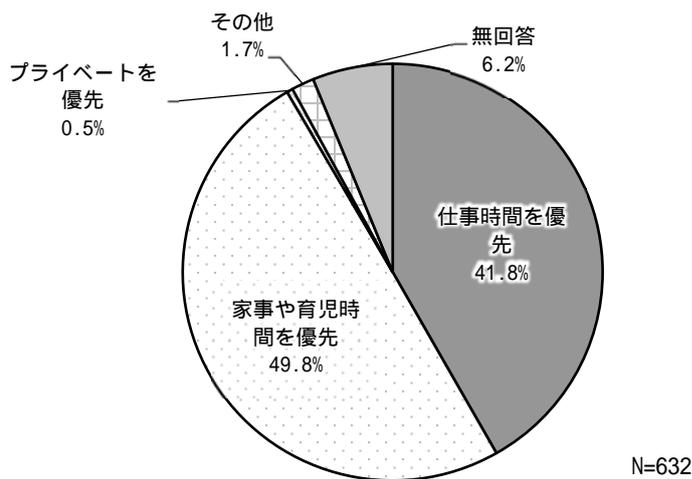
「家事や育児時間を優先」が 68.4%で最も高くなっており、次いで「プライベートを優先」が 16.3%となっている。



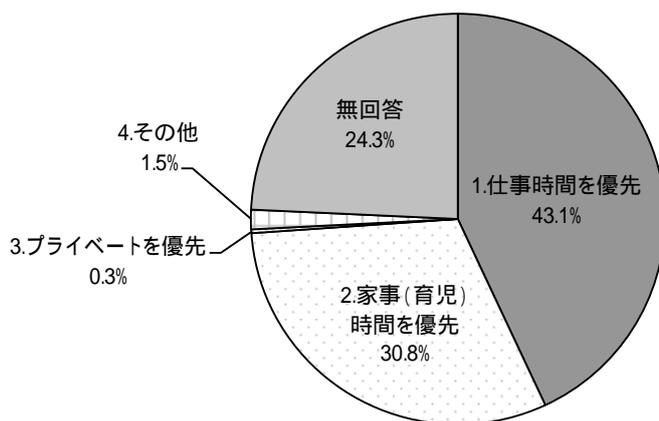
現実の仕事・家庭・プライベートの優先度

「家事や育児時間を優先」が 49.8%で最も高くなっており、次いで「仕事時間を優先」が 41.8%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「家事や育児時間を優先」が 19 ポイント増加している。



【平成 30 年度調査結果】



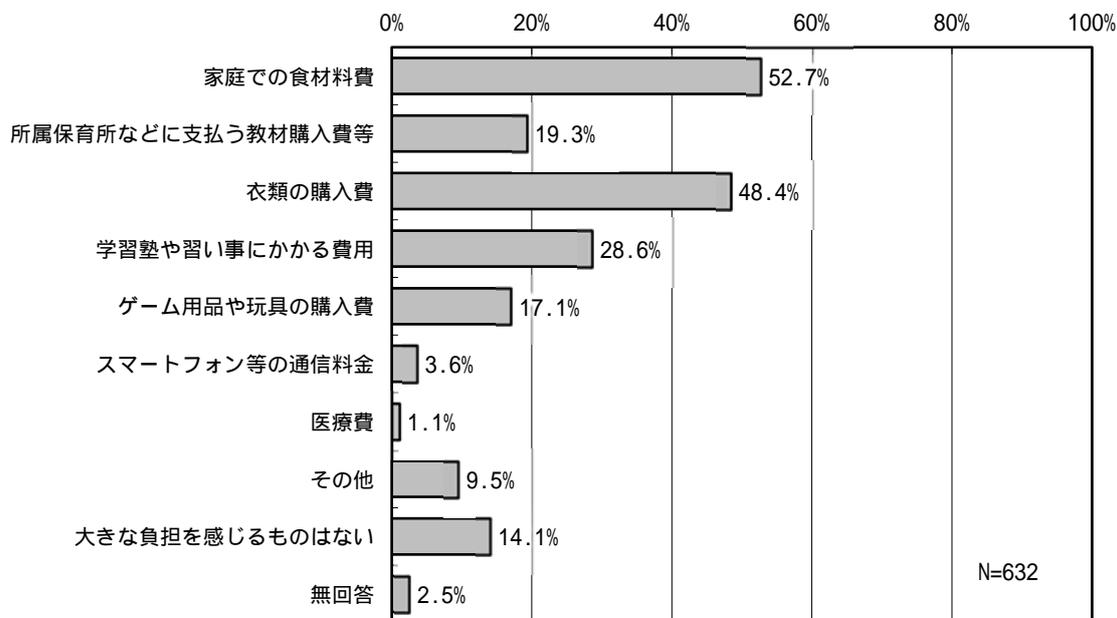
回答者数 = 655

1 - 12 生活実態や家計の状況について

問 41：子どもにかかる費用（複数回答）

子どもにかかる費用のうち、経済的に負担が大きいと感じるものは何かを尋ねた。

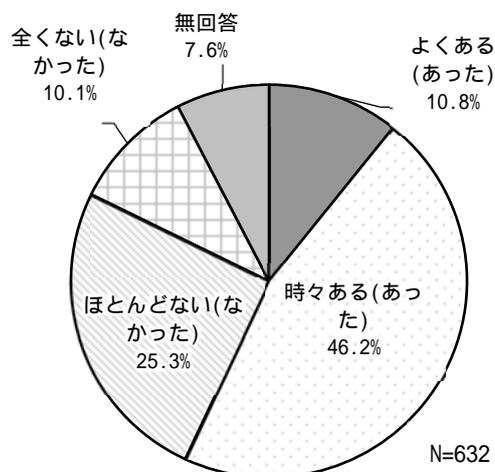
「家庭での食材料費」が52.7%で最も高く、次いで「衣類の購入費」が48.4%、「学習塾や習い事にかかる費用」が28.6%となっている。



問 42：子どもへの接し方

子どもに対して必要以上の厳しきで接していると思う事があるかを尋ねた。

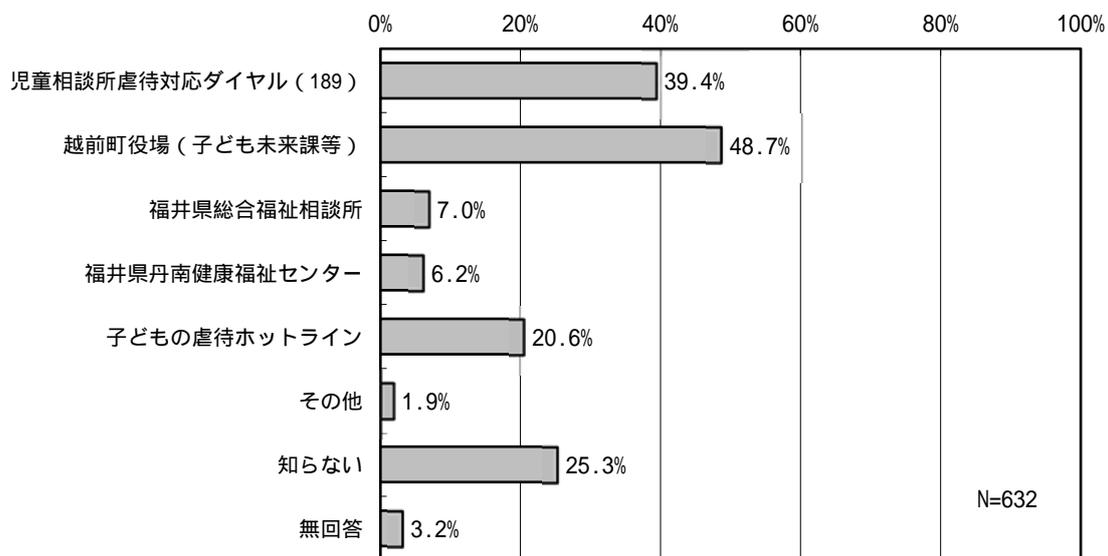
「時々ある(あった)」が46.2%で最も高く、次いで「ほとんどない(なかった)」が25.3%となっている。



問 43：虐待に関する通告先や、子育てに関する相談先の認知度（複数回答）

自身が虐待をしたり周りでされているのを発見したりした時の通告先や、子育て親子関係に関する相談先を知っているかを尋ねた。

「越前町役場（子ども未来課等）」が48.7%で最も高く、次いで「児童相談所虐待対応ダイヤル（189）」が39.4%、「知らない」が25.3%となっている。



1 - 13 悩みや不安について

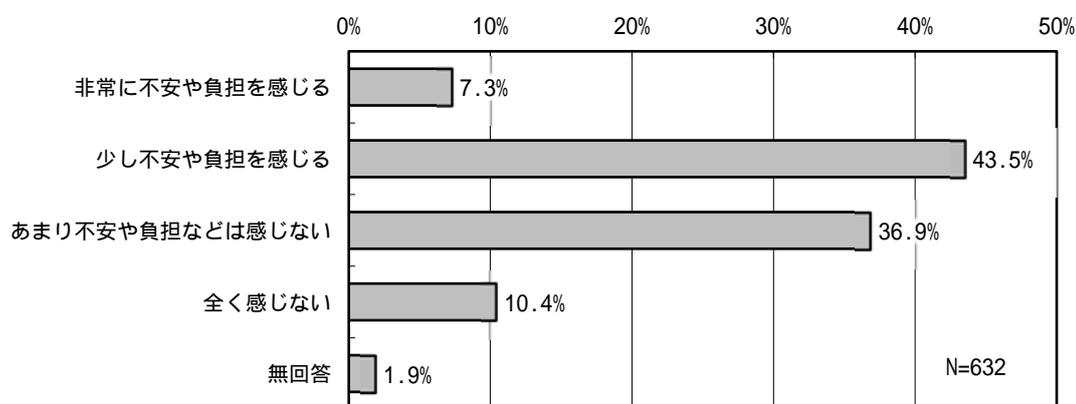
問 44：子育てに関する不安感や負担感

子育てに関して不安感や負担感を感じるかを尋ねた。

「少し不安や負担を感じる」が 43.5%で最も高く、次いで「あまり不安や負担などは感じない」が 36.9%となっている。

「非常に不安や負担を感じる」と「少し不安や負担を感じる」の2つを合わせた『不安や負担を感じる』は 50.8%で、半数以上になっている。

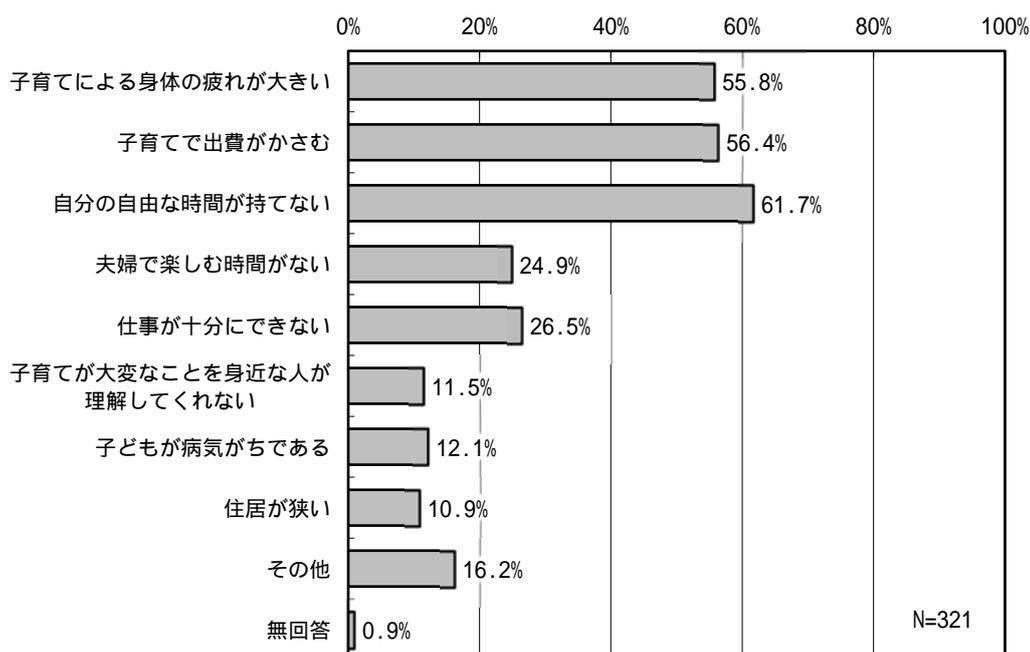
「全く感じない」と「あまり不安や負担などは感じない」を合わせた『不安や負担は感じない』の割合は 47.3%と『不安や負担を感じる』を下回っている。



問 45：子育てに関して特に不安に思っていること、悩んでいること（複数回答）

子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいることを尋ねた。

「自分の自由な時間が持てない」が 61.7%で最も高く、次いで「子育てで出費がかさむ」が 56.4%、「子育てによる身体の疲れが大きい」が 55.8%となっている。



1 - 14 子どもの施策について

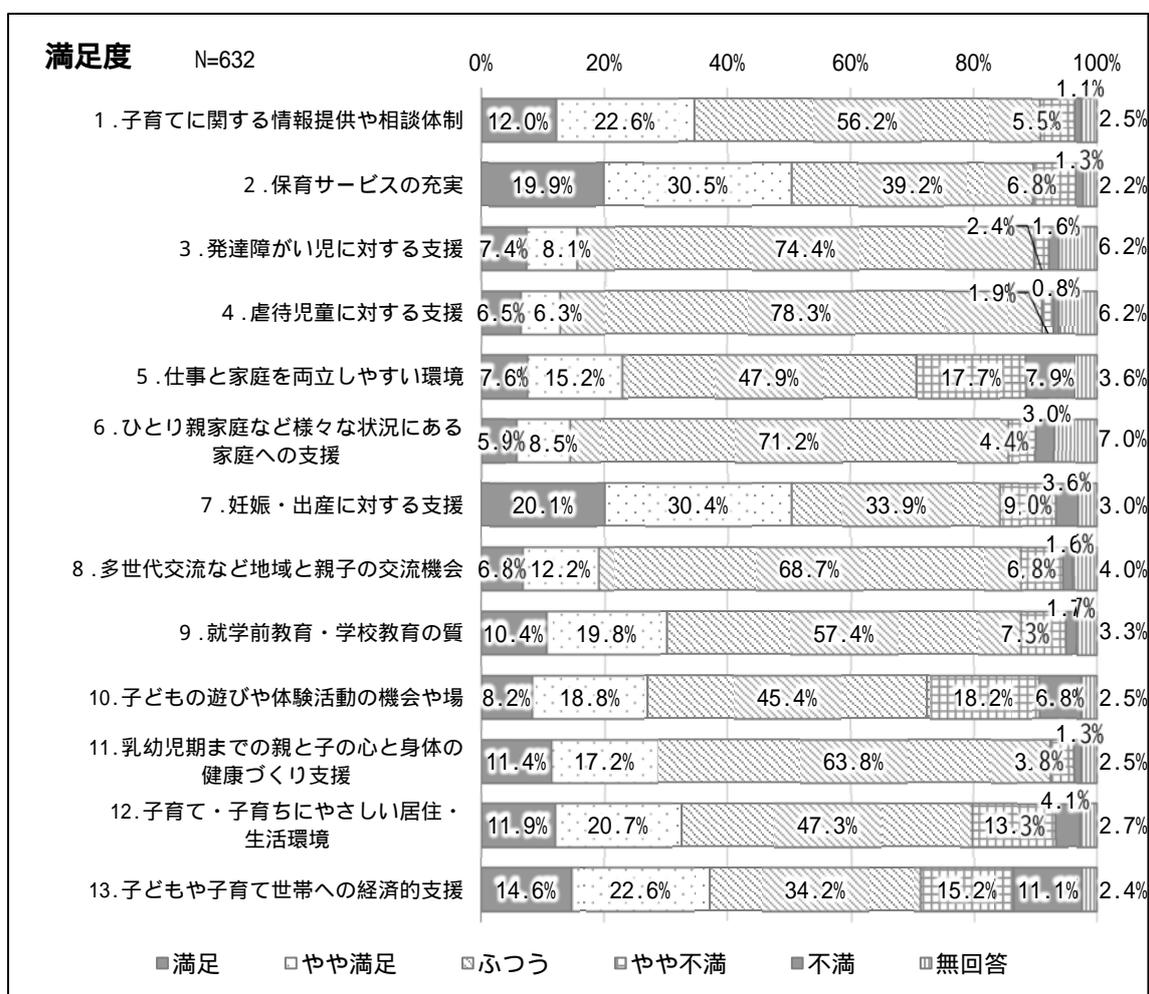
問 46：越前町が子育てしやすい環境であるかについて

越前町が子どもを産みやすい環境だと思うか、5段階評価で尋ねた。

満足度が高かったのは、「妊娠・出産に対する支援」で『満足』と『やや満足』を合わせて50.5%と最も高く、次いで「保育サービスの充実」が50.4%、「子どもや子育て世帯への経済的支援」が37.2%、「子育てに関する情報提供や相談体制」が34.6%となっている。

不満度が高かったのは、「子どもや子育て世帯への経済的支援」で『不満』と『やや不満』を合わせて26.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭を両立しやすい環境」が25.6%、「子どもの遊びや体験活動の機会や場」が25.0%となっている。

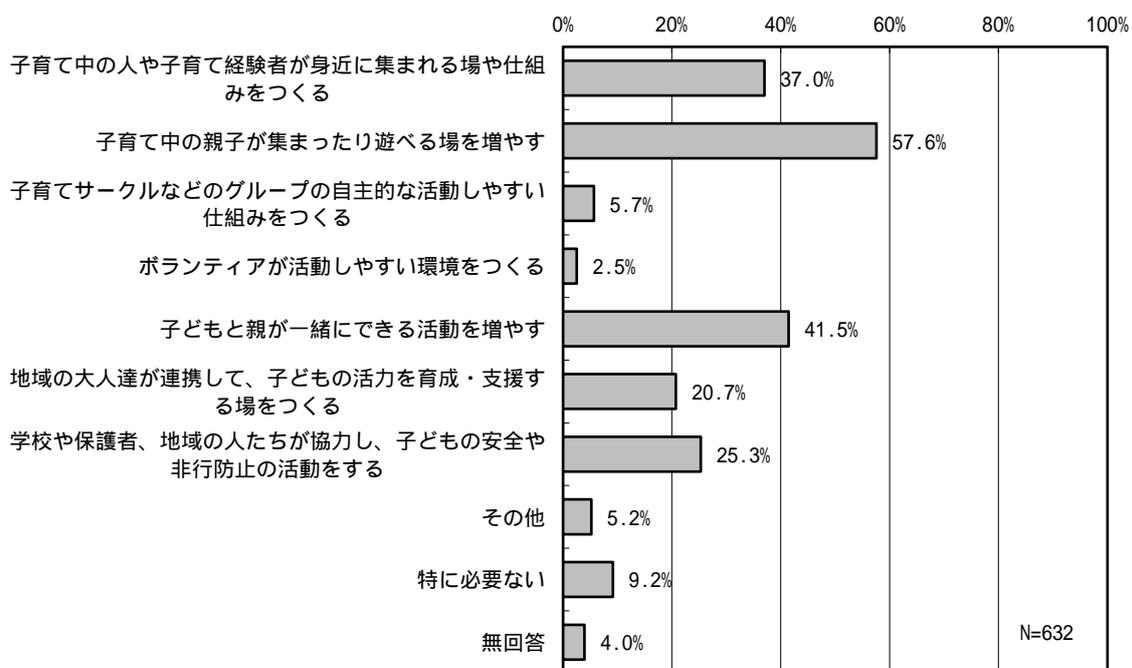
「子どもや子育て世帯への経済的支援」は、満足度も高いが、不満度も高い。



問 47：安心して子どもを産み育てるための地域での取り組みについて（3つまで）

安心して子育てができるためには、地域でどのような取り組みが必要かを尋ねた。

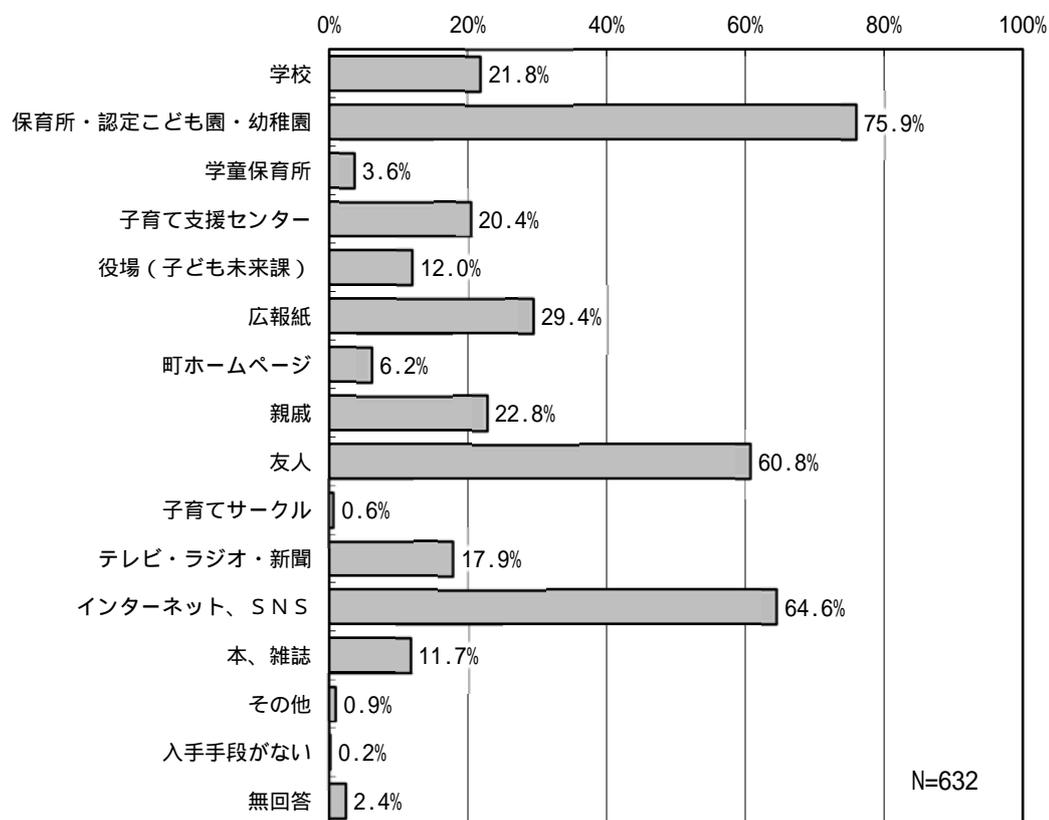
「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が57.6%で最も高く、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が41.5%、「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる」が37.0%となっている。



問 48：子育てに関する情報の入手先（複数回答）

子育てに関する情報の入手先を尋ねた。

「保育所・認定こども園・幼稚園」が 75.9%で最も高く、次いで「インターネット、SNS」が 64.6%、「友人」が 60.8%となっている。

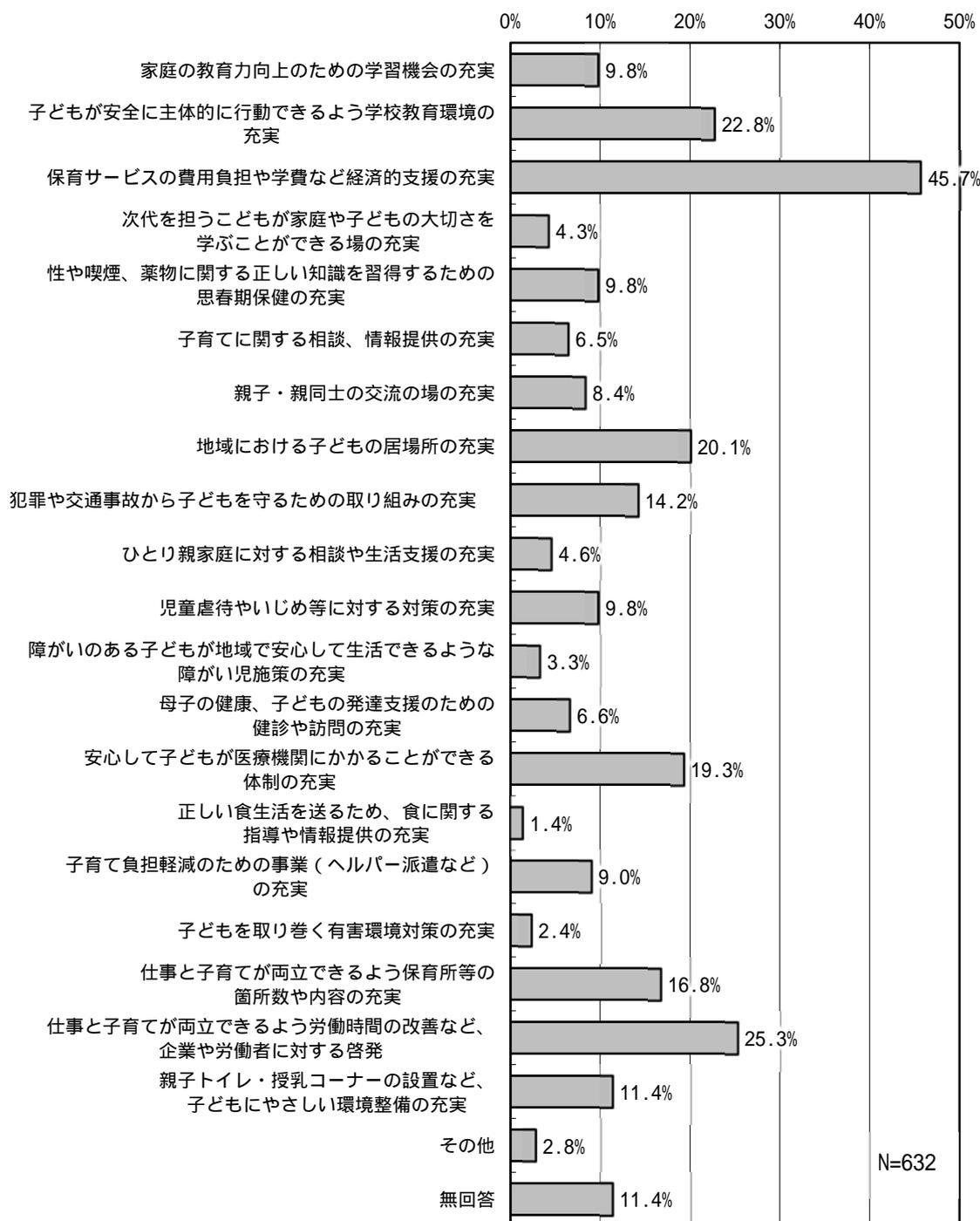


問 49：越前町の子育て支援施策への期待・重要（3つまで）

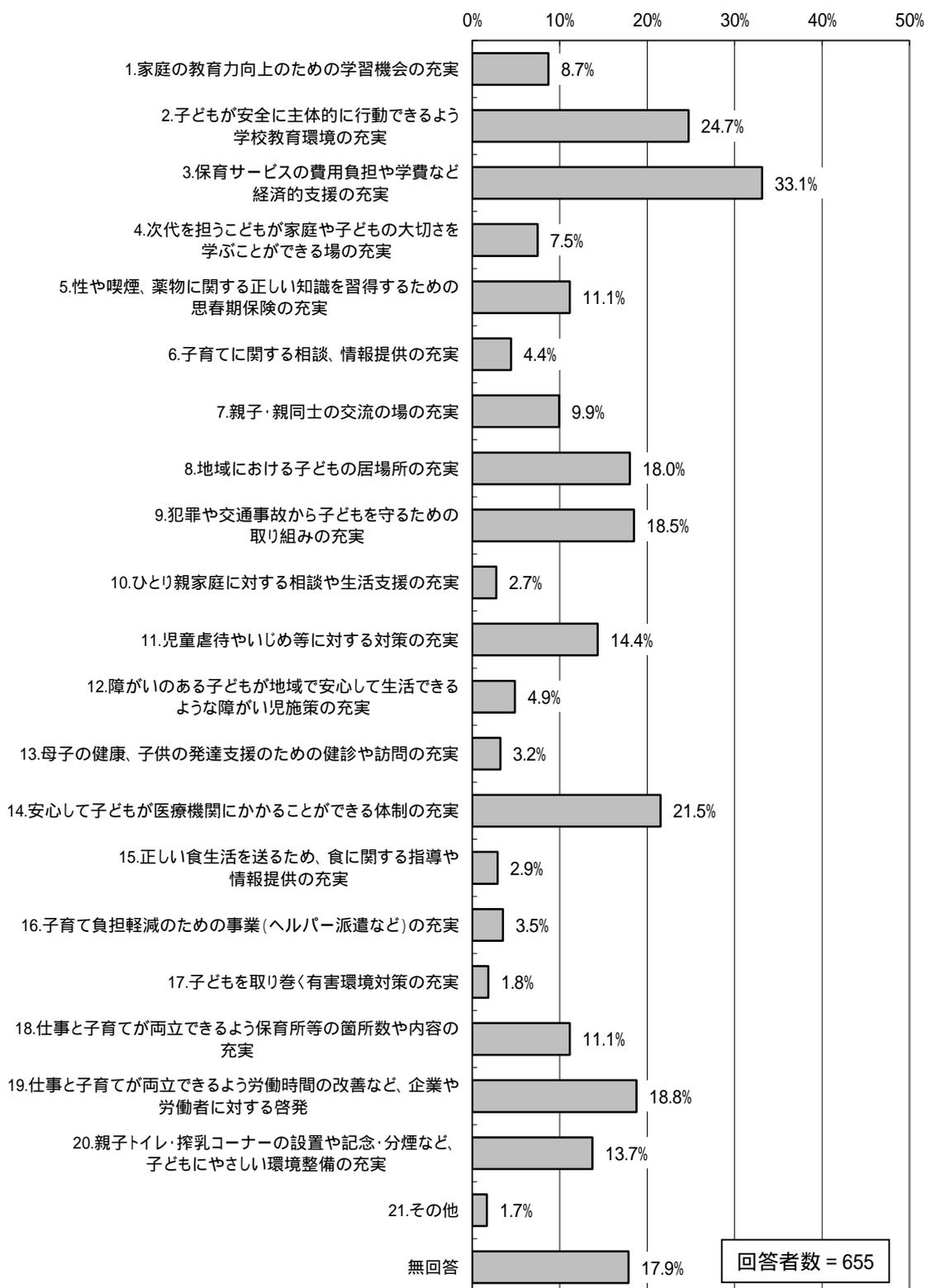
越前町の子育て支援施策に期待すること・重要なことは何かを尋ねた。

「保育サービスの費用負担や学費など経済的支援の充実」が 45.7%で最も高く、次いで「仕事と子育てが両立できるよう労働時間の改善など、企業や労働者に対する啓発」25.3%、「子どもが安全に主体的に行動できるよう学校教育環境の充実」が 22.8%となっている。

平成 30 年度調査結果と比べると、「保育サービスの費用負担や学費など経済的支援の充実」が約 13 ポイント増加している。



【平成 30 年度調査結果】



教育・保育環境の充実など子育て支援に関する意見（自由意見）

（１）子どもたちの遊び場・居場所について（３９件）

- 室内で遊べる場や公園の整備、土・日曜日でも利用できる施設に関する意見が多い。
 - ・土日祝日に室内で遊べる広い施設があると良いです。雨の日や雪の日に困っています。
 - ・公園づくりや整備をする時に、地域によって偏りがあるのは困ります。越前地区から朝日地区は遠いです。同じ越前町でも朝日地区のみ充実させているように感じるような町づくりはやめて欲しい。越前地区にも子供がいて育てる大人がいることを忘れないで欲しいです。
- 公園の遊具に関する意見も多く、小さい子どもも遊べるものなど遊具の充実、安全のための遊具の点検が求められている。
 - ・町内の公園の遊具が劣化に伴い、滑り台等遊具がどんどんなくなっています。子供を遊ばせるために、武生などまで行かないといけないことが多くとても不便です。撤去したらすぐ新しいものを取りつけていただき、新しい遊び場を作る等子供が安全に楽しく過ごせる場所を作ってほしいです。
 - ・公園の遊具や川など子供が遊んでも危なくないように錆びていたり腐っていないか点検してほしい。蜂の巣やヘビといった危険動物も定期的に駆除してほしい。

（２）経済的支援について（２７件）

- 経済的支援として、育児用品購入助成事業の年齢延長を望む意見や保育料の軽減を求める意見がみられる。
 - ・オムツ・ミルク補助券、１歳まででなく期間を延長してほしい。
 - ・勝山市が２０２４年９月より第１子の保育料無償化とするように、越前町も第１子より保育料無償化となるとよい。

（３）保育サービスについて（２２件）

- 時間の延長、オムツ・おしりふき等のサブスクや習い事の導入など保育サービスの充実に望まれている。
 - ・オムツ・おしりふきのサブスクの導入。保育所とスクール（スイミング、ダンスなど）の連携。
 - ・子供に習い事をさせたいと思いますが、何に興味を持つかわかりません。できれば保育園でダンスやピアノ、水泳など何でも良いので行うことが出来ないかなと思うことがあります。福井の保育園ではダンスの授業があり、卒園後も継続して通うことが出来ると知人が言っていました。子供の可能性や個性を伸ばせるような事業があればと思います。

（４）相談・交流の場について（１２件）

- 子育て支援センターの土・日曜日、同じ月齢児との交流やイベントを望む意見もみられる。
 - ・子育て支援センターが休日当番医のように土日祝日も開いていればとずっと思っていました。丹南広域で考えれば武生駅のところがあると思いますが、雨・寒い日は混んでいそうで近づけず。パパも土日いないことが多いので、下の子が小さい時はちょっとしんどかったです。
 - ・支援センター、すごく利用させていただいています。素敵な先生、イベント、親子に出会える場で、私も気分転換となり助けられました。これからも、是非続けて行ってほしい

いです。ただ、先生方の負担も大きかったりと思うので、ボランティアさんとかでも入って一緒に子育てを見てもらったりするといいいのかなあとも思います。その他にもイベントを増やしてほしいとも思っています。（多すぎても困るので難しいですが・・・）越前町は子育て、子供、ママにとってもやさしいと感じています。これからも小さな子～学生まで長い期間でのサポートしてくれることを期待しています。

（５）その他（37件）

○子どもに安全な環境づくりや地域での子育て支援、小児医療体制の整備、子育て支援サービスに関する情報提供を求める意見がある。

- ・最近、子供が巻き込まれる犯罪や事故が増えているので、安心安全にすめるような地域になってほしいと思う。
- ・近くに小児科がないので、小児科があるといいなと思います。
- ・支援センターの情報が少ない。利用してみたいので、もっとチラシ等で写真などを見てみたいです。

○小学校の合併に関する意見もみられる。

- ・小学校の合併をもっとスムーズに進めてほしい。進捗がしりたい。 ・こどもの室内遊び場（土・日）がないので、観光客も使いやすい室内遊び場がほしい。アクティブハウス体育館を改築するといいいのではないか。

（回答者数=114人、回答件数=139件）